この日、日本代表が決まる。

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

2019.9.15 SUN.

MEN 8:50
WOMEN 9:10
START

コース：明治神宮外苑発着
（日本陸上競技連盟公認コース）

マラソングランドチャンピオンシップ
兼 東京2020オリンピック日本代表選考競技会
兼 第103回日本陸上競技選手権大会

男子:TBSテレビ系列全国ネット、TBSラジオ(ラジオ中継)　女子:NHK総合、NHKラジオ(ラジオ中継)

主催/主管：日本陸上競技連盟　共催：朝日新聞社、産経新聞社、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社　後援：東京都、港区、渋谷区、新宿区、千代田区、文京区、中央区、台東区　運営協力：東京陸上競技協会、東京マラソン財団　特別協賛：東京地下鉄株式会社

特別協賛：東京メトロ　協賛：バイトル　ANESSA　asics　SUBARU　協力：近畿日本ツーリスト　シミズオクト

OFFICIAL PROGRAM

dip
Labor force solution company

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

この日、日本代表が決まる。

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

OFFICIAL PROGRAM
CONTENTS

ご挨拶

04 横川　浩　公益財団法人日本陸上競技連盟 会長
山村明義　東京地下鉄株式会社 代表取締役社長

07 レース展望
08 男子 「4強」軸に激戦必至
12 女子　実力拮抗のサバイバルレース

レジェンドたちの戦略「私ならこう戦う」
14 谷口浩美（東京世界選手権男子マラソン金メダル）
16 高橋尚子（シドニー五輪女子マラソン金メダル）

出場者名鑑

18 エントリーリスト
19 名鑑男子
36 名鑑女子

MGCシリーズ プレイバック

42 2017-18シリーズ
44 2018-19シリーズ

46 MGC設立の経緯と想い
瀬古利彦（日本陸連マラソン強化戦略プロジェクトリーダー）
×
河野　匡（日本陸連長距離・マラソンディレクター）

INFORMATION

48 大会要項
49 競技役員
50 東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考要項
52 コースマップ
54 日本歴代記録&世界歴代記録
56 オフィシャルスポンサー

お客様の1秒1秒を
大切にし、運転技術も
進化させていきます。

運転部 銀座線乗務管理 運転士

これは未来を支える骨格です。
日々の業務に
細心の注意を払っています。

改良建設部 第二工事事務所
渋谷駅工事監理担当

安全。
安心。
メトロの目

毎日のお客様のために　未来のお客様のために

TOKYO 2020
東京メトロ
TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020オフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）

ご挨拶

公益財団法人日本陸上競技連盟 会長

横川　浩

「夢の舞台への切符を掴むのは誰だ」。４年に一度のスポーツの祭典、オリンピック・パラリンピックが間もなく東京にやってきます。東京2020オリンピック・パラリンピックの開幕まで１年を切り、東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考競技会「マラソングランドチャンピオンシップ（ＭＧＣ）」に男子31名、女子12名がエントリー、決戦の舞台を迎えました。

総勢43名は、2017年夏から2019年春までの２シーズンにわたり開催したＭＧＣシリーズより勝ち抜いた者、対象期間内の設定条件によるワイルドカードを満たした者など、多種多様な強みや特長、潜在能力を持つ強者たちが集いました。

ＭＧＣのコースは、明治神宮外苑いちょう並木をスタートとして、東京のランドマークとなる名所を走り抜け、浅草寺雷門前から後半は日本橋、銀座中央通り、増上寺や皇居前などを通過、再び明治神宮外苑へ戻ってフィニッシュいたします。このコースは、スタートとフィニッシュは明治神宮外苑から新国立競技場に移りますが、それ以外は、2020年東京オリンピックの男女マラソンと同じコースとなります。

ＭＧＣのレースは、厳しいマラソン日本代表選手選考、そしてマラソンの醍醐味を多くの方々に知っていただく機会であるとともに、間近に迫る東京2020に向けた機運をさらに醸成させていくものだと思っております。参加選手の皆さんは、最高のパフォーマンスを発揮し、白熱したレースを制し、東京2020の日本代表選手の座をつかんでください。そして来年の東京でTEAM JAPANが大いに活躍してくれることを強く期待しております。

また、本大会は、東京2020の成功に向けて競技及び大会運営能力を高めるために、大会マラソン競技のテストイベントとして位置づけ、本連盟としても関係各位に最大限の協力をしてまいります。

結びに、本大会の開催に際し多大なるお力添えを頂きました東京地下鉄株式会社をはじめ、多くの皆様に厚く御礼申し上げますとともに、すべての選手のご健闘を心より祈念し、あいさつといたします。

横川　浩

東京地下鉄株式会社 代表取締役社長

山村 明義

「マラソングランドチャンピオンシップ（以下、「ＭＧＣ」）」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに、当社の沿線で開催されるＭＧＣの成功に特別協賛社として寄与できることに誇りを感じております。

「東京を走らせる力」。東京メトロは、首都圏の鉄道ネットワークの中核を担う交通事業者として、安全で快適な世界トップレベルの輸送サービスを提供するとともに、地域や外部との積極的な連携を通じて、都市での移動と暮らしに価値を提供し、東京に集う人々の活き活きとした毎日に貢献したいと考えております。

「東京を走らせる力」には、「挑戦」とそれを支える「志」が大切です。

当社もオフィシャルパートナー（旅客鉄道輸送サービス）として協賛する東京2020オリンピック競技大会におけるマラソン日本代表選手を決定するＭＧＣにおいて、高い志を胸に抱き、挑戦する男子31名、女子12名の選手の皆様の姿は、同じように未来へ向かって日々奮闘する多くの皆様に感動を届けることはもちろんのこと、当社が目指す企業姿勢とも合致するものです。

また、「教育、スポーツ、文化の支援」を通じて首都東京の発展に貢献できることは大きな喜びであり、東京メトログループのグループ理念である「東京を走らせる力」の実現に向け、当社もより一層の挑戦を続けてまいりたいと思います。

結びに、このような国内外の注目を集めるビッグレースの開催を実現された公益財団法人日本陸上競技連盟をはじめ、関係者の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、ＭＧＣの成功を心より祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

山村明義

ぜんぶ、カラダなんだ。

晴れやか。まっさら。透明。無敵。走り終わった後のあの感覚は、ただの爽快感じゃない。それは、カラダが活性化され、アタマもココロも覚醒している証。そう、はじまりはカラダなんだ。喜怒哀楽も集中力もやさしさもアイデアも、すべてはカラダから生まれている。私たちは証明したい。活性化したカラダが、あなたの可能性を開くことを。その先に、もっとすごい自分が待っていることを。すべては、はじまりは、大切なのは、ぜんぶ、カラダなんだ。

asics
I MOVE ME™

e-BOXER 走りに自由を。e-BOXER搭載。

予防安全性能評価 最高ランク獲得

過去最高得点獲得 衝突安全性能評価大賞

SUBARU XVが国土交通省と独立行政法人 自動車事故対策機構（NASVA）が実施した、2016年度「自動車アセスメント（JNCAP）」において過去最高の得点を獲得し、「衝突安全性能評価大賞」を受賞。また、2016年度「予防安全性能アセスメント」において最高ランクである「ASV++」を獲得しました。

SUBARU XV Line Up

全車に歩行者保護エアバッグ、アイサイトを標準装備。

Advance	2.0i-S EyeSight	2.0i-L EyeSight	1.6i-L EyeSight	1.6i EyeSight
2.0ℓ DOHC 直噴+モーター(e-BOXER) リニアトロニック AWD（常時全輪駆動）	2.0ℓ DOHC 直噴 リニアトロニック AWD（常時全輪駆動）	2.0ℓ DOHC 直噴 リニアトロニック AWD（常時全輪駆動）	1.6ℓ DOHC リニアトロニック AWD（常時全輪駆動）	1.6ℓ DOHC リニアトロニック AWD（常時全輪駆動）
車両本体価格（消費税8%込） 2,829,600円	車両本体価格（消費税8%込） 2,700,000円	車両本体価格（消費税8%込） 2,505,600円	車両本体価格（消費税8%込） 2,268,000円	車両本体価格（消費税8%込） 2,138,400円

PHOTO：Advance ラグーンブルー・パール オプション装着車/Advance サンシャインオレンジ オプション装着車 ●写真は印刷インクの性質上、実際の色とは異なって見えることがあります。●この仕様はお断りなく変更する場合があります。●詳細は店頭またはWEBでご確認ください。●価格にはオプションは含まれておりません。●記載価格はメーカー希望小売価格に消費税8%が含まれた総額表示です。●メーカー希望小売価格は参考価格です。販売価格は各販売店が独自に決めていますので、それぞれにお問い合わせください。●価格はタイヤパンク修理キットとタイヤ交換用工具を含む価格です。●リサイクル料金、税金（消費税を除く）、保険料、登録等に伴う諸費用等は別途必要となります。●登録等に伴う手続代行費用については別途消費税が必要となります。●［エコカー減税について］詳しくは販売店にお問い合わせください。●［アイサイトについて］本システムは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。ドライバーの前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良での運転を支援する装置ではありません。また、あらゆる状況での衝突を回避するものではありません。認識性能・制御性能には限界があります。●環境にやさしいエコドライブで、安全運転を。［SUBARU お客様センター］ SUBARUコール 0120-052215 受付時間 9:00～17:00（平日）、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00 ※平日の12:00～13:00及び土日祝は各インフォメーションサービスのみとなります。展示車情報はこちら www.subaru.jp

さらに詳しい情報はWEBでチェック www.subaru.jp/xv

XV

安心と愉しさを。SUBARU

MGC レース展望

RACE PREVIEW

男女とも上位2人が五輪代表に内定

順位狙う「心理戦」を制するのは誰か？

2017年から始まったマラソンの新たな五輪代表選考システム・マラソングランドチャンピオンシップ（MGC）が、いよいよ大きなヤマ場を迎えた。9月15日、新国立競技場にほど近い東京・明治神宮外苑いちょう並木を発着点とし、来年の東京五輪とほぼ同じコースで行われるマラソンレースで、男女各2人ずつの五輪代表選手が決まる。残る1人は今年の12月から始まる「MGCファイナルチャレンジ」で派遣設定記録（男子：2時間5分49秒、女子：2時間22分22秒）を突破した最上位選手で、1人もその記録を突破できなかった場合はMGC3位の選手に出番が回ってくる。午前8時50分スタートの男子に31人、午前9時10分の女子には12人がエントリー。順位だけが求められる42.195kmの戦いは、果たしてどんな展開になるのだろうか――。

レース展望 男子
RACE PREVIEW MEN
「4強」軸に激戦必至
ベテラン、若手が入り交じる歴史的レース

持ちタイム上位4人が中心

まず、男子マラソンの日本歴代記録（P54）を見ていただきたい。この中で10傑までに名を連ねる現役選手は4人。昨年10月のシカゴで2時間5分50秒と、日本人で初めて2時間5分台に突入した大迫傑（Nike）が現・日本記録保持者。同年2月の東京で16年ぶりに歴史を動かした設楽悠太（Honda）の2時間6分11秒は、8ヵ月足らずで「前日本記録」になってしまった。

この日本歴代1位、2位の2人に、設楽と同じ東京で2時間6分54秒をマークした井上大仁（MHPS）、昨年12月の福岡国際で14年ぶりの日本人優勝を果たし、2時間7分27秒をマークした服部勇馬（トヨタ自動車）を加えた記録上位の4人が、MGCでもそのまま優勝候補に名が挙がる。世間で言うところの〝4強〟だ。

力のあるこの4人がレースの軸になることは間違いないだろう。夏のマラソンで結果を出しているのは井上。昨年のジャカルタ・アジア大会では後にアジア記録（2時間4分43秒）を樹立することになるエル・ハッサン・エル・アバッシ（バーレーン）に同タイムで競り勝ち、金メダルを獲得している。7月半ばから約1ヵ月取り組んだボルダー（米国コロラド州）合宿では、アジア大会前の練習を踏襲しつつさらに上積みし、「優勝を狙えるだけの練習はできた」と自信を持って帰国した。ジャカルタで試みた暑熱対策にも抜かりがない。

1991年生まれの同期、大迫と設楽は、停滞していた日本の男子マラソン界を大きく躍進させた立役者。7月22日のホクレン・ディスタンスチャレンジ第5戦網走大会で、10000mを一緒に走った。その後、米国に戻ってボルダーで高地トレーニングをこなした大迫は、MGCがマラソン5戦目。途中棄権した今年の東京を除けば、3位が3回。本人は「2位以内に入れれば」と口にしているが、勝って代表入りを決めたいはずだ。

冬場から春先にかけて不調だった設楽は、7月7日のゴールドコーストで昨年12月の福岡国際以来のマラソンレースに復帰。2時間7分50秒の大会新記録で自身初の優勝を飾り、「MGCは勝つイメージしかない」と、彼本来の強気な姿勢も戻ってきた。

服部は4月に虫垂炎を患ったが、設楽が出場したゴールドコーストのハーフの部に出て、1時間2分39秒で3位。その後、標高2000mの米国ユタ州パークシティで2度合宿し、9月15日にピークを合わせた。遅いペースになっても「最後まで順番を取りに行くということを忘れなければ、じれることはないと思う」と、福岡で勝ったようにじっくり勝機をうかがう構えだ。

32歳の佐藤、最年長36歳の中本も虎視眈々

精神的にもタフさが求められる一発選考レースで、〝ベテランの味〟は見逃せない。特に経験豊富な32歳の佐藤悠基（日清食品グループ）がマラソンでの初代表を狙っており、〝4強〟に迫る高い評価を得ている。ゴールドコーストのハーフでは、服部に3秒先着した。

男子最年長は36歳の中本健太郎（安川電機）。2012年のロンドン五輪6位、13年のモスクワ世界選手権5位と夏のレースで連続入賞した実績は侮れない。続く35歳が今井正人（トヨタ自動車九州）と岡本直己（中国電力）。この2人も粘りは天下一品。岡本は昨年の北海道を制している。

岩田勇治（MHPS）は高卒で実業団に入って14年目。今年1月の全日本実業団対抗駅伝でアンカーを務め、優勝した旭化成に食らいついて注目を集めた。それを契機にブレイクし、MGCへ進出してきた。MHPSからはもう1人、キャプテンの木滑良も〝井上効果〟で力をつけてきている。

コニカミノルタからは三十路コンビの山本浩之と谷川智浩の2人。駅伝などで着実に走る印象があり、33歳の山本は2016年のニューヨークシティ4位の実績がある。30歳の園田隼（黒崎播磨）は、井上と出場したアジア大会で4位に入っており、今年4月のボストンも井上と一緒に出て、起伏のあるコースを経験してきた。

服部が所属するトヨタ自動車は、1チーム最多の4人をMGCに送り込んできた。その中で、藤本拓はレース4日前に30歳になったばかり。MGCシリーズ期間中では〝4強〟に

男子出場選手 種目別自己ベストランキング

マラソン		ハーフ		10000m		5000m	
2.05.50	大迫　傑	1.00.17	設楽　悠太	27.38.25	佐藤　悠基	13.08.40	大迫　傑
2.06.11	設楽　悠太	1.00.53	宮脇　千博	27.38.31	大迫　傑	13.13.60	佐藤　悠基
2.06.54	井上　大仁	1.01.01	大迫　傑	27.41.57	宮脇　千博	13.33.51	堀尾　謙介
2.07.27	服部　勇馬	1.01.04	神野　大地	27.41.97	設楽　悠太	13.34.68	設楽　悠太
2.07.39	今井　正人	1.01.31	藤本　拓	27.50.59	村澤　明伸	13.34.85	村澤　明伸
2.07.57	藤本　拓	1.01.36	鈴木　健吾	27.55.40	山本　浩之	13.35.74	宮脇　千博
2.08.08	木滑　良	1.01.39	井上　大仁	27.56.27	井上　大仁	13.36.76	服部　勇馬
2.08.16	中村　匠吾	1.01.40	服部　勇馬	27.58.87	藤川　拓也	13.37.71	岡本　直己
2.08.35	中本健太郎	1.01.46	藤川　拓也	28.05.79	中村　匠吾	13.38.44	井上　大仁
2.08.42	山本　憲二	1.01.47	山本　憲二	28.05.84	岡本　直己	13.38.68	藤本　拓
2.08.45	宮脇　千博	1.01.53	中村　匠吾	28.08.30	藤本　拓	13.38.93	中村　匠吾
2.08.58	佐藤　悠基	1.01.57	堀尾　謙介	28.08.52	河合　代二	13.39.65	一色　恭志
2.09.12	山本　浩之	1.01.58	高久　龍	28.09.02	服部　勇馬	13.40.62	木滑　良
2.09.27	上門　大祐	1.02.09	一色　恭志	28.17.54	神野　大地	13.45.43	山本　浩之
2.09.29	橋本　崚	1.02.12	中本健太郎	28.18.15	今井　正人	13.45.91	河合　代二
2.09.30	岩田　勇治	1.02.16	岡本　直己	28.18.52	木滑　良	13.47.15	今井　正人
2.09.34	園田　隼	1.02.17	谷川　智浩	28.23.40	一色　恭志	13.51.09	谷川　智浩
2.09.36	荻野　皓平	1.02.22	木滑　良	28.24.31	谷川　智浩	13.51.40	藤川　拓也
2.09.43	一色　恭志	1.02.25	福田　穣	28.25.42	大塚　祥平	13.55.41	大塚　祥平
2.09.47	村澤　明伸	1.02.30	佐藤　悠基	28.26.35	山本　憲二	13.55.42	山本　憲二
2.09.52	福田　穣	1.02.32	大塚　祥平	28.30.16	鈴木　健吾	13.56.05	神野　大地
2.10.01	竹ノ内佳樹	1.02.36	今井　正人	28.34.54	堀尾　謙介	13.56.46	竹ノ内佳樹
2.10.02	高久　龍	1.02.41	山本　浩之	28.35.37	橋本　崚	13.57.88	鈴木　健吾
2.10.12	大塚　祥平	1.02.45	河合　代二	28.36.44	竹ノ内佳樹	13.57.89	高久　龍
2.10.18	神野　大地	1.02.55	橋本　崚	28.36.71	高久　龍	13.57.91	橋本　崚
2.10.21	鈴木　健吾	1.03.00	園田　隼	28.44.67	福田　穣	14.02.42	岩田　勇治
2.10.21	堀尾　謙介	1.03.08	竹ノ内佳樹	28.48.22	上門　大祐	14.04.31	中本健太郎
2.10.35	藤川　拓也	1.03.18	荻野　皓平	28.52.49	園田　隼	14.05.64	園田　隼
2.10.50	河合　代二	1.03.20	村澤　明伸	28.53.82	岩田　勇治	14.06.13	上門　大祐
2.11.29	岡本　直己	1.03.28	上門　大祐	28.54.59	中本健太郎	14.09.18	福田　穣
2.11.39	谷川　智浩	1.03.38	岩田　勇治	28.56.00	荻野　皓平	14.14.12	荻野　皓平

レース展望 男子
RACE PREVIEW MEN

Taku Fujimoto
藤本 拓
トヨタ自動車

Shogo Nakamura
中村匠吾
富士通

続く5番目のタイム（2時間7分57秒）を昨年のシカゴでマーク。東京五輪代表権を取って自ら誕生日を祝えるか。宮脇千博は大迫、設楽と同期の「プラチナ世代」。しばらく故障に悩まされたが、MGCのスタートラインに立ったからには10000mで日本歴代10位（27分41秒57）の記録を持つスピードランナーの意地を見せたいところ。トヨタ自動車のもう1人は、男子最年少・23歳の堀尾謙介。中大4年だった今年3月の東京で日本人トップ（5位、2時間10分21秒）になり、名門チームの一員に加わった。

今年11月に30歳になる山本憲二（マツダ）は昨年の東京、今年のびわ湖と至近2回のマラソンで2時間8分台を連発。その安定感が関係者の高評価につながっている。

中村、鈴木ら中堅、若手にもチャンスあり

9月半ばになれば残暑も少し落ち着いてくるだろうが、東京五輪と違って日が昇ってからのレースになるので、台風など悪天候にならない限り気温はまだ高いはず。そうなると力のある選手でも1人で飛び出すのは自制しそう。しばらく相手の様子をうかがう心理戦が展開される中で、なるべく消耗を避け、ジッと我慢ができる選手に勝機が訪れるかもしれない。世間をアッと言わせる「主役候補」は、中堅や若手にも大勢いる。

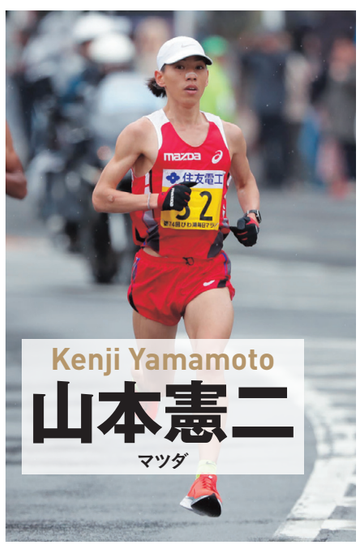
中村匠吾、荻野皓平、鈴木健吾の富士通トリオのうち、昨年9月のベルリンで2時間8分16秒をマークした中村と、今年4月のハンブルクで最後にMGC進出を決めた鈴木は8月中の20日間、米国ユタ州パークシティで高地トレーニングを積んできた。駒大時代、中村の2つ後輩として同じ釜の飯を食べた大塚祥平（九電工）も、着実に力をつけて来ている。

出身大学別に見ると、設楽、服部らの東洋大が5人で最多。ダブル山本に加え、ラストチャンスのハンブルクを走ってワイルドカードでMGC入りした髙久龍（ヤクルト）も忘れてはならない。

それに続くのが青学大の4人。橋本崚、一色恭志（ともにGMOアスリーツ）、藤川拓也（中国電力）と、遠くケニアにトレーニング場所を求めた神野大地（セルソース）だ。大分出身の橋本は今年2月、地元の別府大分でMGCの出場権をつかんだ。3月のびわ湖でMGC出場の権利を得た河合代二（トーエネック）は、ドーハ世界選手権の補欠でもある。

大迫とともに2017年12月の福岡国際で早々にMGC出場を決めていたのが、上門大祐（大塚製薬）と竹ノ内佳樹（NTT西日本）。服部が優勝した翌年の福岡では、福田穣（西鉄）が地元のマラソンで達成した。そして2年前の夏、北海道で真っ先にMGCへ名乗りを上げたのが、村澤明伸（日清食品グループ）だった。それぞれ長い準備期間を経て、運命のスタートラインに立つ。

果たして誰が、どこで、どのように勝負を仕掛けるのか。スタートからフィニッシュまでの2時間余、一瞬たりとも見逃せない筋書きのないドラマが今、始まる――。



Kenji Yamamoto
山本憲二
マツダ

Masato Imai
今井正人
トヨタ自動車九州

Daiji Kawai
河合代二
トーエネック

KNT SPORTS
スポーツの感動を共有しよう！
Knt 近畿日本ツーリスト

レース展望 女子

RACE PREVIEW WOMEN

実力拮抗のサバイバルレース
「12分の2」を勝ち抜くのは？

前田穂南、松田、鈴木がシリーズ大会で優勝

出場者が12人しかいない女子はもちろん精鋭ぞろいで、全員がライバルになる。おそらく1つのかたまりでレースは推移するのだろう。そのサバイバルゲームから脱落した時点で、東京五輪代表の夢は遠のいていく。何としても食らいついていかなければならない。

力が拮抗している中で、MGCシリーズの各大会を制している3人を、まず優勝候補として挙げたい。2017年8月の北海道で勝った前田穂南（天満屋）、18年1月の大阪国際女子で初マラソン初優勝を飾った松田瑞生（ダイハツ）、そして同年の北海道チャンピオン・鈴木亜由子（日本郵政グループ）だ。鈴木も松田と同様、初マラソン初優勝だった。

女子の「MGCファイナリスト第1号」になった前田は、大阪・薫英女学院高で松田の1年後輩。18年の大阪国際女子で直接対決し、2時間22分44秒で優勝した松田に1分余遅れて2位だった。同年9月のベルリンでも一緒に走って、松田が大阪の記録を縮める2時間22分23秒の自己ベストで5位。前田は松田から遅れること3分。7位に終わっている。先輩に2連敗している前田が、前回のリオデジャネイロ大会で途絶えたチームの「4大会連続」という女子マラソン五輪代表入りの歴史を、復活させることができるかどうか。

松田は5月中旬の日本選手権10000mに出場した後すぐに米国へ飛び、チームメイトの前田彩里とともにアリゾナ州フラッグスタッフで9月3日まで長期合宿を敢行した。その間はレースに出ず、MGCだけを見据えた高地トレーニングを積んだようだ。浪速娘の心意気が東京のコースで弾けると、あの高らかな笑い声が神宮外苑のいちょう並木に響き渡るかもしれない。

トラックの5000mや10000mで世界選手権、オリンピックに出場してきた鈴木は、そのキャリアで秀でている。ただ2017年、18年の日本選手権10000mでは、先にスパートをかけながらフィニッシュ手前で松田に逆転を許し、2位に甘んじた苦い記憶がある。まだ1回しかマラソン経験がない鈴木がロードに舞台を移して、どう松田を攻略するか。

松田だけでなく女子の本命は皆、アメリカで調整。前田穂南はアルバカーキ、鈴木はボルダーと各地に分かれていても、相手の息遣いを身近に感じていたのではないだろうか。

熾烈なチーム内競争も力に

女子のチーム最多はワコールで、福士加代子、一山麻緒、安藤友香の3人。スズキ浜松AC時代に出した安藤の2時間21分36秒は、出場選手の持ちタイムでトップ。2番目が福士の2時間22分17秒だ。37歳の福士は最年長、22歳の一山が最年少出場者になる。

多彩なトリオとなったワコールは、永山忠幸監督が常に「世界で戦えるレベル」を選手たちに意識させており、MGCも「東京五輪で勝つ」ための作戦で挑んでくるはず。練習の段階から切磋琢磨してきたベテランと若手が、どのようなレースをするのか見ものだ。

天満屋も前田だけでなく、リオ五輪代表を1秒差で逃した小原怜がおり、チーム内にライバルがいる環境で練習をやってきた。武冨豊監督は「それぐらいの修羅場をくぐらないと代表にはなれない」と手厳しい。

ダイハツの松田にも前田彩里、日本郵政グループの鈴木には関根花観というチームメイトがいて、それぞれ本来の力を取り戻していれば怖い存在。前田は2015年の北京世界選手権にマラソンで出場、関根は16年のリオ五輪に10000mで代表入りしている実力者だ。

リオ五輪に5000mで出場し、決勝に駒を進めた23歳の上原美幸（第一生命グループ）は、1991年東京世界選手権の女子マラソンで銀メダルを獲得した山下佐知子監督の秘蔵っ子。代表入りして、新国立競技場に日の丸を掲げたい気持ちは、人一倍強いだろう。

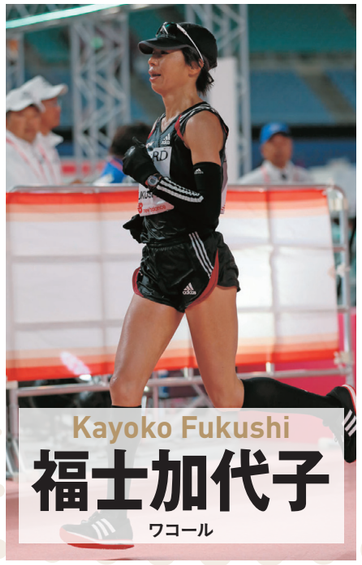
ダークホース的存在が岩出、野上

実業団を辞めてプロランナーになり、マラソン一本に絞って東京五輪代表を狙ってきたのが、岩出玲亜（アンダーアーマー）。専属トレーナーに付いてフィジカル・トレーニングをこなし、フォーム改善にも成功。24歳だが、すでに8回のマラソン経験があり、あなどれない存在になりそうだ。

もう1人、33歳・野上恵子（十八銀行）のレースにも注目してほしい。マラソン歴は岩出と同じ8回だが、マラソンを始めた年齢が岩出より10年も遅く、まだ4年のキャリア。それで、昨年のジャカルタ・アジア大会では銀メダルを獲得した。5月の仙台国際ハーフマラソンでは1時間9分27秒の自己新記録で優勝しており、今が「成長期」かもしれない。

この12人の中からMGCで2人の代表選手が決まるが、代表切符を逃した女子選手は、おそらく最後の「MGCファイナルチャレンジ」で再挑戦してくるだろう。というのは、男子の派遣設定記録（2時間5分49秒）は大迫の記録を上回る「日本新」だが、女子（2時間22分22秒）はMGCシリーズで出された最高記録（2時間22分23秒／松田）が日本記録（2時間19分12秒）より3分も悪い。男子よりはるかに狙いやすい設定なのだ。

とはいえ、本番での活躍を考えるならここで決めて、余裕を持ちながら準備していくことが大事。「後はない」と思って臨んだ方がいい。



女子出場選手 種目別自己ベストランキング

マラソン		ハーフ		10000m		5000m	
2.21.36	安藤　友香	1.07.26	福士加代子	30.51.81	福士加代子	14.53.22	福士加代子
2.22.17	福士加代子	1.07.55	鈴木亜由子	31.18.16	鈴木亜由子	15.08.29	鈴木亜由子
2.22.23	松田　瑞生	1.08.49	一山　麻緒	31.22.92	関根　花観	15.21.40	上原　美幸
2.22.48	前田　彩里	1.09.12	前田　穂南	31.38.80	上原　美幸	15.24.17	一山　麻緒
2.23.07	関根　花観	1.09.13	上原　美幸	31.39.41	松田　瑞生	15.24.70	野上　恵子
2.23.20	小原　怜	1.09.17	小原　怜	31.48.31	小原　怜	15.24.74	関根　花観
2.23.48	前田　穂南	1.09.27	野上　恵子	31.49.01	一山　麻緒	15.32.22	前田　彩里
2.23.52	岩出　玲亜	1.09.45	岩出　玲亜	31.58.71	安藤　友香	15.32.67	安藤　友香
2.24.19	上原　美幸	1.09.47	安藤　友香	32.03.43	前田　彩里	15.38.16	前田　穂南
2.24.33	一山　麻緒	1.10.24	前田　彩里	32.07.70	野上　恵子	15.39.47	小原　怜
2.26.33	野上　恵子	1.10.25	松田　瑞生	32.13.21	岩出　玲亜	15.42.50	岩出　玲亜
2.28.32	鈴木亜由子	1.12.42	関根　花観	32.13.87	前田　穂南	15.46.40	松田　瑞生

MGC

レジェンドたちの戦略

「私ならこう戦う」

東京世界選手権 男子マラソン金メダル

谷口浩美

Hiromi Taniguchi

（宮崎大学教育・学生支援センター特別教授）

1991年東京世界選手権で日本に大会唯一の金メダルをもたらした谷口浩美氏（当時・旭化成）

世界を制した経験から、MGC攻略のヒントを語ってくれた

かつて国立競技場を発着点に行われていた東京国際マラソンを何度も走り、ほぼ同じコースで開催された1991年の第3回世界陸上競技選手権東京大会男子マラソンで見事に金メダルを獲得した谷口浩美（当時・旭化成/現・宮崎大学教育・学生支援センター特別教授）。9月1日の閉会式当日、午前6時スタートのレースは朝から蒸し暑かったが、上り勾配にさしかかる38.4kmでスパートし、完走36人、途中棄権24人の壮絶な戦いに決着をつけた。最終日になって日本チームに唯一の金メダルをもたらした谷口氏がMGCに臨むなら、どんな準備をして、どう戦うだろうか――。

どうやって「チャンスあり」と思えるか

最初にお断りしておきますが、私は高校生の時からずっと「何番までに入る」という選考が懸かったレースが苦手で、すごく弱かった。最たるレースがソウル五輪の代表選手選考会を兼ねた1987年12月の福岡国際マラソンで、６位と惨敗しました。その年は２月の東京国際、４月のロンドンとマラソンで２連勝し、「代表は間違いなし」と言われて出場した大会でした。ですから、このMGCも、私にとっては厳しい関門になるはずです。

狙うのは順番なので、20kmまではやはり流れに乗るしかないと思います。私はマラソンを２分割し、「ハーフ・ハーフ」と考えます。前半のハーフでレースが動いていない時には、そこから動かします。あまりにも暑くて前半が超スローだったら、自分がある程度犠牲になって５km15分30秒ぐらいのペースで仕掛けていくかもしれません。ラストのスピードがない私は、なるべく集団の人数を絞っていきたいですから。

１位、２位が東京五輪の代表に内定するとわかっているMGCは、早く２人になった方が楽になります。私のように最後のスピード勝負に自信のない選手は、どこかで打って出ないと勝ち目はありません。

同じ負けでも、やれるだけやって、「やっぱりダメだった」という終わり方ができるかどうか。スタートラインに着くまでに、どうやって「チャンスあり」と思えるかどうかが１つの勝負です。せっかくの五輪代表選考レースですから、ただスタートラインに着いただけではおもしろくありません。

あきらめさせるポイントを多く作る

MGCの勝負の分かれ目は、「38km過ぎからの上り勾配」と思っている人は多いと思います。でも、そこでの勝負は最後の一手です。

そこへ行くまでに、どういう展開に持って行くか。戦術は１通りではありません。自分がこう走るという戦術だけでなく、ライバルがどういう戦術で来ても対応できる情報は得ておきたい。

例えば、走り出して「あ、こいつが出てきた。じゃあ、これを使おう」と、情報の出し入れを自分の中でやっていく。自分の周りに誰がいるのかを見て、事前に詰め込んでおいた引き出しから取捨選択して対応するのです。

上り坂に入っても先頭集団に５～６人いたら、東京世界選手権の時のようにそこで勝負します。世界選手権の35km ～ 40kmは16分09秒のスプリットタイムでしたが、東京国際マラソンを走る時、その5kmを15分台で行ければ勝てると思っていました。

上りで仕掛けるのは、肉体的にきついです。でも、自分か相手か、どちらかがオールアウトになるような場面を作らないといけません。自らが仕掛ければ、頭は「ここで勝負」と思っているわけですからフレッシュで、身体は動きます。思い込みが強い時の走りは、身体がついてきます。それが結果的に「悔いを残さない」レース展開になります。

あと、私が選手だったら、チームのスタッフに「誰が給水を取れたか、取れなかったかの情報を教えてくれ」とお願いします。最後の勝負どころで、それは重要な布石になり得ます。

日の丸を掲げ、笑顔でウイニングランをする姿はいまだ色あせない

PROFILE 1960年４月５日生まれ、59歳。171cm、55kg。宮崎県南郷町（現・日南市）出身。南郷中から陸上競技を始め、長距離の道へ。高校駅伝の名門・小林高で全国区の選手に成長し、全国高校駅伝には３年連続で出走、２年３区、３年１区で連覇に貢献した。日体大でも駅伝を中心に活躍し、箱根駅伝では山下りの６区で３年連続区間賞に輝いている。旭化成で宗兄弟指導の下、マラソンランナーとしてひた走り、２年目の1985年別府大分で初マラソン初優勝。1989年～90年には３連勝を飾り、91年東京世界選手権で見事に金メダルを獲得した。翌年のバルセロナ五輪でも優勝候補に挙げられたが、途中の転倒が響いて８位。96年アトランタ五輪は19位だった。自己ベストは２時間７分40秒（88年北京国際）。

谷口浩美のマラソン全成績

回数	開催日	大会名	順位	記録	備考
1	1985. 2. 3	別府大分	優勝	2. 13. 16	
2	1985.12. 1	福岡国際	2位	2. 10. 01	日本歴代７位
3	1986. 2. 9	東京国際	7位	2. 11. 42	
4	1986.10. 5	ソウル・アジア大会	2位	2. 10. 08	優勝は中山竹通
5	1987. 2. 8	東京国際	優勝	2. 10. 06	
6	1987. 5.10	ロンドン	優勝	2. 09. 50	日本歴代７位
7	1987.12. 6	福岡国際	6位	2. 12. 14	五輪選考会、日本人４位
8	1988. 2.14	東京国際	9位	2. 13. 16	
9	1988.10.16	北京国際	2位	2. 07. 40	世界歴代7位、日本歴代2位
10	1989. 3.19	東京国際	優勝	2. 09. 34	
11	1989. 8.27	北海道	優勝	2. 13. 16	
12	1990. 4.22	ロッテルダム	優勝	2. 10. 56	
13	1991. 2.10	東京国際	9位	2. 11. 55	世界選手権選考会
14	1991. 9. 1	東京世界選手権	優勝	2. 14. 57	
15	1992. 8. 9	バルセロナ五輪	8位	2. 14. 42	日本人３位
16	1993. 4.19	ボストン	4位	2. 11. 02	
17	1993.12. 5	福岡国際	38位	2. 22. 28	
18	1994. 4.17	ロッテルダム	4位	2. 10. 46	
19	1995. 2.12	東京国際	途中棄権	—	
20	1995. 3.19	びわ湖	4位	2. 11. 51	世界選手権選考会
21	1995.12. 3	福岡国際	7位	2. 10. 42	五輪選考会、日本人4位
22	1996. 8. 4	アトランタ五輪	19位	2. 17. 26	日本人最上位
23	1997. 2. 9	東京国際	4位	2. 11. 26	世界選手権選考会
24	1997.12.14	ホノルル	8位	2. 19. 27	
25	1998. 6.21	ロックンロール	8位	2. 17. 12	
26	1998. 9. 6	シドニー	20位	2. 27. 28	
27	1999. 4.18	長　野	14位	2. 22. 08	
28	1999. 8.29	北海道	10位	2. 20. 13	
29	2000. 3.19	東　亜	12位	2. 18. 28	
30	2000. 4.30	シドニー	17位	2. 25. 08	

MGC
レジェンドたちの戦略
「私ならこう戦う」

シドニー五輪 女子マラソン金メダル

高橋尚子

Naoko Takahashi

（日本陸上競技連盟理事・日本オリンピック委員会理事）

〝一発勝負〟はむしろ走りやすいと考える高橋さん。
自分の作戦に相手を引き込めるかがポイントだという

00年シドニー五輪で日本女子陸上界に初の五輪金メダルをもたらした高橋尚子さん（当時・積水化学）

2000年のシドニー五輪女子マラソンで、終盤にリディア・シモン（ルーマニア）と息詰まるデッドヒートを展開した末、34km付近で鮮やかなスパートを放って、日本のオリンピック史上、女子陸上選手として初の金メダリストとなった高橋尚子（当時・積水化学）。翌2001年にはベルリン・マラソンで、女子で世界初の2時間20分切りとなる2時間19分46秒（現・日本歴代3位）を樹立して優勝した。引退した後は各種団体の要職に就きながら、マラソン中継のテレビ解説などで後輩たちを見守り、MGCに向けては全コースを実際に走って下見。序盤と終盤にある起伏を自分の目と脚で確認した。そこから生み出された、高橋さんがMGCを勝ち抜くための作戦とは――。

「勝つこと」に特化されたレース

このMGCは1位か2位になれば東京五輪の代表切符がもらえる、順番だけに特化したレースです。私がシドニー五輪代表を懸けて出場した2000年3月の名古屋国際女子マラソン（現・名古屋ウィメンズマラソン）は、実質最後の1枠を争って、優勝はもちろんのことある程度のタイムも要求される、切羽詰まったレースでした。他の選考競技会の結果と比較されるので、目に見えない相手とも戦わなければいけなかったのです。

しかし、MGCはすべてこのレースの中で完結します。私は作戦も立てやすく、走りやすいマラソンだと思っています。タイムは関係なく順位だけにこだわって作戦を立てて、自分の作戦に相手を引き込めるかどうかがポイントです。そのためには、ある程度相手がどういう戦法が得意なのか、一番自信を持っているスパートの位置はどのあたりか、知っておくことが重要です。

20kmまでは〝ニュートラル〟に

コースは大雑把に「最初の5kmは下って、最後の5kmが上り」と認識している人が多いと思いますが、実際に走ってみるとかなりイメージが違います。スタートして最初の1kmは上ります。それから下りが始まって、2回大きな下りがあります。

最初の5kmは、落ち着いて丁寧に走ることが基本です。ここであせって、前に出たり、リズムを変えたりしないこと。自分の身体を無理やり動かすのではなく、身体が温まって動き始めるのを待つ。それができなくて、私は2003年の東京国際女子マラソンで失敗しています。冷静に走るには、試走をしっかりすることもポイントです。今回、オリンピック本番とほぼ同じコースを、同じ時期に走れる日本選手は、ものすごく大きなアドバンテージになるはずです。

5kmから10kmは身体が動くようになってきて、得てして「今日は行ける」という根拠のない自信を持ち始めるところですが、そこはまだまだ落ち着いて行きます。10kmから20kmは平坦で、いかに身体を休められるか。後半の20kmに向けて〝温存〟の距離です。気持ちもリラックスさせ、本当に〝ニュートラル〟にしておいた方がいいです。私はシドニー五輪の時、そのあたりでボーッとしていたのか、気づいた時には15kmと20kmの給水ポイントを過ぎてしまいました。

いよいよレースが始まるのが20kmからです。その「いよいよ」の地点を30kmまで先延ばしできれば、当初は「ハーフマラソンだ」と思っていたレースを、「今日は駅伝だ」と切り替えられます。残り10kmからの勝負なら駅伝のつもりで、1km 3分10秒ぐらいにペースを上げられます。

上り坂の手前、35～37kmあたりでスパート

このコースは、日比谷通りの芝公園（24km）と皇居外苑二重橋前（32.9km）の2ヵ所で180度の折り返しがあります。このあたりと30km、35kmの給水ポイントはスパートをかけやすいので、自分がたとえ給水を取りに行く時でも、前を走る選手から視線をはずしてはいけません。私も28kmから32kmの給水ポイントをまたいだどこかで、1回スパートをかけて人数を絞ります。ここで3～4人になればベストです。そこはスパートと言うより、ふるい落としです。残った顔ぶれを見て、また作戦を変えます。

30kmを過ぎたら「位置について」「ヨーイ」と言われた状態で、戦況を見つめます。「1km 3分ペースでもOKよ」という気持ちで心の準備をします。誰かが動いたら、瞬時につく。でも、それはスパートではなくて、あくまでも「つく」だけです。

私が出るタイミングは、たぶん上り坂に入る前の35km付近から37kmあたりまでのどこか。「坂」という明らかに誰かが仕掛けそうな1歩手前で、少し離しておきたいからです。カーブも多いので、曲がってからちょっとペースを上げれば、後ろの人がカーブを曲がった時に「あれ、こんなに離れてた?」と思うはずです。ちょっとした力の出し方の工夫で、相手のダメージが全然違います。

最後の仕掛けでは力を出し惜しみせず、「どこまでもつかわからないけど、行っちゃおう」という覚悟を持って挑むこと。その先に優勝のフィニッシュテープが待っているはずです。

金メダルをかむパフォーマンスのほか〝Qちゃんスマイル〟が話題を集め、この年の秋に日本女子スポーツ界で初の国民栄誉賞も受賞

PROFILE：1972年5月6日生まれ、47歳。岐阜・藍川東中で陸上を始め、県岐阜商高2年の全国都道府県対抗女子駅伝（2区）で全国大会初出場。大阪学院大では日本インカレで3年、4年ともに1500mが2位、3000mが3位と、学生時代は特別目立ったわけではなかった。だが社会人になり、名将・小出義雄氏の指導を受けてその才能が一気に開花。社会人3年目の1997年にアテネ世界選手権5000m代表入り（13位）を果たすと、2度目のマラソンとなった1998年3月の名古屋国際女子で2時間25分48秒の日本最高を樹立。同年12月のバンコク・アジア大会では猛暑の中を2時間21分47秒で独走する衝撃のレースを見せた。99年セビリア世界選手権はケガのため欠場したが、翌年のシドニー五輪では日本女子陸上界に初の金メダルに輝く快挙。女子スポーツ界では初めての国民栄誉賞を受賞した。さらに2001年には世界で初めて2時間20分を切る2時間19分46秒をマークし、名実ともに世界の頂点を極めた。2008年秋に現役を引退し、現在は日本陸連理事、日本オリンピック委員会理事、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アスリート委員会委員長などを兼務

高橋尚子のマラソン全成績

回数	開催日	大会名	順位	記録	備考
1	1997. 1.26	大阪国際女子	7位	2. 31. 32	
2	1998. 3. 8	名古屋国際女子	優勝	2. 25. 48	日本最高記録（当時）
3	1998.12. 6	バンコク・アジア大会	優勝	2. 21. 47	アジア最高記録・世界歴代5位(当時)
4	1999. 8.29	セビリア世界選手権	—	欠場	
5	2000. 3.12	名古屋国際女子	優勝	2. 22. 19	五輪選考会
6	2000. 9.24	シドニー五輪	優勝	2. 23. 14	五輪最高記録（当時）
7	2001. 9.30	ベルリン	優勝	2. 19. 46	世界最高記録（当時）
8	2002. 9.29	ベルリン	優勝	2. 21. 49	
9	2003.11.16	東京国際女子	2位	2. 27. 21	五輪選考会
10	2005.11.20	東京国際女子	優勝	2. 24. 39	
11	2006.11.19	東京国際女子	3位	2. 31. 22	
12	2008. 3. 9	名古屋国際女子	27位	2. 44. 18	

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

MGC 出場者 名鑑

男子エントリーリスト Men's Entry list

No.	氏　名	所　属	生年月日	年齢	身長・体重	自己ベスト・樹立日・大会名		
1	村澤　明伸	日清食品グループ	1991. 3.28	28	167・54	2.09.47	2018. 2.25	東　京
2	大迫　傑	Nike	1991. 5.23	28	170・52	2.05.50	2018.10. 7	シカゴ
3	上門　大祐	大塚製薬	1993.12.11	25	176・59	2.09.27	2017.12. 3	福　岡
4	竹ノ内佳樹	ＮＴＴ西日本	1992. 5.25	27	176・57	2.10.01	2017.12. 3	福　岡
5	園田　隼	黒崎播磨	1989. 4. 5	30	166・50	2.09.34	2018. 2. 4	別府大分
6	設楽　悠太	Honda	1991.12.18	27	174・48	2.06.11	2018. 2.25	東　京
7	井上　大仁	MHPS	1993. 1. 6	26	165・51	2.06.54	2018. 2.25	東　京
8	木滑　良	MHPS	1991. 1.22	28	168・54	2.08.08	2018. 2.25	東　京
9	宮脇　千博	トヨタ自動車	1991. 8.28	28	176・57	2.08.45	2018. 2.25	東　京
10	山本　憲二	マツダ	1989.11.17	29	165・53	2.08.42	2019. 3.10	びわ湖
11	佐藤　悠基	日清食品グループ	1986.11.26	32	179・60	2.08.58	2018. 2.25	東　京
12	中村　匠吾	富士通	1992. 9.16	26	172・55	2.08.16	2018. 9.16	ベルリン
13	岡本　直己	中国電力	1984. 5.26	35	176・56	2.11.29	2018. 8.26	北海道
14	谷川　智浩	コニカミノルタ	1989. 3. 4	30	161・46	2.11.39	2015. 4.19	長　野
15	大塚　祥平	九電工	1994. 8.13	25	170・55	2.10.12	2018. 2. 4	別府大分
16	中本健太郎	安川電機	1982.12. 7	36	173・58	2.08.35	2013. 2. 3	別府大分
17	藤本　拓	トヨタ自動車	1989. 9.11	30	166・54	2.07.57	2018.10. 7	シカゴ
18	服部　勇馬	トヨタ自動車	1993.11.13	25	176・63	2.07.27	2018.12. 2	福　岡
19	福田　穣	西鉄	1990.12.31	28	166・51	2.09.52	2018. 7. 1	ゴールドコースト
20	橋本　崚	ＧＭＯアスリーツ	1993. 9.26	25	170・54	2.09.29	2019. 2. 3	別府大分
21	岩田　勇治	MHPS	1987. 7. 9	32	170・54	2.09.30	2019. 2. 3	別府大分
22	堀尾　謙介	トヨタ自動車	1996. 8.12	23	183・61	2.10.21	2019. 3. 3	東　京
23	今井　正人	トヨタ自動車九州	1984. 4. 2	35	169・56	2.07.39	2015. 2.22	東　京
24	藤川　拓也	中国電力	1992.12.17	26	163・49	2.10.35	2019. 3. 3	東　京
25	神野　大地	セルソース	1993. 9.13	26	165・46	2.10.18	2018. 2.25	東　京
26	山本　浩之	コニカミノルタ	1986. 4.30	33	172・54	2.09.12	2017. 2.26	東　京
27	河合　代二	トーエネック	1991. 9.22	27	175・54	2.10.50	2019. 3.10	びわ湖
28	髙久　龍	ヤクルト	1993. 2.18	26	168・54	2.10.02	2019. 4.28	ハンブルク
29	荻野　皓平	富士通	1989.12. 8	29	174・58	2.09.36	2018. 2.25	東　京
30	一色　恭志	ＧＭＯアスリーツ	1994. 6. 5	25	169・55	2.09.43	2018. 2.25	東　京
31	鈴木　健吾	富士通	1995. 6.11	24	163・47	2.10.21	2018. 2.25	東　京

女子エントリーリスト Women's Entry list

No.	氏　名	所　属	生年月日	年齢	身長・体重	自己ベスト・樹立日・大会名		
1	前田　穂南	天満屋	1996. 7.17	23	166・46	2.23.48	2018. 1.28	大阪国際女子
2	松田　瑞生	ダイハツ	1995. 5.31	24	158・46	2.22.23	2018. 9.16	ベルリン
3	安藤　友香	ワコール	1994. 3.16	25	160・42	2.21.36	2017. 3.12	名古屋ウィメンズ
4	関根　花観	日本郵政グループ	1996. 2.26	23	156・43	2.23.07	2018. 3.11	名古屋ウィメンズ
5	岩出　玲亜	アンダーアーマー	1994.12. 8	24	155・39	2.23.52	2019. 3.10	名古屋ウィメンズ
6	野上　恵子	十八銀行	1985.12. 6	33	160・45	2.26.33	2018. 3.11	名古屋ウィメンズ
7	鈴木亜由子	日本郵政グループ	1991.10. 8	27	154・38	2.28.32	2018. 8.26	北海道
8	小原　怜	天満屋	1990. 8.10	29	165・47	2.23.20	2016. 3.13	名古屋ウィメンズ
9	福士加代子	ワコール	1982. 3.25	37	160・46	2.22.17	2016. 1.31	大阪国際女子
10	上原　美幸	第一生命グループ	1995.11.22	23	154・39	2.24.19	2019. 3.10	名古屋ウィメンズ
11	前田　彩里	ダイハツ	1991.11. 7	27	160・45	2.22.48	2015. 3. 8	名古屋ウィメンズ
12	一山　麻緒	ワコール	1997. 5.29	22	158・43	2.24.33	2019. 3. 3	東　京

名鑑データについて

年齢は大会当日（9月15日）のもの
データは8月20日時点
年度別（4月～翌年3月）主要大会実績内の略称は右記の通り

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権
WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード

WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア
AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No. 1

マラソンPB
2.09.47

Akinobu Murasawa

村澤 明伸

所　属：日清食品グループ
生年月日：1991年3月28日
年　齢：28歳
出身地：長野県
身長・体重：167cm・54kg
出身校：樽川中（長野）→佐久長聖高（長野）→東海大

MGCファイナリスト第1号

出場権獲得大会成績	17年	北海道マラソン	1位	2.14.48	

高校・大学時代に世界ユース（2007年）、世界ジュニア（08年、10年）、ユニバーシアード（09年）と、豊富な国際経験を積んできた逸材。東海大2年時の箱根駅伝では花の2区で17人抜きの区間賞を獲得し、一躍学生長距離界のスター選手となった。故障の影響で卒業後はしばらくタイトルから遠ざかっていたが、自身2度目のマラソンとなった17年北海道マラソンで初優勝。MGC出場権獲得者第1号となった。18年の東京マラソンでは2時間9分47秒と自身初の〝サブテン〟も達成。約2年間の準備期間を経て、初の五輪代表を狙う。

マラソン全成績

2017. 3. 5	びわ湖	28位	2.17.51
2017. 8.27	北海道	優勝	2.14.48
2018. 2.25	東　京	14位	2.09.47
2018.10.28	フランクフルト	18位	2.15.41

自己ベスト

5000m	13.34.85	2011. 9.13	ロベレート国際	
10000m	27.50.59	2012. 4.29	カージナル招待	
ハーフマラソン	1.03.20	2017. 3. 5	びわ湖毎日マラソン	（途中計時）
マラソン	2.09.47	2018. 2.25	東京マラソン	

年度別主要大会実績

07年（高2）WY3000m⑬，WCCジュニア㊲，IH5000m⑥
08年（高3）WJ5000m⑫，WCCジュニア㉗，IH5000m⑥
09年（大1）US5000m予選，WCCジュニア㉘，IC10000m②・5000m⑤
10年（大2）WJ5000m⑧，NC5000m⑧，IC10000m②
11年（大3）AC10000m③，NC10000m②
12年（大4）NC10000m⑩
13年（社1）—
14年（社2）—
15年（社3）NC10000m⑤
16年（社4）NC10000m⑧
17年（社5）—
18年（社6）—
19年（社7）—

No. 2

マラソンPB 日本記録
2.05.50

Suguru Osako

大迫 傑

所　属：Nike
生年月日：1991年5月23日
年　齢：28歳
出身地：東京都
身長・体重：170cm・52kg
出身校：金井中（東京）→佐久長聖高（長野）→早稲田大

男子マラソン日本記録保持者

出場権獲得大会成績	17年	福岡国際マラソン	3位	2.07.19	日本人1位

中学時代から全国の舞台で活躍し、長野・佐久長聖高では全国高校駅伝で2回区間賞（7区、1区）。早大4年時には10000mでモスクワ世界選手権に出場し、卒業後には3000mと5000mで日本記録を打ち立て、2016年の日本選手権では5000mと10000mの2冠に輝く。17年からマラソンに参戦し、初マラソンとなったボストン・マラソンで3位。18年のシカゴ・マラソンでは2時間5分50秒を記録し、日本人で初めて〝2時間6分の壁〟を破った。大きなレースでめったに外さない安定感も魅力だ。16年リオ五輪（5000m、10000m）に続く2大会連続出場なるか。

マラソン全成績

2017. 4.17	ボストン	3位	2.10.28
2017.12. 3	福　岡	3位	2.07.19
2018.10. 7	シカゴ	3位	2.05.50
2019. 3. 3	東　京	途中棄権	—

自己ベスト

5000m	13.08.40	2015. 7.18	ナイトオブアスレティック	日本記録
10000m	27.38.31	2013. 4.28	カージナル招待	
ハーフマラソン	1.01.01	2018. 9. 4	レイバー・デイ・ハーフマラソン	
マラソン	2.05.50	2018.10. 7	シカゴマラソン	日本記録

年度別主要大会実績

05年（中2）IM3000m予選
06年（中3）IMI500m予選・3000m③
07年（高1）—
08年（高2）IH5000m⑬
09年（高3）WCCジュニア㉜，IHI500m⑭・5000m⑭
10年（大1）WJI0000m⑧，NC5000m㉗
11年（大2）USI0000m①，NC5000m⑥，ICI500m①・5000m③
12年（大3）NCI0000m②
13年（大4）WCI0000m㉑，NCI0000m②、IC5000m②
14年（社1）AGI0000m②，NCI0000m②
15年（社2）WC5000m予選，NC5000m②
16年（社3）OG5000m予選・10000m⑰，NC5000m①・10000m①
17年（社4）WHM㉔，NCI0000m①
18年（社5）—
19年（社6）—

No. 3

マラソンPB
2.09.27

Daisuke Uekado
上門 大祐

所　　属：大塚製薬
生年月日：1993年12月11日
年　　齢：25歳
出 身 地：京都府
身長・体重：176cm・59kg
出 身 校：北稜高（京都）→京都産業大

社会人2年目でサブテン達成

出場権獲得大会成績	17年	福岡国際マラソン	6位	2.09.27	日本人2位

大学生まで京都で育ち、男子ではただ1人の関東圏以外の大学出身。高校までは全国大会とは無縁の存在だったが、京産大ではチームのエースとして出雲駅伝や全日本大学駅伝で好走。3年時には関西インカレ5000mを制している。大塚製薬に入社後はコツコツと泥臭い練習を重ね、2年目（2017年）の福岡国際マラソンでは2時間9分27秒と一気に花開いた。チームとして、00年シドニー大会に出場した犬伏孝行監督以来となる五輪男子マラソン代表を目指す。

マラソン全成績

2016. 2.21	京　都	優勝	2.17.54
2017. 3. 5	びわ湖	10位	2.12.58
2017.12. 3	福　岡	6位	2.09.27
2018. 9.16	ベルリン	8位	2.11.07
2019. 2. 3	別府大分	22位	2.15.49

自己ベスト

5000m	14.06.13	2016.12. 3	徳島中・長距離記録会
10000m	28.48.22	2013.11.16	日体大長距離競技会
ハーフマラソン	1.03.28	2016. 2. 7	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.27	2017.12. 3	福岡国際マラソン

年度別主要大会実績

11年（高3）—
12年（大1）—
13年（大2）—
14年（大3）IC5000m⑮・10000m⑰
15年（大4）—
16年（社1）—
17年（社2）WHM⑧
18年（社3）—
19年（社4）—

No. 4

マラソンPB
2.10.01

Yoshiki Takenouchi
竹ノ内佳樹

所　　属：NTT西日本
生年月日：1992年5月25日
年　　齢：27歳
出 身 地：大阪府
身長・体重：176cm・57kg
出 身 校：上之島中（大阪）→関西大第一高（大阪）→日本大

キャリア2戦目でMGC獲得

出場権獲得大会成績	17年	福岡国際マラソン	7位	2.10.01	日本人3位

これまでトラックでは全国大会の入賞実績はないが、鈴木従道駅伝監督（当時）にマラソン適性を見出された日大では箱根駅伝で出場3回すべて区間10位以内と、安定感が目立った。NTT西日本入社後は5000m13分台、10000m28分台に乗せ、マラソン2戦目となった2017年12月の福岡国際マラソンで日本人3番手の7位。2時間10分01秒の自己新でMGC出場権を獲得した。世界選手権に3回出場した清水康次監督が果たせなかった五輪代表入りを狙う。

マラソン全成績

2017. 3. 5	びわ湖	11位	2.13.33
2017.12. 3	福　岡	7位	2.10.01
2018. 3. 4	びわ湖	30位	2.20.29

自己ベスト

5000m	13.56.46	2015. 7.16	ホクレンディスタンスチャレンジ網走
10000m	28.36.44	2018. 7.11	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
ハーフマラソン	1.03.08	2019. 5.12	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2.10.01	2017.12. 3	福岡国際マラソン

年度別主要大会実績

10年（高3）—
11年（大1）—
12年（大2）—
13年（大3）—
14年（大4）IC10000m⑱
15年（社1）—
16年（社2）—
17年（社3）—
18年（社4）—
19年（社5）—

No. 5

マラソンPB
2.09.34

Hayato Sonoda
園田　隼

所　　属：黒崎播磨
生年月日：1989年4月5日
年　　齢：30歳
出 身 地：熊本県
身長・体重：166cm・50kg
出 身 校：阿蘇西原中（熊本）→熊本国府高（熊本）→上武大

18年アジア大会代表

出場権獲得大会成績	18年	別府大分毎日マラソン	2位	2.09.34	日本人1位

上武大時代の2011年には全日本大学駅伝のアンカーを務め、母校の初出場初シードに貢献。非公認を含む16回のマラソン実績があり、16年12月の福岡国際マラソン以降は、国内レースすべてで2時間13分を切る安定感が強み。18年2月の別府大分毎日マラソンでは2時間9分34秒で日本人トップの2位を占め、同年8月のジャカルタ・アジア大会代表に選出された（4位）。4月には起伏の激しいボストン・マラソンを経験し、MGCに向けて着々と準備を進める。

マラソン全成績 ※＝非公認

2014. 3. 2	びわ湖	46位	2.20.30
2014.12. 7	福　岡	24位	2.19.35
2015. 2.15	熊本城	優勝	2.18.00
2015. 3. 1	びわ湖	38位	2.22.13
2015.10.18	出　水※	3位	2.25.31
2015.12. 6	福　岡	13位	2.17.40
2016. 2.14	オースティン	優勝	2.23.30
2016. 3. 6	びわ湖	37位	2.19.25
2016.12. 4	福　岡	4位	2.10.40
2017. 3. 5	びわ湖	7位	2.11.32
2017.12. 3	福　岡	11位	2.12.04
2018. 2. 4	別府大分	2位	2.09.34
2018. 8.25	アジア大会	4位	2.19.04
2018.12. 2	福　岡	5位	2.10.31
2019. 2. 3	別府大分	8位	2.10.39
2019. 4.15	ボストン	18位	2.15.58

自己ベスト

5000m	14.05.64	2016. 5.28	鞘ケ谷記録会
10000m	28.52.49	2018. 5.19	九州実業団選手権
ハーフマラソン	1.03.00	2016. 2. 7	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.34	2018. 2. 4	別府大分毎日マラソン

年度別主要大会実績

07年（高1）—
08年（大1）—
09年（大2）—
10年（大3）—
11年（大4）—
12年（社1）—
13年（社2）—
14年（社3）—
15年（社4）—
16年（社5）—
17年（社6）WHM⑳
18年（社7）AGマラソン④
19年（社8）—

No. 6

マラソンPB 日本歴代2位
2.06.11

Yuta Shitara
設楽 悠太

所　　属：Honda
生年月日：1991年12月18日
年　　齢：27歳
出 身 地：埼玉県
身長・体重：174cm・48kg
出 身 校：男衾中（埼玉）→武蔵越生高（埼玉）→東洋大

マラソン前日本記録保持者

出場権獲得大会成績	18年	東京マラソン	2位	2.06.11	日本人1位

学生時代から双子の兄・啓太とともにトラック、駅伝と活躍し、2018年2月の東京マラソンで、従来の日本記録を16年ぶりに更新する2時間6分11秒をマーク。10000mでは15年北京世界選手権、16年リオ五輪に出場経験を持ち、ハーフマラソンの日本記録保持者でもある。昨年12月の福岡国際マラソン（4位）以降はレースから遠ざかる時期もあったが、7月のゴールドコーストでマラソン初優勝（2時間7分50秒）を飾るなど、完全復活を遂げた。

マラソン全成績

2017. 2.26	東　京	11位	2.09.27
2017. 9.24	ベルリン	6位	2.09.03
2018. 2.25	東　京	2位	2.06.11
2018.12. 2	福　岡	4位	2.10.25
2019. 7. 7	ゴールドコースト	優勝	2.07.50

自己ベスト

5000m	13.34.68	2015. 4.18	織田幹雄記念国際競技会
10000m	27.41.97	2017.11.25	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.00.17	2017. 9.16	マトニー ウスティ ナド ラベム ハーフマラソン 日本記録
マラソン	2.06.11	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

09年（高3）IH5000m予選
10年（大1）—
11年（大2）—
12年（大3）—
13年（大4）USハーフ⑳，NC10000m⑱
14年（社1）NC10000m㉒
15年（社2）WC10000m㉓，NC5000m㉒・10000m②
16年（社3）OG10000m㉙，NC5000m⑧・10000m③
17年（社4）NC5000m⑦・10000m⑮
18年（社5）—
19年（社6）NC5000m⑧

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No. 7

マラソンPB 日本歴代5位
2.06.54

Hiroto Inoue
井上 大仁

所　　属：MHPS
生年月日：1993年1月6日
年　　齢：26歳
出 身 地：長崎県
身長・体重：165cm・51kg
出 身 校：飯盛中（長崎）→鎮西学院高（長崎）→山梨学院大

18年アジア大会金メダリスト

出場権獲得大会成績	18年	東京マラソン	5位	2.06.54	日本人2位

昨年のジャカルタ・アジア大会金メダリスト。山梨学大では全日本大学駅伝2区区間賞、関東インカレ1部ハーフマラソン優勝など実績を残し、MHPS入社後はさらに飛躍。2017年の東京マラソンで日本人トップ（8位）の2時間8分22秒を記録すると、同年のロンドン世界選手権に出場（26位）。18年は、2月の東京マラソンで当時日本歴代4位の2時間6分54秒をマークすると、8月のアジア大会では熾烈なラスト勝負を制した。強さと速さを兼ね備えるランナーだ。

マラソン全成績

2016. 3. 6	びわ湖	9位	2.12.56
2017. 2.26	東　京	8位	2.08.22
2017. 8. 6	世界選手権	26位	2.16.54
2017.10. 1	東北・みやぎ復興	2位	2.23.47
2018. 2.25	東　京	5位	2.06.54
2018. 8.25	アジア大会	優勝	2.18.22
2019. 4.15	ボストン	12位	2.11.53

自己ベスト

5000m	13.38.44	2018. 5. 5	ゴールデンゲームズinのべおか
10000m	27.56.27	2018.11.24	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.01.39	2014. 2. 2	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.06.54	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

07年（中3）IM3000m予選
08年（高1）—
09年（高2）—
10年（高3）—
11年（大1）—
12年（大2）IC5000m⑪・10000m⑤
13年（大3）WHM㊱、IC10000m⑱
14年（大4）NC10000m⑳、IC10000m⑬
15年（社1）NC10000m⑩
16年（社2）—
17年（社3）WCマラソン㉖
18年（社4）AGマラソン①、NC10000m⑦
19年（社5）NC5000m⑬

No. 8

マラソンPB
2.08.08

Ryo Kiname
木滑　良

所　　属：MHPS
生年月日：1991年1月22日
年　　齢：28歳
出 身 地：長崎県
身長・体重：168cm・54kg
出 身 校：鳴北中（長崎）→瓊浦高（長崎）

MHPSマラソン部主将

出場権獲得大会成績	18年	東京マラソン	7位	2.08.08	日本人3位

長崎・瓊浦高では全国的な実績はないが、三菱重工長崎（現・MHPS）に入社し、2年目の2011年に10000m28分18秒52をマーク。その後はトラックや駅伝の主要大会で結果を残し、16年の北海道でマラソン初優勝。18年の東京マラソンではラスト2.195kmを全選手最速タイの6分35秒でカバーし、2時間8分08秒（7位）の大幅自己新で一躍存在感を強めた。北海道マラソンを制した経験から、暑さへの耐性は証明済み。日本唯一の「マラソン部」で主将を務める。

マラソン全成績

2013. 2.10	延　岡	途中棄権	—
2014. 2. 2	別府大分	8位	2.12.48
2016. 8.28	北海道	優勝	2.13.16
2017. 2. 5	別府大分	3位	2.10.30
2018. 2.25	東　京	7位	2.08.08
2018.10. 7	シカゴ	途中棄権	—
2019. 3. 3	東　京	26位	2.17.19

自己ベスト

5000m	13.40.62	2012. 7.21	Ninove Memorial Rasschaert
10000m	28.18.52	2011. 6.25	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
ハーフマラソン	1.02.22	2012. 2. 5	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.08.08	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

07年（高2）IH5000m予選
08年（高3）—
09年（社1）—
10年（社2）—
11年（社3）NC5000m㉑
12年（社4）NC10000m㉕
13年（社5）NC5000m⑩
14年（社6）NC5000m⑥
15年（社7）NC5000m⑯
16年（社8）—
17年（社9）—
18年（社10）—
19年（社11）—

No. 9

マラソンPB
2.08.45

Chihiro Miyawaki
宮脇 千博

所　　属：トヨタ自動車
生年月日：1991年8月28日
年　　齢：28歳
出 身 地：長野県
身長・体重：176cm・57kg
出 身 校：駒ヶ根東中（長野）→中京高（岐阜）

10000m27分40秒台のスピードランナー

出場権獲得大会成績	18年	東京マラソン	8位	2.08.45	日本人4位

岐阜・中京高からトヨタ自動車へ進み、一気に飛躍。入社2年目の2011年には10000mで当時日本歴代6位の27分41秒57、翌年にはハーフマラソンでも同3位の1時間0分53秒をマークするなど、20歳にして日本トップレベルに急成長を遂げた。マラソン初挑戦は14年の東京マラソン（2時間11分50秒で日本人6位）で、以降は故障に苦しむ時期が続いたが、18年東京マラソンで自己記録を3分以上も更新する2時間8分45秒でMGC出場権を獲得。日本記録保持者の大迫傑、前日本記録保持者の設楽悠太は同世代にあたる。

マラソン全成績

2014. 2.23	東　京	15位	2.11.50
2017. 3. 5	びわ湖	25位	2.16.51
2017.10. 8	シカゴ	11位	2.13.23
2018. 2.25	東　京	8位	2.08.45

自己ベスト

5000m	13.35.74	2011. 5.28	ゴールデンゲームズinのべおか
10000m	27.41.57	2011.11.26	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.00.53	2012. 3.18	全日本実業団ハーフマラソン
マラソン	2.08.45	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

09年（高3）IH5000m予選
10年（社1）—
11年（社2）NC10000m⑥
12年（社3）WHM㊽、NC10000m③
13年（社4）NC10000m⑫
14年（社5）NC10000m⑥
15年（社6）NC10000m⑲
16年（社7）—
17年（社8）—
18年（社9）—
19年（社10）—

No. 10

マラソンPB
2.08.42

Kenji Yamamoto
山本 憲二

所　　属：マツダ
生年月日：1989年11月17日
年　　齢：29歳
出 身 地：広島県
身長・体重：165cm・53kg
出 身 校：昭和北中（広島）→遊学館高（石川）→東洋大

18年東京、19年びわ湖で2時間8分台連発

出場権獲得大会成績	18年	東京マラソン	9位	2.08.48	日本人5位

広島から石川・遊学館高に越境入学し、全国高校駅伝などに出場。東洋大では同期の柏原竜二らとともに黄金期を築き、全日本大学駅伝や箱根駅伝で区間賞を獲得した。マツダに入社後は故障が続いた影響でなかなかマラソン出場がかなわなかったが、2018年の東京マラソンで自己記録を6分以上も更新する2時間8分48秒。日本人5番手の9位でMGC出場権を獲得した。今年3月のびわ湖毎日マラソンでも自己新の2時間8分42秒をマーク。29歳を迎え、円熟期に入っている。

マラソン全成績

2012. 2.26	東　京	68位	2.29.50
2017. 3. 5	びわ湖	18位	2.15.19
2018. 2.25	東　京	9位	2.08.48
2019. 3.10	びわ湖	7位	2.08.42

自己ベスト

5000m	13.55.42	2013. 4.28	織田幹雄記念国際競技会
10000m	28.26.35	2015.11.28	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.01.47	2014. 2.16	全日本実業団ハーフマラソン
マラソン	2.08.42	2019. 3.10	びわ湖毎日マラソン

年度別主要大会実績

07年（高3）—
08年（大1）—
09年（大2）—
10年（大3）—
11年（大4）—
12年（社1）—
13年（社2）—
14年（社3）NC10000m⑮
15年（社4）—
16年（社5）—
17年（社6）—
18年（社7）—
19年（社8）—

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No. 11

マラソンPB
2.08.58

Yuki Sato
佐藤 悠基

所　　属：日清食品グループ
生年月日：1986年11月26日
年　　齢：32歳
出 身 地：静岡県
身長・体重：179cm・60kg
出 身 校：清水南中（静岡）→佐久長聖高（長野）→東海大

2大会ぶり五輪をマラソンで

出場権獲得大会成績	18年	東京マラソン	10位	2.08.58	日本人6位

3000mの中学記録、10000mの高校最高記録、そのほか各種駅伝大会の区間記録をいくつも更新。日本選手権では10000mで2011年から4連覇、14年は5000mとの2冠を獲得。12年ロンドン五輪のほか、11年、13年には世界選手権にも連続出場するなど、トラックで一時代を築いた。マラソンでは13年東京マラソンでの初挑戦から終盤の失速が課題だったが、18年東京マラソンで2時間8分58秒と自身初のサブテンを達成。同年9月のベルリン・マラソンでは6位と、30歳を超えてなお、成長を続けている。

マラソン全成績

2013. 2.24	東　京	31位	2.16.31
2015. 2.22	東　京	20位	2.14.15
2015. 9.27	ベルリン	14位	2.12.32
2016. 4.24	ロンドン	11位	2.12.14
2017.12. 3	福　岡	途中棄権	—
2018. 2.25	東　京	10位	2.08.58
2018. 9.16	ベルリン	6位	2.09.18
2019. 3. 3	東　京	16位	2.15.07

自己ベスト

5000m	13.13.60	2013. 7.13	ナイトオブアスレティック
10000m	27.38.25	2009. 4.24	ブルータス・ハミルトン招待
ハーフマラソン	1.02.30	2019. 5.12	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2.08.58	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

01年（中3）IM1500m③，3000m⑨
02年（高1）IH1500m⑩
03年（高2）WY3000m予選，IH1500m⑧，5000m⑨
04年（高3）WCCジュニア㊼，WJ5000m⑬，IH1500m⑤，5000m②
05年（大1）US5000m⑦・10000m④，NC10000m⑧，IC10000m①
06年（大2）IC5000m②
07年（大3）WCC㉝，NC5000m⑭，IC5000m⑨・10000m⑧
08年（大4）IC5000m⑤
09年（社1）NC10000m⑧
10年（社2）NC5000m④・10000m③
11年（社3）WC10000m⑮，AC5000m②，NC5000m②・10000m①
12年（社4）OG5000m予選・10000m㉒，NC10000m①
13年（社5）WC5000m予選・10000m途中棄権，NC10000m①
14年（社6）AG5000m⑥，NC5000m①・10000m①
15年（社7）—
16年（社8）—
17年（社9）NC10000m④
18年（社10）NC5000m㉒・10000m途中棄権
19年（社11）—

No. 12

マラソンPB
2.08.16

Shogo Nakamura
中村 匠吾

所　　属：富士通
生年月日：1992年9月16日
年　　齢：26歳
出 身 地：三重県
身長・体重：172cm・55kg
出 身 校：内部中（三重）→上野工業高（三重）→駒澤大

富士通初のマラソン五輪代表狙う

出場権獲得大会成績	18年	びわ湖毎日マラソン	7位	2.10.51	日本人1位

三重・上野工高時代はインターハイ5000m3位など世代トップクラスで活躍。駒大では主にロードに活躍の場を広げ、2013年ユニバーシアードのハーフマラソンで銅メダルを獲得したほか、学生三大駅伝では区間賞4つを獲得。富士通入社後の2年間は主にスピードを磨き、18年びわ湖で初マラソンに挑戦。日本人トップ（7位）の2時間10分51秒にまとめると、同年9月のベルリン・マラソンでは2時間8分16秒をマークした。安定感に定評があり、大学時代から師弟関係を続ける大八木弘明コーチとの二人三脚で、富士通初のマラソン五輪代表を目指す。

マラソン全成績

2018. 3. 4	びわ湖	7位	2.10.51
2018. 9.16	ベルリン	4位	2.08.16
2019. 3. 3	東　京	15位	2.14.52

自己ベスト

5000m	13.38.93	2016. 9.25	全日本実業団対抗選手権
10000m	28.05.79	2013. 5.11	ゴールデンゲームズinのべおか
ハーフマラソン	1.01.53	2016. 2.14	全日本実業団ハーフマラソン
マラソン	2.08.16	2018. 9.16	ベルリンマラソン

年度別主要大会実績

09年（高2）IH5000m予選
10年（高3）IH5000m③・1500m予選
11年（大1）—
12年（大2）—
13年（大3）WHM㉘，USハーフ③，NC10000m⑤
14年（大4）—
15年（社1）WHM㉟，NC5000m㉓
16年（社2）NC10000m⑩
17年（社3）NC5000m③
18年（社4）NC10000m⑮
19年（社5）—

No. 13

マラソンPB
2.11.29

Naoki Okamoto
岡本 直己

所　　属：中国電力
生年月日：1984年5月26日
年　　齢：35歳
出 身 地：鳥取県
身長・体重：176cm・56kg
出 身 校：東伯中（鳥取）→由良育英高（鳥取）→明治大

18年北海道王者のベテラン

出場権獲得大会成績	18年	北海道マラソン	1位	2.11.29	

中学時代から全国大会常連で、トラックでは5000m13分37秒71、10000m28分05秒84の自己ベストを誇る35歳のベテラン。ロードでは2009年世界クロカン、12年世界ハーフに出場するなど国際経験も豊富で、1月の都道府県対抗駅伝では最多となる16回出場、通算112人抜きという前人未踏の大記録を更新中だ。マラソンには10年から毎年出場し、その高い能力をなかなか発揮できなかったが、34歳で迎えた昨年8月の北海道マラソンで自己新となる2時間11分29秒で優勝と、まだまだ衰えを知らない。

マラソン全成績　※上位選手の失格で繰り上がり

2010. 2.28	東　京	23位	2.23.06
2011. 2.27	東　京	13位	2.13.54
2011.12. 4	福　岡	14位	2.18.14
2012. 3. 4	びわ湖	14位※	2.12.31
2013. 2.24	東　京	途中棄権	—
2014. 3. 2	びわ湖	17位	2.14.08
2014.10.12	シカゴ	16位	2.15.19
2015. 2. 1	別府大分	6位	2.12.55
2016. 3. 6	びわ湖	23位	2.17.47
2017. 2.26	東　京	21位	2.13.33
2018. 4.16	ボストン	途中棄権	—
2018. 8.26	北海道	優勝	2.11.29
2019. 2. 3	別府大分	途中棄権	—

自己ベスト

5000m	13.37.71	2009. 7.18	ナイトオブアスレティック
10000m	28.05.84	2011. 4.24	兵庫リレーカーニバル
ハーフマラソン	1.02.16	2009. 3.15	全日本実業団ハーフマラソン
マラソン	2.11.29	2018. 8.26	北海道マラソン

年度別主要大会実績

99年（中3）IM3000m予選
00年（高1）—
01年（高2）IH5000m予選
02年（高3）—
03年（大1）—
04年（大2）—
05年（大3）IC10000m㉓
06年（大4）IC10000m⑯
07年（社1）—
08年（社2）WCC㉕，NC10000m⑭
09年（社3）NC10000m⑯
10年（社4）NC5000m⑲・10000m途中棄権
11年（社5）NC5000m⑬・10000m⑤
12年（社6）WHM㉟，NC10000m⑱
13年（社7）NC10000m㉓
14年（社8）NC5000m㉔・10000m㉗
15年（社9）—
16年（社10）—
17年（社11）—
18年（社12）NC5000m⑱
19年（社13）—

No. 14

マラソンPB
2.11.39

Tomohiro Tanigawa
谷川 智浩

所　　属：コニカミノルタ
生年月日：1989年3月4日
年　　齢：30歳
出 身 地：熊本県
身長・体重：161cm・46kg
出 身 校：小川中（熊本）→熊本工業高（熊本）→拓殖大

18年北海道でMGC切符獲得

出場権獲得大会成績	18年	北海道マラソン	3位	2.12.02	日本人2位

熊本・小川中時代は全中駅伝（3区2位）で準優勝を経験。熊本工高でもインターハイ5000mに出場している。拓大では2年時に箱根駅伝5区に出走し、4年時には副主将として箱根駅伝予選会で個人7位の好走。コニカミノルタに入社後はスピードを磨き、2013年のボストンで初マラソンを経験。15年の長野マラソンで自己記録となる2時間11分39秒をマークすると、18年の北海道マラソンで日本人2位の2時間12分02秒でMGC切符を獲得した。身長161cmと小柄ながらガッツのある走りで上位を目指す。

マラソン全成績

2013. 4.15	ボストン	13位	2.16.57
2014. 3. 2	びわ湖	81位	2.24.47
2015. 4.19	長　野	2位	2.11.39
2015. 8.30	北海道	2位	2.17.03
2016. 3. 6	びわ湖	30位	2.18.23
2016. 9.18	シドニー	優勝	2.12.13
2018. 2. 4	別府大分	28位	2.18.33
2018. 8.26	北海道	3位	2.12.02

自己ベスト

5000m	13.51.09	2013. 6.29	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
10000m	28.24.31	2013.11.30	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.02.17	2013. 2. 3	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.11.39	2015. 4.19	長野マラソン

年度別主要大会実績

06年（高3）IH5000m予選
07年（大1）—
08年（大2）—
09年（大3）—
10年（大4）—
11年（社1）—
12年（社2）—
13年（社3）—
14年（社4）NC10000m⑱
15年（社5）—
16年（社6）—
17年（社7）—
18年（社8）—
19年（社4）—

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No.15

マラソンPB
2.10.12

Shohei Otsuka
大塚 祥平

所　　属：九電工
生年月日：1994年８月13日
年　　齢：25歳
出 身 地：大分県
身長・体重：170cm・55kg
出 身 校：大分城南中（大分）→大分東明高（大分）→駒澤大

18年に自己新&MGC出場決定と躍進

出場権獲得大会成績	18年	北海道マラソン	4位	2.12.07	日本人3位

大分東明高では1年時に国体少年B3000mで6位に入賞し、インターハイや全国高校駅伝にも出場。駒大では1年時から箱根駅伝に4年連続で出場し、4年時には山上りの5区で区間賞を獲得するなどチームの主軸を担った。学生時代からマラソンを経験。九電工入社後は2018年２月の別府大分毎日マラソンで２時間10分12秒の自己新をマークし、同年８月の北海道マラソン（２時間12分07秒／4位）でMGC出場権を獲得。昨年はトラック種目でも自己記録を更新しており、スピードとスタミナの両面で着実に力をつけているランナーだ。

マラソン全成績

2017. 3. 5	びわ湖	16位	2.15.10
2018. 2. 4	別府大分	3位	2.10.12
2018. 8.26	北海道	4位	2.12.07
2019. 3. 3	東　京	11位	2.12.36

自己ベスト

5000m	13.55.41	2018. 5. 5	ゴールデンゲームズinのべおか
10000m	28.25.42	2019. 4.20	兵庫リレーカーニバル
ハーフマラソン	1.02.32	2014.11.16	上尾シティマラソン
マラソン	2.10.12	2018. 2. 4	別府大分毎日マラソン

年度別主要大会実績

09年(中３) IMI500m予選・3000m⑬
10年(高１) —
11年(高２) —
12年(高３) IH5000m予選
13年(大１) —
14年(大２) —
15年(大３) —
16年(大４) —
17年(社１) —
18年(社２) —
19年(社３) —

No.16

マラソンPB
2.08.35

Kentaro Nakamoto
中本健太郎

所　　属：安川電機
生年月日：1982年12月７日
年　　齢：36歳
出 身 地：山口県
身長・体重：173cm・58kg
出 身 校：下関菊川中（山口）→西市高（山口）→拓殖大

五輪&世界選手権入賞者

出場権獲得大会成績	18年	北海道マラソン	5位	2.12.54	日本人4位

2012年ロンドン五輪６位、13年モスクワ世界選手権５位。日本の男子マラソン界における現役ただ１人の〝世界大会入賞者〟だ。社会人３年目の08年からマラソンに取り組み、MGC出場権を獲得した昨年８月の北海道マラソンまで16戦中12戦で２時間13分未満の安定感を誇る。これまで世界選手権、五輪では４戦すべてで10位以内と、夏場のレースの戦い方は熟知。今年で37歳を迎えるベテランだが、昨年１月にはハーフマラソンで自己ベストを更新するなど実力は健在だ。

マラソン全成績　※上位選手の失格で繰り上がり

2008. 2.24	延　岡	3位	2.13.54
2008. 8.31	北海道	2位	2.15.21
2009. 3.22	東　京	9位	2.13.53
2010. 2. 7	別府大分	8位	2.11.42
2010.10.17	アムステルダム	9位	2.12.38
2011. 3. 6	びわ湖	4位	2.09.31
2011. 9. 4	世界選手権	9位※	2.13.10
2012. 3. 4	びわ湖	5位	2.08.53
2012. 8.12	オリンピック	6位	2.11.16
2013. 2. 3	別府大分	2位	2.08.35
2013. 8.17	世界選手権	5位	2.10.50
2014.12. 7	福　岡	12位	2.11.58
2016. 3. 6	びわ湖	8位	2.12.06
2017. 2. 5	別府大分	優勝	2.09.32
2017. 8. 6	世界選手権	10位	2.12.41
2018. 8.26	北海道	5位	2.12.54
2018.12. 2	福　岡	途中棄権	—
2019. 4.28	クラクフ	2位	2.11.34

自己ベスト

5000m	14.04.31	2011. 6. 4	鞘ケ谷記録会
10000m	28.54.59	2012. 5.19	九州実業団選手権
ハーフマラソン	1.02.12	2018. 1.28	大阪ハーフマラソン
マラソン	2.08.35	2013. 2. 3	別府大分毎日マラソン

年度別主要大会実績

00年(高３) —
01年(大１) —
02年(大２) —
03年(大３) —
04年(大４) —
05年(社１) —
06年(社２) —
07年(社３) —
08年(社４) —
09年(社５) —
10年(社６) —
11年(社７) WCマラソン⑨
12年(社８) OGマラソン⑥
13年(社９) WCマラソン⑤
14年(社10) —
15年(社11) —
16年(社12) —
17年(社13) WCマラソン⑩
18年(社14) —
19年(社15) —

No.17

マラソンPB
2.07.57

Taku Fujimoto
藤本 拓

所　　属：トヨタ自動車
生年月日：1989年９月11日
年　　齢：30歳
出 身 地：山口県
身長・体重：166cm・54kg
出 身 校：周南菊川中（山口）→高水高（山口）→国士舘大

2時間7分台でワイルドカード一発クリア

出場権獲得大会成績	18年	シカゴ・マラソン	8位	2.07.57	※ワイルドカード

国士大３、４年時に関東インカレ１部5000mで名だたるライバルや留学生を相手に連覇を達成。故障が多く、学生駅伝は３年時の全日本（１区８位）と４年時の箱根（３区３位）しか経験していない。トヨタ自動車に入社してからもケガに悩まされたが、2018年からマラソンに進出。３月のびわ湖毎日マラソンで初挑戦すると、７ヵ月後のシカゴ・マラソンでは２戦目にして２時間７分57秒と覚醒。ワイルドカードでMGC出場権を獲得した。

マラソン全成績

2018. 3. 4	びわ湖	15位	2.15.30
2018.10. 7	シカゴ	8位	2.07.57

自己ベスト

5000m	13.38.68	2010. 5.23	関東学生対校選手権大会
10000m	28.08.30	2018.11.24	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.01.31	2015. 2.15	全日本実業団ハーフマラソン
マラソン	2.07.57	2018.10. 7	シカゴマラソン

年度別主要大会実績

07年(高３) IH5000m予選
08年(大１) —
09年(大２) —
10年(大３) —
11年(大４) —
12年(社１) —
13年(社２) —
14年(社３) —
15年(社４) NC10000m㉒
16年(社５) —
17年(社６) —
18年(社７) NC5000m⑨
19年(社８) NC10000m⑪

No.18

マラソンPB 日本歴代8位
2.07.27

Yuma Hattori
服部 勇馬

所　　属：トヨタ自動車
生年月日：1993年11月13日
年　　齢：25歳
出 身 地：新潟県
身長・体重：176cm・63kg
出 身 校：中里中（新潟）→仙台育英高（宮城）→東洋大

14年ぶりの〝福岡王者〟

出場権獲得大会成績	18年	福岡国際マラソン	1位	2.07.27	

出身地の新潟から宮城・仙台育英高に越境入学し、２年時に10000m28分58秒08を記録。東洋大でも２年時に30kmの学生記録（１時間28分52秒）を打ち立てたほか、箱根駅伝では各校のエースが集う〝花の２区〟で２年連続区間賞を獲得するなど、同年代を牽引する。マラソンには大学４年時の2016年東京マラソンで初挑戦し、翌年には自身初のサブテンを達成。４戦目となった昨年12月の福岡国際マラソンで日本歴代８位の２時間７分27秒をマークし、同大会14年ぶりの日本人優勝を飾った。

マラソン全成績

2016. 2.28	東　京	12位	2.11.46
2017. 2.26	東　京	13位	2.09.46
2018. 5. 6	プラハ	5位	2.10.26
2018.12. 2	福　岡	優勝	2.07.27

自己ベスト

5000m	13.36.76	2015. 7.12	ホクレンディスタンスチャレンジ北見
10000m	28.09.02	2015. 7.16	ホクレンディスタンスチャレンジ網走
ハーフマラソン	1.01.40	2018. 9.15	ウスティナドラベムハーフマラソン
マラソン	2.07.27	2018.12. 2	福岡国際マラソン

年度別主要大会実績

08年(中３) IMI500m⑦
09年(高１) —
10年(高２) WCCジュニア㊷, IH5000m⑩
11年(高３) IH5000m⑤
12年(大１) —
13年(大２) —
14年(大３) NC10000m㉕, IC5000m④
15年(大４) —
16年(社１) —
17年(社２) NC10000m⑩
18年(社３) —
19年(社４) —

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No.19

マラソンPB
2.09.52

Jo Fukuda
福田 穣

所　　属：西鉄
生年月日：1990年12月31日
年　　齢：28歳
出 身 地：福岡県
身長・体重：166cm・51kg
出 身 校：玉名中（熊本）→大牟田高（福岡）
→国士舘大

初挑戦から3年で9本のマラソン歴

出場権獲得大会成績	18年	福岡国際マラソン	7位	2.10.54	日本人5位

福岡の名門・大牟田高出身で、国士大では2年時に全日本大学駅伝（5区9位）、3年時に箱根駅伝に出場（1区15位）。卒業後は八千代工業に入社して全日本実業団対抗駅伝出場など経験を積み、2016年春に地元・福岡に本拠地を構える西鉄に移籍した。同年からマラソンに取り組み、豊富な練習量を武器に走るたびに自己記録を更新。昨年7月のゴールドコースト・マラソンで自己新となる2時間9分52秒をマークすると、12月には地元・福岡でMGC出場権をつかんだ。

マラソン全成績

2016. 3. 6	びわ湖	35位	2.19.06
2016. 8.28	北海道	9位	2.16.30
2017. 2. 5	別府大分	20位	2.16.16
2017. 8.27	北海道	3位	2.15.11
2018. 3. 4	びわ湖	23位	2.18.16
2018. 7. 1	ゴールドコースト	3位	2.09.52
2018. 8.26	北海道	29位	2.21.28
2018.12. 2	福　岡	7位	2.10.54
2019. 3. 3	東　京	途中棄権	—

自己ベスト

5000m	14.09.18	2017.11. 3	西日本カーニバル
10000m	28.44.67	2017.10.14	佐賀長距離記録会
ハーフマラソン	1.02.25	2019. 2. 3	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.52	2018. 7. 1	ゴールドコーストエアポートマラソン

年度別主要大会実績

08年（高3）—
09年（大1）—
10年（大2）—
11年（大3）—
12年（大4）—
13年（社1）—
14年（社2）—
15年（社3）—
16年（社4）—
17年（社5）—
18年（社6）—
19年（社7）—

No.20

マラソンPB
2.09.29

Ryo Hashimoto
橋本 崚

所　　属：GMOアスリーツ
生年月日：1993年9月26日
年　　齢：25歳
出 身 地：大分県
身長・体重：170cm・54kg
出 身 校：挾間中（大分）→大分西高（大分）
→青山学院大

2時間12分切り4度の安定感

出場権獲得大会成績	19年	別府大分毎日マラソン	5位	2.09.29	日本人2位

青学大時代は、全日本大学駅伝に2度出場したが、箱根駅伝は5区で同期・神野大地（現・セルソース）のリザーブとなり、1度も出走することはなかった。大学時代からマラソンに取り組み、社会人1年目だった2戦目の2016年防府読売マラソンで優勝を飾ると、今年2月の別府大分毎日マラソンでは初のサブテンとなる2時間9分29秒で日本人2位に食い込み、地元でMGCファイナリストの称号をつかみ取った。

マラソン全成績

2016. 2.28	東　京	23位	2.14.38
2016.12.18	防　府	優勝	2.11.20
2017. 2.26	東　京	20位	2.13.29
2017. 7. 2	ゴールドコースト	4位	2.10.19
2018.12. 2	福　岡	9位	2.11.40
2019. 2. 3	別府大分	5位	2.09.29

自己ベスト

5000m	13.57.91	2016.10. 1	世田谷競技会
10000m	28.35.37	2019. 7. 9	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
ハーフマラソン	1.02.55	2019. 5.12	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.29	2019. 2. 3	別府大分毎日マラソン

年度別主要大会実績

11年（高3）IH5000m予選
12年（大1）—
13年（大2）—
14年（大3）—
15年（大4）—
16年（社1）—
17年（社2）—
18年（社3）—
19年（社4）—

No.21

マラソンPB
2.09.30

Yuji Iwata
岩田 勇治

所　　属：MHPS
生年月日：1987年7月9日
年　　齢：32歳
出 身 地：福岡県
身長・体重：170cm・54kg
出 身 校：和白丘中（福岡）→福岡工業高（福岡）

急成長の実業団14年目

出場権獲得大会成績	19年	別府大分毎日マラソン	6位	2.09.30	日本人3位

福岡工高卒業後、三菱重工長崎（現・MHPS）に入社して14年目の32歳。昨年までの自己ベストは2時間12分15秒だったが、今年2月の別府大分毎日マラソンで2時間9分30秒を記録し、チームでは井上大仁、木滑良に続くMGCファイナリストとなった。2015年から18年までの4年間は全日本実業団駅伝のメンバーに入れなかったが、今年は最終区で旭化成とのデッドヒートを展開。マラソンでは至近7戦中6戦で8位以内に入るなど、安定感も魅力だ。

マラソン全成績 ※上位選手の失格で繰り上がり

2012. 2.12	延　岡	11位	2.19.58
2013. 2. 3	別府大分	29位	2.23.35
2014. 2. 9	延　岡	5位	2.14.46
2014. 8.31	北海道	5位	2.17.26
2015. 8.30	北海道	4位※	2.17.29
2017. 2. 5	別府大分	8位	2.12.15
2018. 3. 4	びわ湖	46位	2.24.00
2018. 8.26	北海道	7位	2.15.09
2019. 2. 3	別府大分	6位	2.09.30

自己ベスト

5000m	14.02.42	2019. 6.23	長崎県ナイター記録会
10000m	28.53.82	2010. 5.15	九州実業団選手権
ハーフマラソン	1.03.38	2011. 2. 6	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.30	2019. 2. 3	別府大分毎日マラソン

年度別主要大会実績

05年（高3）—
06年（社1）—
07年（社2）—
08年（社3）—
09年（社4）—
10年（社5）—
11年（社6）—
12年（社7）—
13年（社8）—
14年（社9）—
15年（社10）—
16年（社11）—
17年（社12）—
18年（社13）—
19年（社14）—

No.22

マラソンPB
2.10.21

Kensuke Horio
堀尾 謙介

所　　属：トヨタ自動車
生年月日：1996年8月12日
年　　齢：23歳
出 身 地：兵庫県
身長・体重：183cm・61kg
出 身 校：大白書中（兵庫）→須磨学園高（兵庫）
→中央大

男子最年少MGCファイナリスト

出場権獲得大会成績	19年	東京マラソン	5位	2.10.21	日本人1位

学生ではただ1人、MGC出場権をつかんだ男子マラソン界のホープ。兵庫の名門・須磨学園高のエースとして活躍し、中大4年生だった昨年は5000mで学生ランキングトップの13分33秒51を記録。今年1月の箱根駅伝では各校のエースが集う2区で先頭争いを演じた。冷雨となった3月の東京マラソンでは、初マラソンながら日本人トップの5位（2時間10分21秒／学生歴代7位タイ）で駆け抜けた。今春、トヨタ自動車に入社。男子では最年少として、チームの先輩である宮脇千尋、藤本拓、服部勇馬とともに大舞台に挑む。

マラソン全成績

2019. 3. 3	東　京	5位	2.10.21

自己ベスト

5000m	13.33.51	2018.11.11	日体大長距離競技会
10000m	28.34.54	2016.11.26	関東学連10000m記録挑戦競技会
ハーフマラソン	1.01.57	2018.10.13	箱根駅伝予選会
マラソン	2.10.21	2019. 3. 3	東京マラソン

年度別主要大会実績

11年（中3）IM3000m予選
12年（高1）—
13年（高2）—
14年（高3）IH5000m⑪
15年（大1）—
16年（大2）—
17年（大3）IC10000m⑲
18年（大4）—
19年（社1）—

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No.23

マラソンPB 日本歴代10位
2.07.39

Masato Imai
今井 正人

所　　属：トヨタ自動車九州
生年月日：1984年4月2日
年　　齢：35歳
出 身 地：福島県
身長・体重：169cm・56kg
出 身 校：小高中（福島）→原町高（福島）→順天堂大

悲願の五輪に懸ける35歳

出場権獲得大会成績	I9年	東京マラソン	6位	2.10.30	日本人2位

高校時代からインターハイ5000m5位など実績を残し、順大2年時の箱根駅伝では山上りの5区で驚異的な区間新記録を打ち立ててI2人抜きを達成。〝山の神〟と称された。トヨタ自動車九州に入社後、しばらく苦戦が続いたものの、2015年2月の東京マラソンで当時日本歴代6位の2時間7分39秒をマーク。同年の北京世界選手権代表に選出された。だが、大会直前に髄膜炎を患って欠場。その影響をしばらく引きずっていたが、今年3月の東京マラソンで日本人2位となり、復活をアピールした。

マラソン全成績　※上位選手の失格で繰り上がり

2008. 8.31	北海道	10位	2.18.34
2010.12. 5	福　岡	5位	2.13.23
2011. 3. 6	びわ湖	6位	2.10.41
2011.12. 4	福　岡	4位	2.10.32
2012. 3. 4	びわ湖	41位※	2.17.50
2013. 2.24	東　京	11位	2.10.29
2013.11. 3	ニューヨーク	6位	2.10.45
2014. 2. 2	別府大分	2位	2.09.30
2014.11. 2	ニューヨーク	7位	2.14.36
2015. 2.22	東　京	7位	2.07.39
2015. 8.22	世界選手権	棄権	—
2016. 2.28	東　京	13位	2.12.18
2017. 2.26	東　京	14位	2.11.02
2017.10. 8	アイントホーフェン	10位	2.17.00
2018. 3. 4	びわ湖	9位	2.11.38
2019. 3. 3	東　京	6位	2.10.30

自己ベスト

5000m	13.47.15	2014. 5.10	ゴールデンゲームズinのべおか
10000m	28.18.15	2010. 9.24	全日本実業団選手権
ハーフマラソン	1.02.36	2017. 5.14	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2.07.39	2015. 2.22	東京マラソン

年度別主要大会実績

01年(高2) WY3000m⑮, WCCジュニア㉕, IH5000m⑫
02年(高3) IH5000m⑤
03年(大1) —
04年(大2) —
05年(大3) WCC㊸, IC10000m⑲
06年(大4) IC10000m⑩
07年(社1) —
08年(社2) —
09年(社3) —
10年(社4) WHM⑫
11年(社5) NC10000m⑯
12年(社6) —
13年(社7) NC10000m④
14年(社8) NC10000m⑰
15年(社9) —
16年(社10) —
17年(社11) —
18年(社12) —
19年(社13) —

No.24

マラソンPB
2.10.35

Takuya Fujikawa
藤川 拓也

所　　属：中国電力
生年月日：1992年12月17日
年　　齢：26歳
出 身 地：広島県
身長・体重：163cm・49kg
出 身 校：十日市中（広島）→世羅高（広島）→青山学院大

自己新連発の中国電力キャプテン

出場権獲得大会成績	I9年	東京マラソン	7位	2.10.35	日本人3位

広島・世羅高では3年連続で全国高校駅伝に出走し、2年時には優勝を経験。青学大では2年時に出雲駅伝（2区）の初優勝メンバーとなり、4年時には主将として9区区間賞の活躍で、チームの初優勝を牽引した。社会人2年目の2017年びわ湖で初マラソンに挑戦し、4戦目となった今年3月の東京マラソンで日本人3番手の7位。昨年はマラソン練習の過程で10000m27分台に突入し、今年2月にはハーフマラソンでも自己記録を更新。今季は中国電力の主将を務めている。

マラソン全成績

2017. 3. 5	びわ湖	24位	2.16.24
2018. 2. 4	別府大分	6位	2.11.59
2018. 7. 1	ゴールドコースト	12位	2.15.59
2019. 3. 3	東　京	7位	2.10.35

自己ベスト

5000m	13.51.40	2013. 9.29	日体大長距離競技会
10000m	27.58.87	2018.11.24	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.01.46	2019. 2. 3	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.10.35	2019. 3. 3	東京マラソン

年度別主要大会実績

06年(中2) IMI500m予選
07年(中3) IMI500m予選・3000m予選
08年(高1) —
09年(高2) —
10年(高3) —
11年(大1) —
12年(大2) —
13年(大3) —
14年(大4) —
15年(社1) NC10000m⑰
16年(社2) —
17年(社3) —
18年(社4) —
19年(社5) NC10000m⑱

No.25

マラソンPB
2.10.18

Daichi Kamino
神野 大地

所　　属：セルソース
生年月日：1993年9月13日
年　　齢：26歳
出 身 地：愛知県
身長・体重：165cm・46kg
出 身 校：神守中（愛知）→中京大中京高（愛知）→青山学院大

〝東京〟でワイルドカードつかむ

出場権獲得大会成績	I8年	東京マラソン	I8位	2.10.18	日本人I2位
	I9年	東京マラソン	8位	2.11.05	日本人4位（ワイルドカード）

青学大3年時の箱根駅伝5区で驚異的なタイムを残し、チームの初優勝に大きく貢献。今井正人、柏原竜二に続く〝3代目・山の神〟として世間の注目を集めた。卒業後は実業団のコニカミノルタに進み、2017年12月の福岡で初マラソンに挑むと、I8年5月にはプロランナーに転向。I9年の東京マラソンでは「対象2大会の平均が2時間11分00秒以内」という条件をクリアし、ワイルドカードでMGC出場を決めた。ケニアやエチオピアでトレーニングを敢行するなど独自のチャレンジを続けている。

マラソン全成績

2017.12. 3	福　岡	13位	2.12.50	
2018. 2.25	東　京	18位	2.10.18	
2018. 9.16	ベルリン	途中棄権	—	
2018.12. 2	福　岡	29位	2.19.28	
2019. 3. 3	東　京	8位	2.11.05	

自己ベスト

5000m	13.56.05	2018. 4.22	日体大長距離競技会
10000m	28.17.54	2016. 7.11	ホクレンディスタンスチャレンジ網走
ハーフマラソン	1.01.04	2017. 2. 5	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.10.18	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

11年(高3) IH5000m予選
12年(大1) AJI0000m②
13年(大2) —
14年(大3) IC10000m㉕
15年(大4) —
16年(社1) NC10000m⑮
17年(社2) NC10000m⑳
18年(社3) —
19年(社4) —

No.26

マラソンPB
2.09.12

Hiroyuki Yamamoto
山本 浩之

所　　属：コニカミノルタ
生年月日：1986年4月30日
年　　齢：33歳
出 身 地：埼玉県
身長・体重：172cm・54kg
出 身 校：与野東中（埼玉）→川口北高（埼玉）→東洋大

ニューヨーク4位の実力者

出場権獲得大会成績	I9年	びわ湖毎日マラソン	I0位	2.10.33	日本人3位

埼玉・川口北高ではサッカー部に所属しながら、3年時の8月には国体予選5000mに出場して初レースで14分43秒25。東洋大4年時には箱根駅伝で2区を務め、初優勝メンバーとなった。2014年8月の北海道でマラソンデビュー。16年11月のニューヨークシティ・マラソンで日本勢過去最高位の4位に食い込むと、17年2月の東京マラソンで初サブテンとなる2時間9分12秒（10位）で走り、ロンドン世界選手権代表の補欠に選出。19年びわ湖毎日マラソンでMGC出場権を獲得した。10000m自己ベスト27分台のスピードと安定感が武器。

マラソン全成績

2014. 8.31	北海道	17位	2.21.54
2015. 2. 1	別府大分	3位	2.11.48
2016.11. 6	ニューヨークシティ	4位	2.11.49
2017. 2.26	東　京	10位	2.09.12
2018. 2.25	東　京	途中棄権	—
2019. 3.10	びわ湖	10位	2.10.33

自己ベスト

5000m	13.45.43	2010. 7.14	ホクレンディスタンスチャレンジ北見
10000m	27.55.40	2015.11.28	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.02.41	2018. 7. 1	函館マラソン
マラソン	2.09.12	2017. 2.26	東京マラソン

年度別主要大会実績

04年(高3) —
05年(大1) —
06年(大2) —
07年(大3) —
08年(大4) —
09年(社1) —
10年(社2) —
11年(社3) —
12年(社4) —
13年(社5) —
14年(社6) —
15年(社7) —
16年(社8) NC10000m⑦
17年(社9) —
18年(社10) —
19年(社11) —

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No.27

マラソンPB
2.10.50

Daiji Kawai

河合 代二

所　　属：トーエネック
生年月日：1991年９月22日
年　　齢：27歳
出 身 地：岐阜県
身長・体重：175cm・54kg
出 身 校：上之保中（岐阜）→関商工高（岐阜）
→麗澤大

2019年に大ブレイク

出場権獲得大会成績					
19年	びわ湖毎日マラソン	11位	2.10.50	日本人４位	
		※MGC獲得者除く日本人2位			

岐阜・関商工高３年時は県駅伝１区４位。麗澤大では、２年時の箱根駅伝予選会で84位となり関東学連選抜に名を連ねたが、本戦出場はならなかった。４年時には箱根予選会27位と健闘。2015年にトーエネックに入社し、5000m 13分45秒91、10000m28分08秒52へと成長した。19年びわ湖毎日マラソンで２時間10分50秒をマークし、ＭＧＣ出場権獲得者を除く日本人２位で出場権獲得。４月の織田記念5000m３位（13分51秒56）、日本選手権10000m５位（28分43秒45）と好調を維持している。

マラソン全成績

2018. 3. 4	びわ湖	42位	2.23.13
2018. 8.26	北海道	60位	2.28.25
2019. 3.10	びわ湖	11位	2.10.50

自己ベスト

5000m	13.45.91	2018. 7.11	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
10000m	28.08.52	2018.11.24	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.02.45	2019. 2. 3	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.10.50	2019. 3.10	びわ湖毎日マラソン

年度別主要大会実績

09年（高３）―
10年（大１）―
11年（大２）―
12年（大３）―
13年（大４）―
14年（社１）―
15年（社２）―
16年（社３）―
17年（社４）―
18年（社５）NC10000m⑬
19年（社６）NC10000m⑤

No.28

マラソンPB
2.10.02

Ryu Takaku

髙久 龍

所　　属：ヤクルト
生年月日：1993年２月18日
年　　齢：26歳
出 身 地：栃木県
身長・体重：168cm・54kg
出 身 校：黒磯北中（栃木）→那須拓陽高（栃木）
→東洋大

ハンブルクの自己新でMGC獲得

出場権獲得大会成績					
18年	ゴールドコースト・マラソン	６位	2.11.45		
19年	ハンブルク・マラソン	７位	2.10.02	※ワイルドカード	

栃木・黒磯北中３年時には全中1500m決勝進出（13位）。那須拓陽高２年時には全国高校駅伝にも出場した。東洋大では２年時から主力として活躍。３年時の箱根駅伝では８区区間賞で総合優勝に貢献した。2018年２月の別府大分で初マラソン（２時間12分12秒）。今年２月の丸亀ハーフマラソンで１時間１分58秒の自己新をマークすると、有効期限ギリギリとなる４月のハンブルク・マラソンで自己新の２時間10分02秒を出し、昨年７月のゴールドコースト・マラソン（２時間11分45秒）との２試合平均タイムでＭＧＣ出場権を手にした。

マラソン全成績

2018. 2. 4	別府大分	７位	2.12.12
2018. 7. 1	ゴールドコースト	６位	2.11.45
2018.12. 2	福　岡	30位	2.19.51
2019. 3. 3	東　京	９位	2.11.49
2019. 4.28	ハンブルク	７位	2.10.02

自己ベスト

5000m	13.57.89	2016. 6. 5	日体大長距離競技会
10000m	28.36.71	2015.11.28	八王子ロングディスタンス
ハーフマラソン	1.01.58	2019. 2. 3	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.10.02	2019. 4.28	ハンブルクマラソン

年度別主要大会実績

07年（中３）IM1500m⑬
08年（高１）―
09年（高２）―
10年（高３）―
11年（大１）―
12年（大２）―
13年（大３）―
14年（大４）―
15年（社１）―
16年（社２）―
17年（社３）―
18年（社４）―
19年（社５）―

No.29

マラソンPB
2.09.36

Kohei Ogino

荻野 皓平

所　　属：富士通
生年月日：1989年12月８日
年　　齢：29歳
出 身 地：奈良県
身長・体重：174cm・58kg
出 身 校：都祁中（奈良）→智辯学園高（奈良）
→國學院大

東京&ハンブルクでMGC獲得

出場権獲得大会成績					
18年	東京マラソン	12位	2.09.36		
19年	ハンブルク・マラソン	９位	2.10.15	※ワイルドカード	

奈良・智辯学園高時代はインターハイ出場経験はないものの、全国高校駅伝には２度出場。國學院大ではエースとして活躍し、箱根駅伝では〝花の２区〟に２年連続で出走した。富士通では一度も全日本実業団駅伝出走経験はないが、ロードで実力を発揮。2018年の東京マラソンで２時間９分36秒と自身初のサブテンを果たすと、ラストチャンスとなった今年４月のハンブルク・マラソンでも好走し、ＭＧＣ切符を得た。

マラソン全成績

2013.12.15	防　府	３位	2.13.12
2015. 4.19	長　野	３位	2.11.42
2016. 3. 6	びわ湖	21位	2.17.14
2017. 2. 5	別府大分	16位	2.15.10
2017.12. 3	福　岡	41位	2.24.55
2018. 2.25	東　京	12位	2.09.36
2018.12. 2	福　岡	18位	2.16.04
2019. 4.28	ハンブルク	９位	2.10.15

自己ベスト

5000m	14.14.12	2011. 9.25	日体大長距離競技会
10000m	28.56.00	2010.12. 4	日体大長距離競技会
ハーフマラソン	1.03.18	2011. 2. 6	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.36	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

07年（高３）―
08年（大１）―
09年（大２）―
10年（大３）―
11年（大４）―
12年（社１）―
13年（社２）―
14年（社３）―
15年（社４）―
16年（社５）―
17年（社６）―
18年（社７）―
19年（社８）―

No.30

マラソンPB
2.09.43

Tadashi Isshiki

一色 恭志

所　　属：ＧＭＯアスリーツ
生年月日：1994年６月５日
年　　齢：25歳
出 身 地：京都府
身長・体重：169cm・55kg
出 身 校：橋立中（京都）→仙台育英高（宮城）
→豊川高（愛知）→青山学院大

大学３年からマラソンに挑む25歳

出場権獲得大会成績					
18年	東京マラソン	13位	2.09.43		
19年	ハンブルク・マラソン	11位	2.11.23	※ワイルドカード	

愛知・豊川高３年時に全国高校駅伝を制し、青学大では２年時から箱根駅伝３連勝。そのすべてで主要区間を任され、トラックでも関東インカレ２部5000mを制するなど、チームの大黒柱として活躍した。大学３年時の2016年東京で初マラソンに挑み、日本人３番手の11位と好走。ＧＭＯアスリーツに入社してからは18年東京マラソンで２時間９分43秒の自己新をマークし、今年４月のハンブルク・マラソン（２時間11分23秒）でＭＧＣ出場権を獲得。青学大出身者として初の五輪マラソン代表を目指す。

マラソン全成績

2016. 2.28	東　京	11位	2.11.45
2017. 3. 5	びわ湖	途中棄権	―
2017.12.17	防　府	８位	2.15.43
2018. 2.25	東　京	13位	2.09.43
2018.10.28	フランクフルト	17位	2.14.49
2019. 3. 3	東　京	10位	2.12.21
2019. 4.28	ハンブルク	11位	2.11.23

自己ベスト

5000m	13.39.65	2016. 6.26	日本選手権
10000m	28.23.40	2014. 7. 6	ホクレンディスタンスチャレンジ網走
ハーフマラソン	1.02.09	2015. 2. 1	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2.09.43	2018. 2.25	東京マラソン

年度別主要大会実績

09年（中３）IM800m準決勝
10年（高１）―
11年（高２）IH5000m⑩
12年（高３）WCCジュニア㉛
13年（大１）IC1500m予選
14年（大２）IC10000m途中棄権
15年（大３）USハーフ②、IC5000m④
16年（大４）NC5000m④、IC5000m③
17年（社１）NC10000m⑭
18年（社２）―
19年（社３）―

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No. 31

マラソンPB
2.10.21

Kengo Suzuki
鈴木 健吾

所　　属：富士通
生年月日：1995年６月11日
年　　齢：24歳
出 身 地：愛媛県
身長・体重：163cm・47kg
出 身 校：宇和島城東中（愛媛）→宇和島東高（愛媛）
　　→神奈川大

キャリア2戦目のハンブルクでMGC獲得

出場権獲得大会成績					
	18年	東京マラソン	19位	2.10.21	
	19年	ハンブルク・マラソン	13位	2.11.36	※ワイルドカード

愛媛・宇和島東高３年時はインターハイ5000m10位。神奈川大では３年時の箱根駅伝で２区区間賞を獲得し、一躍学生長距離界のエースに君臨した。４年時はユニバーシアードのハーフマラソンで銅メダルを獲得したほか、全日本大学駅伝ではアンカーを務めて逆転での20年ぶりVに貢献。卒業前の2018年東京マラソンでは当時学生歴代６位の２時間10分21秒をマークした。富士通入社後は左膝の故障に苦しめられたが、今年４月のハンブルク・マラソンで復活。ワイルドカードでMGC出場を決めた。

マラソン全成績

2018. 2.25	東　京	19位	2.10.21
2019. 4.28	ハンブルク	13位	2.11.36

自己ベスト

5000m	13.57.88	2016. 4. 2	世田谷競技会
10000m	28.30.16	2016. 7.14	ホクレンディスタンスチャレンジ北見
ハーフマラソン	1.01.36	2017. 3. 5	日本学生ハーフマラソン
マラソン	2.10.21	2018. 2.25	東京マラソン

主な実績

13年（高３）IH5000m⑩
14年（大１）―
15年（大２）―
16年（大３）―
17年（大４）USハーフ③
18年（社１）―
19年（社２）―

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

私たちは感動の「場」を支えます。

会場設営、運営、警備、施設管理など
イベントに携わるすべての道のプロフェッショナルが揃った会社、
それがシミズオクトです。

私たちは1932年の創業以来、80年以上にわたり、
野球・サッカーの公式試合をはじめ
あらゆるスポーツの大会、コンサート、展示会、博覧会など
さまざまなイベントの快適性や安全性をサポートしてきました。

これからもシミズオクトは、感動を創る「場」を支え続けます。

シミズオクトは
マラソングランドチャンピオンシップを応援しています。

シミズオクト
www.shimizu-group.co.jp

名鑑データについて

年齢は大会当日（9月15日）のもの
データは8月20日時点
年度別（4月～翌年3月）主要大会実績内の略称は右記の通り

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権
WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード

WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア
AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No.1

マラソンPB
2.23.48

Honami Maeda
前田 穂南

所　　属：天満屋
生年月日：1996年7月17日
年　　齢：23歳
出 身 地：兵庫県
身長・体重：166cm・46kg
出 身 校：園田東中（兵庫）→薫英女学院高（大阪）

MGC決定女子第1号

出場権獲得大会成績	17年	北海道マラソン	1位	2.28.48	

MGC最初の指定レースとなった2017年北海道マラソンを、2時間28分48秒で制し、女子のMGC出場権獲得者第1号となった。翌18年の大阪国際女子マラソンでは大阪・薫英女学院高時代の1つ先輩、松田瑞生（ダイハツ）に敗れたものの、自己記録を5分更新する2時間23分48秒（2位）をマークしている。高校時代は全国高校駅伝で3年間補欠登録という悔しさを味わったが、00年シドニーから12年ロンドンまで4大会連続で五輪マラソン選手を輩出した名門の成長株だ。

マラソン全成績

2017. 1.29	大阪国際	12位	2.32.19
2017. 8.27	北海道	優勝	2.28.48
2018. 1.28	大阪国際	2位	2.23.48
2018. 9.16	ベルリン	7位	2.25.23
2019. 3. 3	東　京	12位	2.31.42

自己ベスト

3000m	9.23.06	2016. 7. 7	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
5000m	15.38.16	2018. 7.14	ホクレンディスタンスチャレンジ士別
10000m	32.13.87	2018. 7.11	ホクレンディスタンスチャレンジ深川
ハーフマラソン	1.09.12	2018.12.23	山陽女子ロードレース
マラソン	2.23.48	2018. 1.28	大阪国際女子マラソン

年度別主要大会実績

14年（高3）—
15年（社1）—
16年（社2）—
17年（社3）WHM㉟
18年（社4）—
19年（社5）—

No.2

マラソンPB 日本歴代9位
2.22.23

Mizuki Matsuda
松田 瑞生

所　　属：ダイハツ
生年月日：1995年5月31日
年　　齢：24歳
出 身 地：大阪府
身長・体重：158cm・46kg
出 身 校：大和川中（大阪）→薫英女学院高（大阪）

スピード武器にマラソンも躍進

出場権獲得大会成績	18年	大阪国際女子マラソン	1位	2.22.44	

高校時代も3年連続で全国高校駅伝に出場するなど活躍したが、実業団でさらに成長。初マラソンとなった2018年大阪国際女子マラソンを日本歴代9位の2時間22分44秒で制し、MGC出場権を獲得。8ヵ月後のベルリン・マラソンで2時間22分23秒と短縮。10000mで17年、18年と日本選手権連覇、17年ロンドン世界選手権出場というスピードもさることながら、早くから志したマラソンで結果を残している。大阪出身で、小・中・高を経て実業団も大阪のチームと、生粋の浪速っ子である。

マラソン全成績

2018. 1.28	大阪国際	優勝	2.22.44
2018. 9.16	ベルリン	5位	2.22.23

自己ベスト

3000m	9.08.23	2013. 8. 3	全国高校総体
5000m	15.46.40	2016. 5.21	関西実業団選手権
10000m	31.39.41	2017. 6.23	日本選手権
ハーフマラソン	1.10.25	2016. 2.14	全日本実業団ハーフ
マラソン	2.22.23	2018. 9.16	ベルリンマラソン

年度別主要大会実績

10年（中3）IM1500m予選
11年（高1）IH3000m予選
12年（高2）IH3000m予選
13年（高3）IH3000m⑥
14年（社1）—
15年（社2）WHM⑰
16年（社3）NC10000m④
17年（社4）WC10000m⑲，AC10000m③，NC10000m①
18年（社5）NC10000m①
19年（社6）NC10000m⑩

No.3

マラソンPB 日本歴代4位
2.21.36

Yuka Ando
安藤 友香

所　　属：ワコール
生年月日：1994年3月16日
年　　齢：25歳
出 身 地：岐阜県
身長・体重：160cm・42kg
出 身 校：日新中（岐阜）→豊川高（愛知）

現役最速記録保持者

出場権獲得大会成績	18年	大阪国際女子マラソン	3位	2.27.37	

愛知・豊川高時代は全国高校駅伝で2度優勝を経験。2014年にスズキ浜松ACに入ると、16年の世界ハーフで10位。さらに17年名古屋ウィメンズマラソンでは日本歴代4位、初マラソン日本最高の2時間21分36秒をマークし、衝撃のマラソンデビューを飾った。同年のロンドン世界選手権は17位に終わったが、18年大阪国際女子マラソンでは2時間27分37秒で3位に入り、MGC出場権を獲得。今年2月にワコールへ移籍した。腕を大きく振らない独特のフォームが特徴だ。

マラソン全成績

2017. 3.12	名古屋	2位	2.21.36
2017. 8. 6	世界選手権	17位	2.31.31
2018. 1.28	大阪国際	3位	2.27.37
2019. 4.28	ロンドン	13位	2.26.47

自己ベスト

3000m	9.02.73	2013. 9.21	静岡県長距離強化記録会
5000m	15.32.67	2015.11.14	静岡県長距離強化記録会
10000m	31.58.71	2016. 7.11	ホクレンディスタンスチャレンジ網走
ハーフマラソン	1.09.47	2019. 7. 7	函館マラソン
マラソン	2.21.36	2017. 3.12	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

07年（中2）IM800m予選・1500m予選
08年（中3）—
09年（高1）WCCジュニア㉒
10年（高2）IH3000m⑱
11年（高3）IH3000m予選
12年（社1）—
13年（社2）—
14年（社3）—
15年（社4）WHM⑩
16年（社5）NC5000m⑳・10000m⑬
17年（社6）WCマラソン⑰
18年（社7）—
19年（社8）—

No.4

マラソンPB
2.23.07

Hanami Sekine
関根 花観

所　　属：日本郵政グループ
生年月日：1996年2月26日
年　　齢：23歳
出 身 地：東京都
身長・体重：156cm・43kg
出 身 校：金井中（東京）→仙台育英高（宮城）→豊川高（愛知）

2大会連続五輪はマラソンで

出場権獲得大会成績	18年	名古屋ウィメンズマラソン	3位	2.23.07	日本人1位

宮城・仙台育英高から、東日本大震災の影響で愛知・豊川高に転校。3年時の全国高校駅伝で1区（3位）を走り、優勝に貢献した。実業団に入ると先輩・鈴木亜由子とともに台頭。2016年日本選手権10000mでは優勝した鈴木に次ぐ2位を占め、リオ五輪代表に選ばれた。初マラソンは18年名古屋ウィメンズマラソンで、2時間23分07秒をマーク。初マラソン日本歴代4位の好タイムで日本人トップの3位に入り、MGC出場権をつかんだ。

マラソン全成績

2018. 3.11	名古屋	3位	2.23.07

自己ベスト

3000m	9.04.85	2017. 5.13	静岡県長距離強化記録会
5000m	15.24.74	2016. 6.26	日本選手権
10000m	31.22.92	2016. 6.24	日本選手権
ハーフマラソン	1.12.42	2018. 5.13	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2.23.07	2018. 3.11	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

10年（中3）IM1500m⑭
11年（高1）—
12年（高2）—
13年（高3）—
14年（社1）AJ3000m②
15年（社2）NC5000m⑰
16年（社3）OG10000m⑳，NC5000m③・10000m②
17年（社4）NC5000m⑲・10000m⑥
18年（社5）—
19年（社6）—

No. 5

マラソンPB
2.23.52

Reia Iwade
岩出 玲亜

所　　属：アンダーアーマー
生年月日：1994年12月８日
年　　齢：24歳
出 身 地：三重県
身長・体重：155cm・39kg
出 身 校：一志中（三重）→豊川高（愛知）

マラソンに懸けるプロランナー

出場権獲得大会成績	18年	名古屋ウィメンズマラソン	4位	2.26.28	日本人２位

愛知・豊川高時代は全国高校駅伝１区５位。実業団１年目の2013年にハーフマラソンで１時間９分45秒のU20日本最高をマーク。さらに、翌14年横浜国際女子マラソンで初マラソンに臨み、２時間27分21秒で３位。当時19歳で「10代日本最高」をマークして注目された。17年には「マラソンに専念したい」とプロ転向。18年名古屋ウィメンズマラソンでは日本人２番手の２時間26分28秒で４位となり、ＭＧＣ出場権を獲得した。今年の同大会では２時間23分52秒（５位）の自己新をマークした。

マラソン全成績　※=上位選手の失格で繰り上がり

2014. 11. 16	横浜国際	3位	2. 27. 21
2015. 3. 8	名古屋	7位※	2. 29. 16
2016. 3. 5	名古屋	5位	2. 24. 38
2016. 9. 25	ベルリン	4位	2. 28. 16
2017. 3. 12	名古屋	途中棄権	—
2017. 11. 12	さいたま	5位	2. 31. 10
2018. 3. 11	名古屋	4位	2. 26. 28
2019. 3. 10	名古屋	5位	2. 23. 52

自己ベスト

3000m	9. 13. 30	2012. 9. 22	駅伝強化豊川長距離競技会
5000m	15. 42. 50	2015. 12. 5	姫路長距離記録会
10000m	32. 13. 21	2015. 6. 26	日本選手権
ハーフマラソン	1. 09. 45	2013. 12. 23	山陽女子ロードレース
マラソン	2. 23. 52	2019. 3. 10	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

12年（高３）—
13年（社１）WHM⑲
14年（社２）NC10000m⑲
15年（社３）NC10000m⑥
16年（社４）—
17年（社５）NC10000m⑮
18年（社６）—
19年（社７）—

No. 6

マラソンPB
2.26.33

Keiko Nogami
野上 恵子

所　　属：十八銀行
生年月日：1985年12月６日
年　　齢：33歳
出 身 地：兵庫県
身長・体重：160cm・45kg
出 身 校：小野南中（兵庫）→須磨学園高（兵庫）

18年アジア大会銀メダリスト

出場権獲得大会成績	18年	名古屋ウィメンズマラソン	5位	2.26.33	日本人３位

昨年のジャカルタ・アジア大会の銀メダルを獲得したベテラン。初マラソンは2015年の名古屋ウィメンズマラソンで、２時間28分19秒（６位）をマークすると、17年秋のアジア選手権は銀メダルを獲得。18年の名古屋ウィメンズマラソンで自己ベストとなる２時間26分33秒で日本人３番手の５位でＭＧＣ出場を決めた。高校時代は全国高校駅伝で３年連続補欠登録、実業団では最初の所属先が廃部と苦しい時期もあったが、30代でマラソンだけでなく、トラック種目でも自己記録を塗り替えている。

マラソン全成績　※=上位選手の失格で繰り上がり

2015. 3. 8	名古屋	5位※	2. 28. 19
2015. 7. 5	ゴールドコースト	2位	2. 29. 34
2017. 3. 12	名古屋	12位	2. 32. 01
2017. 8. 27	北海道	2位	2. 30. 11
2017. 11. 26	アジア選手権	2位	2. 29. 05
2018. 3. 11	名古屋	5位	2. 26. 33
2018. 8. 26	アジア大会	2位	2. 36. 27
2019. 3. 3	東　京	20位	2. 38. 23

自己ベスト

3000m	9. 20. 38	2016. 9. 24	長崎県ナイター記録会
5000m	15. 24. 70	2018. 5. 5	ゴールデンゲームズinのべおか
10000m	32. 07. 70	2018. 5. 19	九州実業団選手権
ハーフマラソン	1. 09. 27	2019. 5. 12	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2. 26. 33	2018. 3. 11	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

06年（高３）—
07年（社１）—
08年（社２）NC5000m⑭
09年（社３）NC5000m⑧
10年（社４）—
11年（社５）—
12年（社６）—
13年（社７）—
14年（社８）—
15年（社９）NC10000m⑰
16年（社10）—
17年（社11）—
18年（社12）AGマラソン②
19年（社13）—

No. 7

マラソンPB
2.28.32

Ayuko Suzuki
鈴木亜由子

所　　属：日本郵政グループ
生年月日：1991年10月８日
年　　齢：27歳
出 身 地：愛知県
身長・体重：154cm・38kg
出 身 校：豊城中（愛知）→時習館高（愛知）
　　→名古屋大

18年北海道で初マラソン初優勝

出場権獲得大会成績	18年	北海道マラソン	1位	2.28.32	

中２で全中800m、1500mの２冠など、中学時代から注目された逸材。高校時代は故障に苦しんだものの、大学では5000mで2010年世界ジュニア選手権５位、13年ユニバーシアードでは10000mで金メダル、5000mでも銀メダルを獲得した。その後、15年世界選手権5000m９位、16年リオ五輪と17年ロンドン世界選手権は２種目で代表入りしてロンドンの10000mで10位と日本のトラック長距離を牽引。18年の北海道マラソンでついに42.195kmに初挑戦し、２時間28分32秒で優勝した。

マラソン全成績

2018. 8. 26	北海道	優勝	2. 28. 32

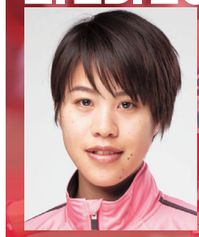
自己ベスト

3000m	8. 58. 08	2014. 9. 27	日体大長距離競技会
5000m	15. 08. 29	2015. 8. 30	世界選手権
10000m	31. 18. 16	2016. 5. 1	ペイトン・ジョーダン招待
ハーフマラソン	1. 07. 55	2019. 2. 3	香川丸亀国際ハーフマラソン
マラソン	2. 28. 32	2018. 8. 26	北海道マラソン

年度別主要大会実績

04年（中１）IM800m準決勝
05年（中２）IM800m①・1500m①
06年（中３）IM800m⑤・1500m①
07年（高１）IH1500m⑪
08年（高２）IH1500m⑮
09年（高３）IH3000m⑧
10年（大１）WJ5000m⑤，IC5000m③
11年（大２）IC5000m①
12年（大３）WCC㊷，NC5000m⑩、IC5000m①
13年（大４）US5000m②・10000m①，NC5000m④，IC5000m②
14年（社１）—
15年（社２）WC5000m⑨，NC5000m③
16年（社３）OG5000m予選，NC5000m②・10000m①
17年（社４）WC5000m予選・10000m⑩，NC5000m②・10000m②
18年（社５）NC10000m②
19年（社６）NC10000m②

No. 8



マラソンPB
2.23.20

Rei Ohara
小原　怜

所　　属：天満屋
生年月日：1990年８月10日
年　　齢：29歳
出 身 地：岡山県
身長・体重：165cm・47kg
出 身 校：倉敷西中（岡山）→興譲館高（岡山）

「1秒差」の雪辱期す

出場権獲得大会成績	18年	名古屋ウィメンズマラソン	8位	2.27.44	日本人５位
	18年	ベルリン・マラソン	10位	2.27.29	※ワイルドカード

高校時代は全国高校駅伝１区区間賞や、2007年世界ユース選手権、08年世界ジュニア選手権代表など国内外で実績を残した。実業団７年目の15年、日本選手権10000mで３位に入り、同年の北京世界選手権に出場。マラソンは２度目の挑戦となった16年名古屋ウィメンズマラソンで自己新の２時間23分20秒（２位）をマークしたものの、１秒差でリオ五輪代表を逃した。18年の名古屋ウィメンズマラソンと同年のベルリン・マラソンでいずれも２時間27分台をマークし、ワイルドカードでＭＧＣ出場権を得た。

マラソン全成績　※=上位選手の失格で繰り上がり

2015. 3. 8	名古屋	118位※	3. 05. 21
2016. 3. 13	名古屋	3位	2. 23. 20
2018. 3. 11	名古屋	8位	2. 27. 44
2018. 9. 16	ベルリン	10位	2. 27. 29
2019. 1. 27	大阪国際	2位	2. 25. 46

自己ベスト

3000m	9. 11. 11	2010. 9. 25	全日本実業団選手権
5000m	15. 39. 47	2016. 11. 19	中国実業団長距離記録会
10000m	31. 48. 31	2015. 7. 16	ホクレンディスタンスチャレンジ網走
ハーフマラソン	1. 09. 17	2015. 12. 23	山陽女子ロードレース
マラソン	2. 23. 20	2016. 3. 13	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

06年（高１）IH800m準決勝
07年（高２）WY1500m⑨，IH800m③・1500m④
08年（高３）WJ3000m⑩，IH1500m③・3000m⑬
09年（社１）—
10年（社２）NC5000m⑫
11年（社３）AC1500m⑦・5000m⑦，NC1500m③・5000m④
12年（社４）—
13年（社５）—
14年（社６）—
15年（社７）WC10000m㉒，NC10000m③
16年（社８）NC5000m㉑・10000m⑩
17年（社９）—
18年（社10）—
19年（社11）—

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

No. 9

マラソンPB 日本歴代8位
2.22.17

Kayoko Fukushi
福士加代子

所　　属：ワコール
生年月日：1982年３月25日
年　　齢：37歳
出 身 地：青森県
身長・体重：160cm・46kg
出 身 校：板柳中（青森）→五所川原工高（青森）

女子長距離界のレジェンド

出場権獲得大会成績	19年	名古屋ウィメンズマラソン	8位	2.24.09	日本人２位
			※MGC獲得者除く日本人１位		

五輪に４度、世界選手権に５度出場し、日本選手権は2004年からの４年連続２冠を含む5000m６回、10000m７回の優勝を誇る女子長距離界のレジェンド。3000m、5000m、ハーフマラソンの日本記録を持ち、13年モスクワ世界選手権はマラソンで銅メダルに輝く。16年リオ五輪（14位）以来のマラソンだった今年１月の大阪国際女子マラソンは途中棄権となったが、３月の名古屋ウィメンズマラソンでMGC切符を獲得。日本のマラソン選手として史上最年長（38歳４ヵ月）、全競技通じて女子で最多タイの５大会連続五輪を懸ける。

マラソン全成績　※=上位選手の失格で繰り上がり

2008. 1.27	大阪国際	19位	2.40.54
2011.10. 9	シカゴ	２位※	2.24.38
2012. 1.29	大阪国際	８位※	2.37.35
2013. 1.27	大阪国際	優勝※	2.24.21
2013. 8.10	世界選手権	３位	2.27.45
2014. 9.28	ベルリン	６位	2.26.25
2015.10.11	シカゴ	４位	2.24.25
2016. 1.31	大阪国際	優勝	2.22.17
2016. 8.14	五　輪	14位	2.29.53
2019. 1.27	大阪国際	途中棄権	—
2019. 3.10	名古屋	８位	2.24.09

自己ベスト

3000m	8.44.40	2002. 7. 5	ＧＬバリ　日本記録
5000m	14.53.22	2005. 7. 8	ＧＬローマ　日本記録
10000m	30.51.81	2002.10. 8	アジア大会
ハーフマラソン	1.07.26	2006. 2. 5	香川丸亀国際ハーフマラソン　日本記録
マラソン	2.22.17	2016. 1.31	大阪国際女子マラソン

年度別主要大会実績

99年(高３) AJ5000m③, IH3000m⑫
00年(社１) WJ5000m④, NC5000m③
01年(社２) WCC⑮, NC5000m②
02年(社３) AG5000m②・10000m②, NC5000m①・10000m①
03年(社４) WC10000m⑪・5000m予選, NC10000m①
04年(社５) OG10000m㉖, NC5000m①・10000m①
05年(社６) WC5000m⑫・10000m⑪, NC5000m①・10000m①
06年(社７) AG10000m①, WCup3000m⑤・5000m③, WCC⑥, NC5000m①・10000m①
07年(社８) WC5000m※⑬・10000m※⑨, NC5000m①・10000m①
08年(社９) OG10000m※⑨・5000m予選, NC5000m③・10000m③
09年(社10) WC10000m⑨, NC5000m②・10000m③
10年(社11) AG5000m⑤・10000m④, NC5000m①・10000m①
11年(社12) —
12年(社13) OG10000m⑩・5000m予選, NC5000m②・10000m②
13年(社14) WCマラソン③
14年(社15) —
15年(社16) —
16年(社17) OGマラソン⑭
17年(社18) —
18年(社19) —
19年(社20) —

No. 10

マラソンPB
2.24.19

Miyuki Uehara
上原 美幸

所　　属：第一生命グループ
生年月日：1995年11月22日
年　　齢：23歳
出 身 地：鹿児島県
身長・体重：154cm・39kg
出 身 校：皇徳寺中(鹿児島)→鹿児島女子高(鹿児島)

リオ五輪5000mファイナリスト

出場権獲得大会成績	19年	名古屋ウィメンズマラソン	9位	2.24.19	日本人３位
			※MGC獲得者除く日本人2位		

鹿児島女高時代から世代トップで活躍し、高２の2012年は世界ジュニア選手権3000m８位、高３の日本選手権では5000mで５位入賞を果たした。実業団２年目の15年には、5000mで15分21秒40の自己新をマークすると、翌年のリオ五輪では決勝に進出（15位）。昨年９月のベルリンで初マラソンに挑戦（２時間25分46秒で９位）し、今年の名古屋ウィメンズマラソンで２時間24分19秒と記録を短縮。９位ながらMGCファイナリストを除く日本人２番手を確保し、MGC出場権を獲得した。

マラソン全成績

2018. 9.16	ベルリン	９位	2.25.46
2019. 3.10	名古屋	９位	2.24.19

自己ベスト

3000m	9.06.91	2012. 6. 3	鹿児島県高校総体
5000m	15.21.40	2015. 7.12	ホクレンディスタンスチャレンジ北見
10000m	31.38.80	2016. 5. 1	ペイトン・ジョーダン招待
ハーフマラソン	1.09.13	2017.12.23	山陽女子ロードレース
マラソン	2.24.19	2019. 3.10	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

11年(高１) IH1500m予選・3000m⑨
12年(高２) WJ3000m⑧, WCCジュニア⑲, IH1500m⑥・3000m③
13年(高３) NC5000m⑤, IH1500m⑯・3000m③
14年(社１) —
15年(社２) —
16年(社３) OG5000m⑮, NC5000m⑤・10000m⑦
17年(社４) WC10000m㉔, NC10000m③
18年(社５) NC5000m⑤・10000m⑫
19年(社６) NC5000m⑫

No. 11

マラソンPB
2.22.48

Sairi Maeda
前田 彩里

所　　属：ダイハツ
生年月日：1991年11月７日
年　　齢：27歳
出 身 地：熊本県
身長・体重：160cm・45kg
出 身 校：大津北中(熊本)→熊本信愛女学院高(熊本)→佛教大

復活した北京世界選手権代表

出場権獲得大会成績	19年	名古屋ウィメンズマラソン	10位	2.25.25	日本人４位
			※MGC獲得者除く日本人３位		

佛教大４年の2014年大阪国際女子マラソンで、初マラソンながら２時間26分46秒の学生新をマークして注目を集めた。翌15年の名古屋ウィメンズマラソンでは転倒して左手首を痛めながらも、最後まで上位争いを繰り広げ、当時日本歴代８位の２時間22分48秒で日本人トップの２位。同年の北京世界選手権に出場した（13位）。その後は故障で苦しんだが、19年名古屋ウィメンズマラソンでは２時間25分25秒で10位。MGCファイナリストを除くと日本人では３番手となり、MGC出場権を手にした。

マラソン全成績　※=上位選手の失格で繰り上がり

2014. 1.26	大阪国際	３位	2.26.46
2015. 3. 8	名古屋	２位※	2.22.48
2015. 8.30	世界選手権	13位	2.31.46
2018. 3.11	名古屋	15位	2.30.54
2018. 8.26	北海道	２位	2.30.56
2019. 3.10	名古屋	10位	2.25.25

自己ベスト

3000m	9.15.58	2013. 6.26	ホクレンディスタンスチャレンジ士別
5000m	15.32.22	2012.12. 1	日体大長距離競技会
10000m	32.03.43	2014.10.10	全日本実業団対抗選手権
ハーフマラソン	1.10.24	2015. 5.10	仙台国際ハーフマラソン
マラソン	2.22.48	2015. 3. 8	名古屋ウィメンズマラソン

年度別主要大会実績

08年(高２) IH3000m予選
09年(高３) IH1500m予選・3000m予選
10年(大１) IC1500m予選
11年(大２) IC5000m⑦
12年(大３) IC5000m⑥
13年(大４) NC5000m⑨
14年(社１) NC10000m⑧
15年(社２) WCマラソン⑬
16年(社３) —
17年(社４) —
18年(社５) —
19年(社６) —

No. 12

マラソンPB
2.24.33

Mao Ichiyama
一山 麻緒

所　　属：ワコール
生年月日：1997年５月29日
年　　齢：22歳
出 身 地：鹿児島県
身長・体重：158cm・43kg
出 身 校：出水中（鹿児島）→出水中央高（鹿児島）

東京&ロンドンで決めた大会最年少出場

出場権獲得大会成績	19年	東京マラソン	7位	2.24.33	日本人１位
	19年	ロンドン・マラソン	15位	2.27.27	※ワイルドカード

MGC出場選手の中では男女通じて最年少の22歳。2016年全日本実業団対抗女子駅伝１区で区間新の快走を見せると、翌17年は世界クロスカントリー代表、18年は世界ハーフ代表に選ばれた。初マラソンは今年３月の東京マラソンで、２時間24分33秒（７位）をマークしたものの、MGC出場権にあと33秒届かず。それでも、56日後のロンドン・マラソンに再挑戦し、２時間27分27秒（15位）でMGC出場権を獲得した。高校時代は全国的な実績はないが、実業団で飛躍。同じチームの大先輩・福士加代子に続けるか。

マラソン全成績

2019. 3. 3	東　京	７位	2.24.33
2019. 4.28	ロンドン	15位	2.27.27

自己ベスト

3000m	8.53.54	2017. 7. 9	ホクレンディスタンスチャレンジ北見
5000m	15.24.17	2017. 9.24	全日本実業団対抗選手権
10000m	31.49.01	2017. 5. 5	ペイトン・ジョーダン招待
ハーフマラソン	1.08.49	2019. 7. 7	函館マラソン
マラソン	2.24.33	2019. 3. 3	東京マラソン

年度別主要大会実績

15年(高３) IH1500m予選・3000m予選
16年(社１) WCC㊴
17年(社２) WHM⑲, NC5000m④・10000m④
18年(社３) NC5000m⑩・10000m⑤
19年(社４) —

年度別（4月～翌年3月まで）主要大会実績内略称

■国内大会
IM＝全中
IH＝インターハイ
IC＝日本インカレ
NC＝日本選手権

■国際大会
OG＝オリンピック
WC＝世界選手権
AG＝アジア大会
AC＝アジア選手権

WCup＝ワールドカップ
US＝ユニバーシアード
WJ＝世界ジュニア（現・U20世界選手権）
WY＝世界ユース（現・U18世界選手権）
AJ＝アジア・ジュニア

AY＝アジア・ユース
WHM＝世界ハーフ
WCC＝世界クロカン

2017-18

男子 設楽悠太、東京マラソンで日本新
女子 松田瑞生が初マラソンで快走

MGC出場権を懸けた争いは、MGCシリーズとして、2017年8月の北海道マラソンで幕を開けた。シリーズ唯一の夏のマラソンで、男女ともに〝MGCファイナリスト〟の第1号が生まれた。男子は2時間14分48秒で優勝した村澤明伸（日清食品グループ）、女子は2時間28分48秒で制した前田穂南（天満屋）の2人だ。佐久長聖高（長野）、東海大とスター街道をひた走った村澤は、自身2度目のマラソン挑戦でまずは1つ結果を残した。前田も2017年の大阪国際が初マラソン（2時間32分19秒）で、2回目の挑戦でジャンプアップした。

2017-18シーズンの男子で脚光を浴びたのが大迫傑（Nike）だった。12月の福岡国際マラソンで、2時間7分19秒（当時・日本歴代5位）をマークして日本人トップの3位に入り、MGC出場権を獲得。トラックで数々の実績を残してきた大迫のマラソン挑戦は大きな注目を集め、4月のボストン3位（2時間10分28秒）からしっかりと合わせてきて、「マラソンの大迫」をアピールした。

それから約2ヵ月半後の東京マラソンは、スタート時の気温6.5度、曇りという絶好の〝マラソン日和〟の中で偉大な記録が誕生した。日本人トップの2位を占めた設楽悠太（Honda）が2時間6分11秒。高岡寿成（カネボウ）が02年に作った日本記録（2時間6分16秒）を16年ぶりに更新し、日本実業団連合のマラソン強化プロジェクト「Project EXCEED」の日本記録樹立褒賞金〝1億円〟もゲットした話題性もあり、男子マラソン界が大きく動くポイントになった。設楽の他にも好記録が続出。日本人2番手の井上大仁（MHPS）が2時間6分54秒（当時・日本歴代4位）の快走、木滑良（同）が2時間8分08秒、宮脇千博（トヨタ自動車）が2時間8分45秒など、合計6人が新たにMGC出場を決めた。

女子では17年の日本選手権10000mで初優勝した松田瑞生（ダイハツ）がマラソンに初挑戦。1月の大阪国際女子マラソンで、日本歴代9位・初マラソン日本歴代3位の2時間22分44秒で優勝を果たし、女子2枚目のMGC切符を手にした。松田はその後、9月のベルリン・マラソンでも2時間22分23秒と自己新。一躍、女子マラソンの主役に躍り出た。また、大阪国際女子マラソン3位の安藤友香（スズキ浜松AC、現・ワコール）も2時間27分37秒で出場権を獲得した。

続く3月の名古屋ウィメンズマラソンでは、関根花観（日本郵政グループ）、岩出玲亜（アンダーアーマー）、野上恵子（十八銀行）の3人がMGC行き決定。17-18シリーズで出場権を手にしたのは、男子12名、女子6名となった。

18年2月の東京マラソン男子で2時間6分11秒の当時日本新記録を樹立した設楽悠太（Honda）

大阪国際女子マラソンでは前年の北海道でMGC出場権を獲得済みの前田穂南（天満屋、左）が2時間23分48秒の自己新と好走。3位の安藤友香（スズキ浜松AC／現・ワコール、右端）もMGC出場権を手にした

3月の名古屋ウィメンズマラソンでは初マラソンながら日本人トップの関根花観（日本郵政グループ、右から2人目）と同2位の岩出玲亜（アンダーアーマー、左）という愛知・豊川高出身2人がMGC切符を獲得。16年リオ五輪代表の小原怜（天満屋、右）は8位にとどまったが、後にワイルドカードで出場権を得た

18年1月の大阪国際女子マラソンでは松田瑞生（ダイハツ）が2時間22分44秒の好タイムで優勝した

東京マラソンの男子では日本人2位の井上大仁（MHPS）も2時間6分54秒と快走。18年アジア大会では金メダルを獲得した

18年びわ湖毎日マラソンで日本人トップの7位に入った中村匠吾（富士通）が、17-18シリーズ男子最後のMGC獲得者

17年福岡国際マラソンで日本人トップの大迫傑（Nike）。翌年10月には日本記録を更新した

シリーズ開幕戦の北海道男子マラソンを制し、MGC出場権獲得第1号となった村澤明伸（日清食品グループ） 写真：フォートキシモト

2017-18シリーズ成績

順位の横の四角数字は日本人順位
◎＝日本記録、★＝自己ベスト、☆＝初マラソン
右はMGC出場権獲得後のマラソン成績

男子

■北海道マラソン　2017.8.27
村澤　明伸（日清食品グループ）優勝　★2.14.48　18年東京⑭ ★2.09.47、18年フランクフルト⑱ 2.15.41

■福岡国際マラソン　2017.12.3
大迫　　傑（Nike）　3位 1　★2.07.19　18年シカゴ③ ◎2.05.50、19年東京 途中棄権
上門　大祐（大塚製薬）　6位 2　★2.09.27　18年ベルリン⑧ 2.11.07、19年別府大分㉒ 2.15.49
竹ノ内佳樹（NTT西日本）　7位 3　★2.10.01　18年びわ湖㉚ 2.20.29

■別府大分毎日マラソン　2018.2.4
園田　　隼（黒崎播磨）　2位 1　★2.09.34　18年アジア大会④ 2.19.04、18年福岡⑤ 2.10.31、19年別府大分⑧ 2.10.39、19年ボストン⑱ 2.15.58

■東京マラソン　2018.2.25
設楽　悠太（Honda）　2位 1　◎2.06.11　18年福岡④ 2.10.25、19年ゴールドコースト優勝 2.07.50
井上　大仁（MHPS）　5位 2　★2.06.54　18年アジア大会優勝 2.18.22、19年ボストン⑫ 2.11.53
木滑　　良（MHPS）　7位 3　★2.08.08　18年シカゴ途中棄権、19年東京㉖ 2.17.19
宮脇　千博（トヨタ自動車）　8位 4　★2.08.45
山本　憲二（マツダ）　9位 5　★2.08.48　19年びわ湖⑦ ★2.08.42
佐藤　悠基（日清食品グループ）10位 6　★2.08.58　18年ベルリン⑥ 2.09.18、19年東京⑯ 2.15.07

■びわ湖毎日マラソン　2018.3.4
中村　匠吾（富士通）　7位 1　☆2.10.51　18年ベルリン④ ★2.08.16、19年東京⑮ 2.14.52

女子

■北海道マラソン　2017.8.27
前田　穂南（天満屋）　優勝　★2.28.48　18年大阪② ★2.23.48、18年ベルリン⑦ 2.25.23、19年東京⑫ 2.31.42

■大阪国際女子マラソン　2018.1.28
松田　瑞生（ダイハツ）　優勝　☆2.22.44　18年ベルリン⑤ ★2.22.23
安藤　友香（スズキ浜松AC/現・ワコール）3位 3　2.27.37　19年ロンドン⑬ 2.26.47

■名古屋ウィメンズマラソン　2018.3.11
関根　花観（日本郵政グループ）3位 1　☆2.23.07
岩出　玲亜（アンダーアーマー）　4位 2　2.26.28　19年名古屋⑤ ★2.23.52
野上　恵子（十八銀行）　5位 3　★2.26.33　18年アジア大会② 2.36.27、19年東京⑳ 2.38.23

2018-19

男子 服部 福岡国際マラソンで2時間7分27秒
女子 鈴木、福士ら有力選手が続々名乗り

18-19シリーズで注目を集めたのが女子の鈴木亜由子（日本郵政グループ）のマラソン挑戦だった。8月の北海道マラソンでデビューすると、2時間28分32秒で優勝し、今シリーズでのMGC獲得者第1号に。中学時代から第一線で活躍し、15年から世界大会代表を続ける〝トラックの女王〟が、マラソンでも大きな一歩を刻んだ。北海道の男子は、マラソン初優勝を飾った岡本直己（中国電力）をはじめ4名が出場権をゲット。12年ロンドン五輪、13年モスクワ世界選手権入賞の大ベテラン・中本健太郎（安川電機）もここで決めた。

18年10月のシカゴ・マラソンで、大迫傑（Nike）が2時間5分50秒の日本新。これを機に、男子はさらに活況を迎える。12月の福岡国際マラソンでは、服部勇馬（トヨタ自動車）が2時間7分27秒（日本歴代8位）で、14年ぶりに日本人王者となった。翌年2月の別府大分毎日マラソンでは、橋本崚（GMOアスリーツ）、岩田勇治（MHPS）がMGCに名乗りを上げた。

雨中のレースとなった3月の東京マラソンは、大迫が途中棄権するなど波乱の展開。日本人トップの5位に食い込んだ中大の堀尾謙介（現・トヨタ自動車）が2時間10分21秒（学生歴代7位タイ）をマークして、学生でただ1人の出場権獲得者に。また、15年世界選手権マラソン代表ながら髄膜炎で欠場を余儀なくされた今井正人（トヨタ自動車九州）、藤川拓也（中国電力）もMGC切符をつかみ、神野大地（セルソース）もワイルドカードで出場を決めた。男子最後の選考レースとなったびわ湖毎日マラソンでは2名が新たにMGCを決め、有効期限内最後のレースとなったハンブルク・マラソンで高久龍（ヤクルト）、荻野皓平（富士通）、一色恭志（GMOアスリーツ）、鈴木健吾（富士通）がワイルドカードで出場権を手にした。

女子では、1月の大阪国際女子マラソンはリオ五輪代表の福士加代子（ワコール）と田中智美（第一生命グループ）らが出場したが、田中は7位、福士は途中棄権。そんな中、18年3月の名古屋ウィメンズマラソン8位で、同年9月のベルリン・マラソンで2時間27分29秒をマークしてワイルドカードでの出場を決めていた小原が日本人トップの2位を占めた。

続く3月の名古屋ウィメンズマラソンでは、福士が再挑戦。意地の走りで2時間24分09秒をマークして日本人2番手の8位に食い込み、5度目の五輪に向けて選考レースのスタートラインに立つことが決まった。また、上原美幸（第一生命グループ）、前田彩里（ダイハツ）が出場権を獲得。なお、日本人トップ（5位）はすでに出場を決めている岩出玲亜（アンダーアーマー）だった。女子のワイルドカードでの獲得者は、小原のほかに有効期限ギリギリとなる4月末のロンドン・マラソンに出場した一山麻緒（ワコール）の2人。選考レースの1つとなる、さいたま国際マラソンでは1人も出場権獲得者が出なかった。

約1年8ヵ月にわたって行われたMGCシリーズの結果、ドーハ世界選手権代表を除いて男子31名、女子12名で東京五輪代表が争われることになった。

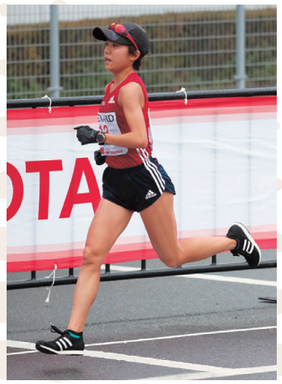
18年12月の福岡国際マラソンで14年ぶり日本人優勝を果たした服部勇馬（トヨタ自動車）

19年2月の別府大分毎日マラソンでは橋本崚（GMOアスリーツ、左）と岩田勇治（MHPS、右）の2人がMGC出場を決めた

19年3月のびわ湖毎日マラソンでは、山本浩之（コニカミノルタ、左）、河合代二（トーエネック、右）の2人が新たに出場権獲得

19年3月の東京マラソンでMGC出場を決めた（左から）今井正人（トヨタ自動車九州）、堀尾謙介（当時・中大／現・トヨタ自動車）、藤川拓也（中国電力）、神野大地（セルソース）

15年北京世界選手権5000m9位、17年ロンドン世界選手権10000m10位などトラックで実績を残してきた鈴木亜由子（日本郵政グループ）が18年8月の北海道でマラソンデビュー。2時間28分32秒で優勝を飾り、MGC出場権を手にした 写真：フォートキシモト


上原美幸（第一生命グループ）は19年の名古屋ウィメンズマラソンでMGCファイナリストを除く日本人2番手で出場権を手にした

ケガから復活を遂げた前田彩里（ダイハツ）。19年名古屋ウィメンズマラソンで2時間25分25秒とMGCファイナリストを除く日本人3番手だった

4大会連続の五輪出場を誇る福士加代子（ワコール）。19年1月の大阪国際女子マラソンでは転倒の影響で途中棄権したが、〝再挑戦〟した3月の名古屋ウィメンズマラソンで出場権をもぎ取った

2018-19シリーズ成績

順位の横の四角数字はMGC出場権獲得者を除く日本人順位
◎＝日本記録、★＝自己ベスト、☆＝初マラソン
右はMGC出場権獲得後のマラソン成績

男子

■北海道マラソン　2018.8.26
岡本　直己（中国電力）	優勝	★2.11.29　19年別府大分 途中棄権
谷川　智浩（コニカミノルタ）	3位[2]	2.12.02
大塚　祥平（九電工）	4位[3]	2.12.07　19年東京⑪ 2.12.36
中本健太郎（安川電機）	5位[4]	2.12.54　18年福岡 途中棄権、19年クラクフ② 2.11.34

■福岡国際マラソン　2018.12.2
服部　勇馬（トヨタ自働車）	優勝	★2.07.27
福田　穣（西鉄）	7位[5]	2.10.54　19年東京 途中棄権

■別府大分毎日マラソン　2019.2.3
橋本　崚（GMOアスリーツ）	5位[2]	★2.09.29
岩田　勇治（MHPS）	6位[3]	★2.09.30

■東京マラソン　2019.3.3
堀尾　謙介（中大／現・トヨタ自動車）	5位[1]	☆2.10.21
今井　正人（トヨタ自動車九州）	6位[2]	2.10.30
藤川　拓也（中国電力）	7位[3]	★2.10.35

■びわ湖毎日マラソン　2019.3.10
山本　浩之（コニカミノルタ）	10位[1]	2.10.33
河合　代二（トーエネック）	11位[2]	★2.10.50

［ワイルドカード］
藤本　拓（トヨタ自動車）	18年シカゴ ★2.07.57
神野　大地（セルソース）	18年東京 ★2.10.18、19年東京 2.11.05
髙久　龍（ヤクルト）	18年ゴールドコースト ★2.11.45、19年ハンブルク ★2.10.02
荻野　皓平（富士通）	18年東京 ★2.09.36、19年ハンブルク 2.10.15
一色　恭志（GMOアスリーツ）	18年東京 ★2.09.43、19年ハンブルク 2.11.23
鈴木　健吾（富士通）	18年東京 ☆2.10.21、19年ハンブルク 2.11.36

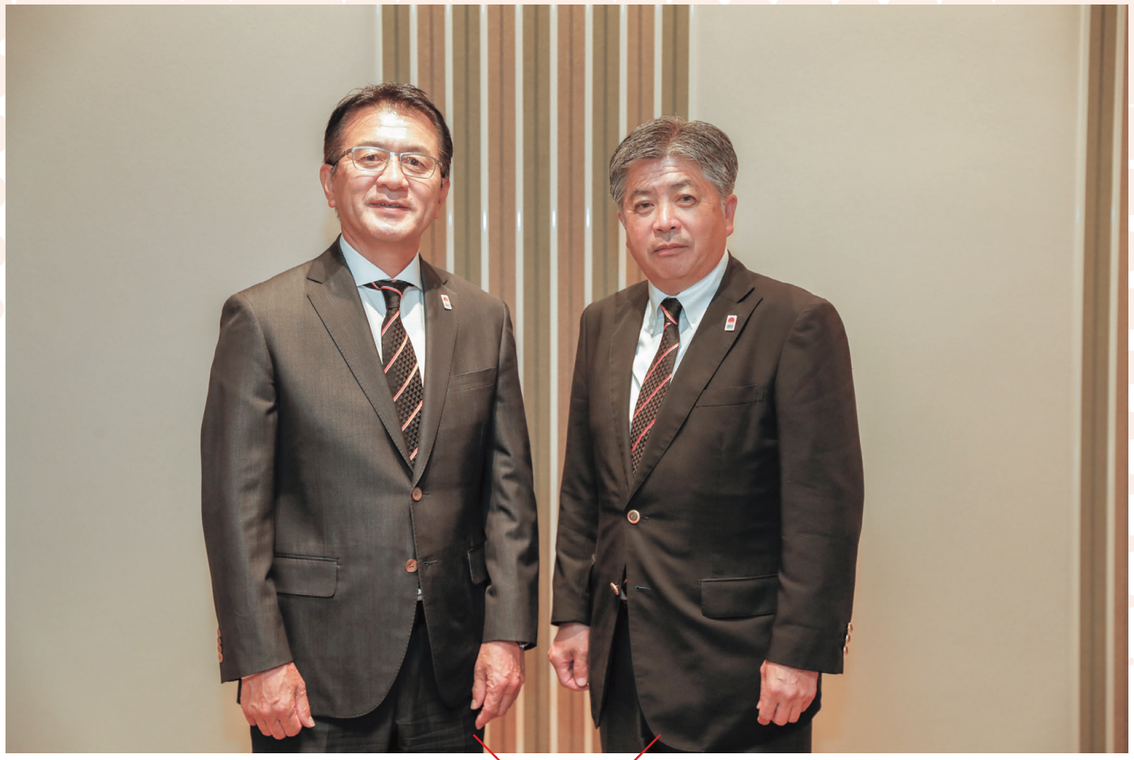
女子

■北海道マラソン　2018.8.26
鈴木亜由子（日本郵政グループ）	優勝	☆2.28.32

■名古屋ウィメンズマラソン　2019.3.10
福士加代子（ワコール）	8位[1]	2.24.09
上原　美幸（第一生命グループ）	9位[2]	★2.24.19
前田　彩里（ダイハツ）	10位[3]	2.25.25

［ワイルドカード］
小原　怜（天満屋）	18年名古屋 2.27.44、18年ベルリン 2.27.29、19年大阪② 2.25.46
一山　麻緒（ワコール）	19年東京 ☆2.24.33、19年ロンドン 2.27.27

特別対談　MGC設立への経緯と想い



瀬古利彦　河野　匡

Toshihiko Seko
日本陸連マラソン強化戦略プロジェクトリーダー

Tadasu Kawano
日本陸連長距離・マラソンディレクター

2020年夏の東京五輪で、新国立競技場に日の丸を掲げるため、本番で活躍できる真に力のある選手を選ぶには、公平公正に代表選手を選ぶには――。そんな思惑から「MGC」という新たな選考方法を考案した日本陸連強化委員会マラソン強化戦略プロジェクトリーダーの瀬古利彦氏と同長距離・マラソンディレクターの河野匡氏に、MGC設立までの経緯と想い、本番に臨む意気込みなどを語り合ってもらった。
（月刊陸上競技2018年8月号より再構成）

Q MGC設立の経緯は？

真に強い選手を代表に選ぶため

瀬古　私がこの任（マラソン強化戦略プロジェクトリーダー）を引き受けてから、いつも「ポッと出の選手はオリンピックで戦えない」と言っていました。では、ちゃんと戦える選手を選ぶにはどうすればいいのか、というのが始まりです。

河野　そうやって瀬古さんが「お題」をくれるので、「こういうやり方はどうですか?」と提案しながら何度もキャッチボールをしてきました。

瀬古　河野君は私が10言うと20のことをやってくれて、素晴らしい選考方法にたどり着きました。「これをやったら（日本のマラソン界が）絶対に変わるよ」と。新しいことをやるには摩擦が付きものなんですけど、そこは「乗り越えてがんばろうよ」と話しました。

河野　私は瀬古リーダーより5歳下で、瀬古さんと宗さん兄弟（茂、猛）が上位で入ってきて、オリンピック代表にその3人が決まる福岡（国際マラソン、1979年と83年）のレースを目の当たりにしてるんですよ。オリンピックではメダルを期待される実力者ぞろいでしたけど、80年のモスクワ（五輪）は日本が不参加、84年のロサンゼルス（五輪）は宗猛さんの4位が最高順位だった。メダルに届くのがなかなか大変だった、という現実がオリンピックの歴史にあるのです。

今はそれ以上にメダルが遠のいている中、当時の福岡のようなレースを勝ち抜いてくる選手じゃないと戦えない、という気持ちは十分持っています。伊藤国光さん、喜多秀喜さんなど、他にもオリンピックを狙う強豪は何人もいたわけですから。それでもきちんと日本人で3番以内に来る。それこそが僕は真の日本代表だと思っているので、そこにどうやって近づいていけるか、と考えました。

瀬古　私も、年に1回ぐらいは全員が集まって「日本一決定戦」をやった方がいいな、と以前から思っていました。ライバルが「俺はこっち」「俺はあっち」と分かれてしまうと、緊張感が薄れますよね。我々が福岡で死闘を繰り広げたように、MGCでトップ選手たちがガチンコ勝負をしたら絶対におもしろい。そういうレースで勝ち残った選手は、絶対に強いでしょう。

河野　同感です。勝ち残った選手はオリンピックで戦えると信じています。

瀬古　こんなプレッシャーがかかったら、本当に強い選手が生き残ります。

Q コース決定までの経緯は？

河野　東京五輪のコースを使えた、というのが何よりもありがたいです。東京でまったく新しいマラソンコースを設置するというのは、公共の道路を使うわけですから、現実的には不可能に近い。そこで、当初からこのMGCも、テストイベントとして東京五輪のコースを使ってやれないか、という可能性を探ることから始まっています。

瀬古　東京で、しかも暑い季節にMGCをやるということは、オリンピックのシミュレーションの意味合いもあるわけで、そもそも「同じコースを使いたい」という意向はありました。

河野　もしダメになったらどうしようか、という不安材料がなかったわけではないですが、「うまく流れてほしい」とみんなが思っていました。うまくいくためにはどうしたらいいのか。東京マラソンを運営する東京マラソン財団や東京都、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会など、関係各所と何度もやり取りを重ねてきました。

瀬古　まず東京五輪のコースが国際陸上競技連盟（IAAF）から認可されることが先決でしたからね。

河野　大会を1つ作ることが生半可なことではないのはわかりきっているので、1年前のテストイベントとしてMGCを活用すれば、お互いに助かる。この選考過程を決めた時点で、そこまでのシナリオは描けましたから、それを具体化するために関係各所と話を詰めていったということです。そこに対する関係者の「やりましょう」という熱量は、すごいものがありましたよ。

瀬古　MGCを、我々がうまくオリンピックにつなげていかないといけません。せっかく同じコースを使わせてもらって、これ以上のシミュレーションはないのですから。

Q 選手たちに期待することは？

本当に「粘り強い」選手

河野　よく「粘り強い」という表現を使うけど、それはみんな結果論で言っていること。1度粘ったレースをすると、その結果で「粘り強い」と。本当はそれを何回も続けられる選手が「粘れる選手」なのでしょう。例えば、川内優輝選手が絶対にマラソンを捨てない、何がなんでもフィニッシュまで走ろうとしている、というのは誰の目にもわかります。でも、レースのたびに、その時の調子で左右されている選手がたくさんいます。そういう意味では、意識してマラソンを経験している選手は「粘りどころ」とか「がんばりどころ」を理解していくのだと思いますね。

――「粘れる」という要素はその選手が持ち合わせたものではなく、経験から獲得したもの？

河野　僕はそう思います。もちろん、それに見合うような厳しい練習をしていて、「これだけ俺は走ってきた」という練習に裏打ちされた自信のようなものがあってこそ、でしょうけど。

――それが選手時代の瀬古さんだったと思います。

瀬古　私がそうだったかはわからないけど、MGCも五輪本番も、終盤の上り坂は粘るしかない。

河野　川内選手は「必ず42.195kmでゴールを迎える」というのが、頭の中にすり込まれているようです。途中で先頭集団から離れたりしますけど、その時は「42.195kmを走り切れる」という感覚に対してきつくなるんだと思う。

瀬古　逆に、もっとスピードのある選手が10km、20kmで離れてそのまま浮上できずに終わる場合は、本当に身体がきつくて離れている。

河野　きちんと42.195kmを見ていなくて、ぎりぎりまで（先頭集団に）ついているから。そこで、きちんと42.195kmを見られる選手が「粘り強い」とか「安定している」という評価になる。マラソンでの「粘り」の定義は、そういうことじゃないかなと思います。

真夏の33度を「涼しい」と感じるために

――「粘り強さ」とともに、勝つために重要なファクターになるのが「暑さに強い」ということですが、こちらは選手が持ち合わせた側面が大きいですか。

河野　体質はあります。汗の成分などで見ますが。これは科学委員会の杉田（正明）先生といろいろ話す中で、暑さ慣れするにはどういう手順で、何をすればいいのかを模索しているところです。暑熱順化に1ヵ月でいいとか、3ヵ月かかるとか。血液の状態が変わっていくのにこれぐらいの期間がかかるとか。それぞれサイクルが違うので、データを基に絞り込んでいきます。

瀬古　人間の体というのは不思議なもので、夏のレースで20度は涼しく感じるけど、冬場のレースの20度は暑いんですよね。

河野　それぐらい気温の差は人間の感覚を鈍らせるわけですよ。だから、暑熱順化が大事になります。

瀬古　つまり、真夏の33度が涼しく感じるような身体になっていればいい。そこですね。

――暑熱順化をしたら、最終調整は涼しいところで疲労を抜く、ということですね。

瀬古　私や宗さんたちがロス五輪の暑さ対策で失敗して以降、それは今でも常識になっています。それを生かして、1991年東京世界選手権男子マラソンの金メダル（谷口浩美）があったんですから。

◇　◇　◇

2020年東京五輪に向けて

――2020年も日の丸が掲揚されるところが見たいですね。

瀬古　当然です。そのためのMGCです。円谷幸吉さん（1964年東京五輪男子マラソン銅メダリスト）も、草葉の陰でそう願ってくれていると思います。

河野　瀬古リーダーには常々「MGCで代表が決まってからが本当の我々の仕事ですから」と言っています。仕組みを作った今は、現場はそれに向かってやってきますから、我々の次の大事な作業は2019年9月15日以降。本当のナショナルチームはそこから始動です。

瀬古　いかに本番で100%の力を出させてあげられるか。国民の期待は大きいし、マスコミの取材も殺到します。選手は意外と「調子悪い」とか「疲れている」などとは言いたくないのです。そのあたりを私たちがうまく引き出してやったり、安心させてやったり。そこが我々強化スタッフの仕事だと思います。

河野　誰もが経験したことのないプレッシャーの中に入っていくので、ナショナルチームとして我々がどこまで関与するのか、まだはっきり決まっていませんが、各チームに、こちらが「こうしたい」ということはあらかじめ明示したいと思っています。

今回のマラソンは「あの時、こうすれば良かった」と言えないレースだと思っているんです。だから、合意形成するまで現場の人たちと徹底的に話し合わないといけないな、と。そこまで覚悟して準備しないといけないのが東京五輪で、それが「戦う」ということだと思っています。

瀬古　MGCもそうですが、2020年の東京五輪で成功することが、今後のパリ五輪（2024年）、ロサンゼルス五輪（2028年）に直結していくので、ここが日本のマラソン界の〝胸突き八丁〟だと思っています。今、しっかり育てていけば、その後も続いて行くと思います。次世代がどんどん続くためには、ここが一番大事。今こそが基礎固めの時期です。ですから、今後はもう「復活」なんていう言葉は使わせない。ケニアやエチオピアのように「ずっと強い国でいくぞ」と思ってやっています。

大会要項

大会名称　マラソングランドチャンピオンシップ
兼 東京2020オリンピック日本代表選考競技会兼 第103回日本陸上競技選手権大会
主催／主管　日本陸上競技連盟
共　催　朝日新聞社、産経新聞社、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社
後　援　東京都、港区、渋谷区、新宿区、千代田区、文京区、中央区、台東区
運営協力　東京陸上競技協会、東京マラソン財団
特別協賛　東京地下鉄株式会社
協　賛　ディップ株式会社、株式会社 資生堂、アシックスジャパン株式会社、株式会社ＳＵＢＡＲＵ
協　力　株式会社近畿日本ツーリストコーポレートビジネス、株式会社シミズオクト
種　目　マラソン（男子・女子）
開催日時　2019年９月15日（日）８時50分 男子マラソンスタート・９時10分 女子マラソンスタート
テレビ放映　男子：ＴＢＳテレビ系列全国ネット　女子：ＮＨＫ総合
ラジオ放送　男子：ＴＢＳラジオ　女子：ＮＨＫラジオ
コース　明治神宮外苑発着（日本陸上競技連盟公認コース）
明治神宮外苑いちょう並木～四ツ谷～水道橋～神保町～神田～日本橋～浅草雷門～銀座～新橋～芝公園～日本橋～神保町～二重橋前～明治神宮外苑いちょう並木
競技規則　国際陸上競技連盟（IAAF）並びに日本陸上競技連盟競技規則及び本大会規定による。
参加資格
（１）ＭＧＣシリーズ（2017年度、2018年度）
下記の指定大会において、指定された日本人順位及び記録を満たした競技者。

＜男子＞

大会	日本人順位/記録	日本人順位/記録
福岡国際マラソン	１-３位／2:11.00以内	４-６位／2:10.00以内
東京マラソン	１-３位／2:11.00以内	４-６位／2:10.00以内
びわ湖毎日マラソン	１-３位／2:11.00以内	４-６位／2:10.00以内
別府大分毎日マラソン	１位／2:11.00以内	２-６位／2:10.00以内
北海道マラソン	１位／2:15.00以内	２-６位／2:13.00以内

＜女子＞

大会	日本人順位/記録	日本人順位/記録
さいたま国際マラソン	１-３位／2:29.00以内	４-６位／2:28.00以内
大阪国際女子マラソン	１-３位／2:28.00以内	４-６位／2:27.00以内
名古屋ウィメンズマラソン	１-３位／2:28.00以内	４-６位／2:27.00以内
北海道マラソン	１位／2:32.00以内	２-６位／2:30.00以内

※大会時、既にMGC出場資格を有している競技者は、日本人順位に含まない。
（２）ワイルドカード
・2017年８月１日～2019年４月30日までの「国際陸上競技連盟が世界記録を公認する競技会」で、①、②いずれかを満たした競技者
①男子２時間08分30秒以内、女子２時間24分00秒以内
②期間内の上位２つの記録の平均が、男子２時間11分00秒以内、女子２時間28分00秒以内
・第16回世界陸上競技選手権大会（2017／ロンドン）８位入賞者
・第18回アジア競技大会（2018／ジャカルタ）３位入賞者
・ＭＧＣシリーズ各大会において、気象条件等によりＭＧＣファイナリストの資格を１名も満たさなかった場合、強化委員会が出場資格相当と判断した競技者
表　彰　マラソングランドチャンピオンシップとして１位・２位を表彰する。
そ の 他　本大会は、国内の関連するすべての法令を遵守し実施されるものとする。
ドーピング検査について
（１）ドーピングコントロール
国際陸上競技連盟アンチ・ドーピング規則および規定、もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づいて行われる。本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液（或いは両方）の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。日本陸上競技連盟に登録していない競技者も同様に従うこと。尚、競技会時、ドーピング検査の対象となった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた社員証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを持参すること。
（２）ＴＵＥ申請
禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例（ＴＵＥ）”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ（http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/）、又は日本アンチ・ドーピング機構ホームページ（http://www.playtruejapan.org/）を確認すること。
個人情報取り扱いについて
（１）主催者等は個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を遵守し、主催者の個人情報保護方針に基づき、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
（２）本大会はテレビ放送及びインターネットで動画配信を行うことがある。
（３）大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者、共催者及び主催者、共催者が承認した第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP
この日、日本代表が決まる。

競技役員

競技会ディレクター（Competition Director）	岩崎　義治						
国際道路コース計測員	苅込　英昭						
総務（Meeting Manager）	野末　雅文						
総務員	鈴木　一弘（競技）	板東　孝訓（競技者管理）	早乙女　等（飲食物供給）				
ＪＴＯ	男子　浜﨑　正信	女子　新宅　昭二					
技術総務	福島　信久						
副技術総務	高木　良郎						
ジュリー	橋本　秀樹	清水　真	山本　浩				
審判長	男子　片岡　裕介	女子　赤峰　俊彦					
EP Manager	安池　滋						
アナウンサー	中村　拓也						
ＴＩＣ	岩脇　充司	井上　博行					
ＰＥＣ／（競技者係と兼任）	田中　康之	羽田　雄一					
マーシャル	岡本　克巳	佐藤　孝洋	木村　尚由				
メディカルディレクター	山澤　文裕						
ＮＦＲ	加藤　穣						
ＤＣＯ	青木　哲哉	一戸香都江	吉澤　俊治	小川　敦	岩野　綾佳	渡邉　美香	菅沼　俊夫	西岡　秀和
	西野　道子						
ＢＣＯ	山口　修						
招集所審判長	上村　卓						
競技者係（Call room）	黒澤　達郎	緒方　信也＊	片岡　典子	鈴木美代子			
役員係	原　人三	伊地知重信＊	梶田　茂＊				
表彰係	石井　哲郎						
用器具	山口　賢司	渡辺　圭介	近藤　隆	米岡　利昌	秋田　陽一		
トランスポンダー・写真判定	杉本　太郎＊	寺尾　浩					
監察員主任	栗林　公毅						
移動監察員（男女各２）	窪田　利彰	蒲牟田和彦	中深明日香	本橋　加苗			
監察員（道路）	①地点	②地点	③地点	④地点	⑤地点	⑥地点	⑦地点	⑧地点
	二反田　亘	奥田　正治	吉松　洋介	神田　淳	東田　直樹	長井　健	玉井　康夫	小川　晴香
	⑨地点	⑩地点	⑪地点	⑫地点	⑬地点	⑭地点	⑮地点	⑯地点
	神野　純美	遠藤　栄	渡部　泰子	弓削田眞理子	片山　直美	生田　智也	鈴木　直	寺西　大樹
	⑰地点	⑱地点	⑲地点	⑳地点				
	轡田　寛	小林幸太郎	日髙　恵太	榊原　南実				
管理長	清水　高宏	小野　智成	市之瀬輝明	石橋　邦隆	青山　俊太	鈴本　勝茂	大須田祐一郎	
	岡村　英樹	宮本　惣治	池田　演之	有賀　平	原　日出登	井上　伸一	駒林　論毅人	
	秋保　慎弥	五十嵐欣試郎	橘　宏二	加地　勉	今関　信之			
スターター・リコーラー	本橋　郁子＊	関　隆史＊						
出発係	梶田　茂＊	藤崎　明＊						
計時員（Back Up）	本橋　郁子＊	関　隆史＊	藤崎　明＊					
記録情報処理	岡田　晃	加藤　恭位	庄田　修司	二見真理恵	伊地知重信＊	緒方　信也＊	杉本　太郎＊	
飲食物供給所（Personal）主任	5 km	10km	15km	20km	25km	30km	35km	40km
	茂木　弘樹	板倉　一成	柳澤　一良	市東　康之	浜野　徳寿	川崎　茂利	深澤　まゆみ	熊本　恵美
飲食物供給所（Personal）	5 km	10km	15km	20km	25km	30km	35km	40km
上段=副主任/下段=ジェネラル担当	千々岩　繁(副)	出澤　英之(副)	鴻村　一寛(副)	大倉　直也(副)	田中　淑子(副)	石上小百合(副)	伴瀬　美希(副)	中村　健(副)
	上敷領房子	加地　清美	竹中はる美	東出　英樹	小原　大祐	中野　賢一	播磨　良和	三宿　孝之
飲食物供給所（General）	2.5km	7.5km	12.5km	17.5km	22.5km	27.5km	29km	31km
	中村　信也	小川恵里砂	宇井　菜那	山本紗奈江	佐野　豪一	小林　均	内田　尊久	下山　瞳
	32.5km	34km	36km	37.5km	41km			
	佐瀬　聡子	中村　洋士	小谷　昭彦	脇田　浩介	小林祐紀子			
収容車	山内　美佳	永原　ゆき						
ドクター	櫻庭　景植	前澤　克彦	難波　聡	真鍋　知宏	山本　宏明	金子　晴香	田原圭太郎	田畑　尚吾
	塚原　由佳	富澤　信夫	高木　岳彦	田中　健太	三橋　敏武	三原　華子		
看護師	玉虫　由実	田中佳世子	大木　亮子	木村　利恵	工　由美子	田辺千由紀	鍋島　千晴	土田　実希
	野口　茂樹							
トレーナー	岩本　広明	舌　正史	田上　仁	東　千夏	細川　由梨	加藤　基	浅井ちなみ	麻生　侑希
	石川　朝登	江上　純一	荻巣亜希子	片川　敦史	加門　正行	倉坪　亮太	源平　朱莉	小村　幸一
	篠原　優里	白石　仁	高橋　由有	高橋　祐	冨山　信次	早野健太郎	水谷　仁美	宮川　浩太
	山口　賢正	山科亜紀子	和田佳代子	木村　公一	木村　洋介	松尾　正仁	三上兼太朗	岩下　英司
	助川　果衣	松井智恵子	森口　剛					

＊兼務

東京2020オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考要項

Ⅰ．編成方針

本大会において最大限持てる力を発揮する「調整能力」と世界と戦う「スピード」を有し、メダル獲得を目指す競技者から日本代表を編成する。

2．選考競技会

（Ⅰ）マラソングランドチャンピオンシップ（以下「MGC」という。）
2019年９月15日（日）開催
（2）ＭＧＣファイナルチャレンジ
Ⅰ）男子
・第73回福岡国際マラソン選手権大会
・東京マラソン2020
・第75回びわ湖毎日マラソン大会
2）女子
・第５回さいたま国際マラソン
・第39回大阪国際女子マラソン大会
・名古屋ウィメンズマラソン2020

3．選考基準

編成方針に基づき、以下の優先順位により、日本代表選手を選考する。
（Ⅰ）ＭＧＣ優勝者
（2）ＭＧＣ２位の競技者
（3）ＭＧＣファイナルチャレンジ設定記録を突破した記録最上位の競技者。
但し、ＭＧＣシリーズ※Ⅰに出場（完走）、又はＭＧＣ出場資格を有することを条件とする。
（4）選考基準（3）を満たす競技者がいない場合、ＭＧＣ３位の競技者

4．ＭＧＣファイナルチャレンジ設定記録

（Ⅰ）記録
男子：２時間５分49秒　女子：２時間22分22秒
（2）対象競技会
ＭＧＣファイナルチャレンジ（男子３大会、女子３大会）

5．選考方法

（Ⅰ）選考基準（Ⅰ）、（2）による選考は、MGC 終了時点において、即時内定とする。
ただし、ＭＧＣ終了時点で本大会の参加資格を満たしていない場合は、資格を満たした時点で内定となる。
（2）選考基準（3）及び（4）による選考は、ＭＧＣファイナルチャレンジの男女それぞれの全指定競技会終了時点において、即時内定とする。ただし、男女それぞれの全指定競技会終了時点において、本大会の参加資格を満たしていない場合は、資格を満たした時点で内定となる。ＭＧＣファイナルチャレンジ設定記録を突破した記録最上位の競技者が、異なる競技会において複数（同タイム）出た場合は、MGC ファイナルチャレンジにおける順位、レース展開、タイム差、気象条件等を総合的に勘案し、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。ただし、その場合、ＭＧＣの出場資格を有した競技者を優先する。

6．補欠競技者

（Ⅰ）選考基準（3）により代表選手が選考された場合
ＭＧＣで３位及び４位の競技者を補欠として選考する。
（2）選考基準（3）により代表選手が選考されなかった場合
ＭＧＣで４位及び５位の競技者を補欠として選考する。
※但し、上記補欠競技者が辞退した場合は、MGC 上位の競技者を補欠として選考する。

7．補欠競技者の解除について

国際オリンピック委員会及び国際陸上競技連盟（以下「IAAF」という。）が定めるエントリー手順により、補欠の入れ替え及び補欠の解除の期日を決定する。

8．その他

（Ⅰ）本大会の参加資格に係る参加標準記録有効期間は、2019年Ⅰ月Ⅰ日から2020年５月31日まで。
（2）本大会の参加資格に係るワールドランキングは、2020年６月３日にIAAFより発表される。
（3）代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数はIAAFが定めるエントリー数の上限の枠を保証するものではない。
（4）代表選手は、派遣団体である公益財団法人日本オリンピック委員会が正式決定する。
（5）代表選手は本連盟が定める義務を遵守するものとする。
（6）下記の項目に該当する場合は、代表を取消すことがある。
Ⅰ）アンチ・ドーピング規則に反した場合
2）故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合
3）本連盟が定める義務を遵守しない場合
（7）代表選手の決定から本大会までの期間が長いことに配慮し、ファイナルエントリーまでに正選手に故障などが生じた場合は、補欠が正選手となり本大会に出場する。
（8）天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
（9）本大会は、2020年７月31日～８月９日まで東京で開催される。

以上

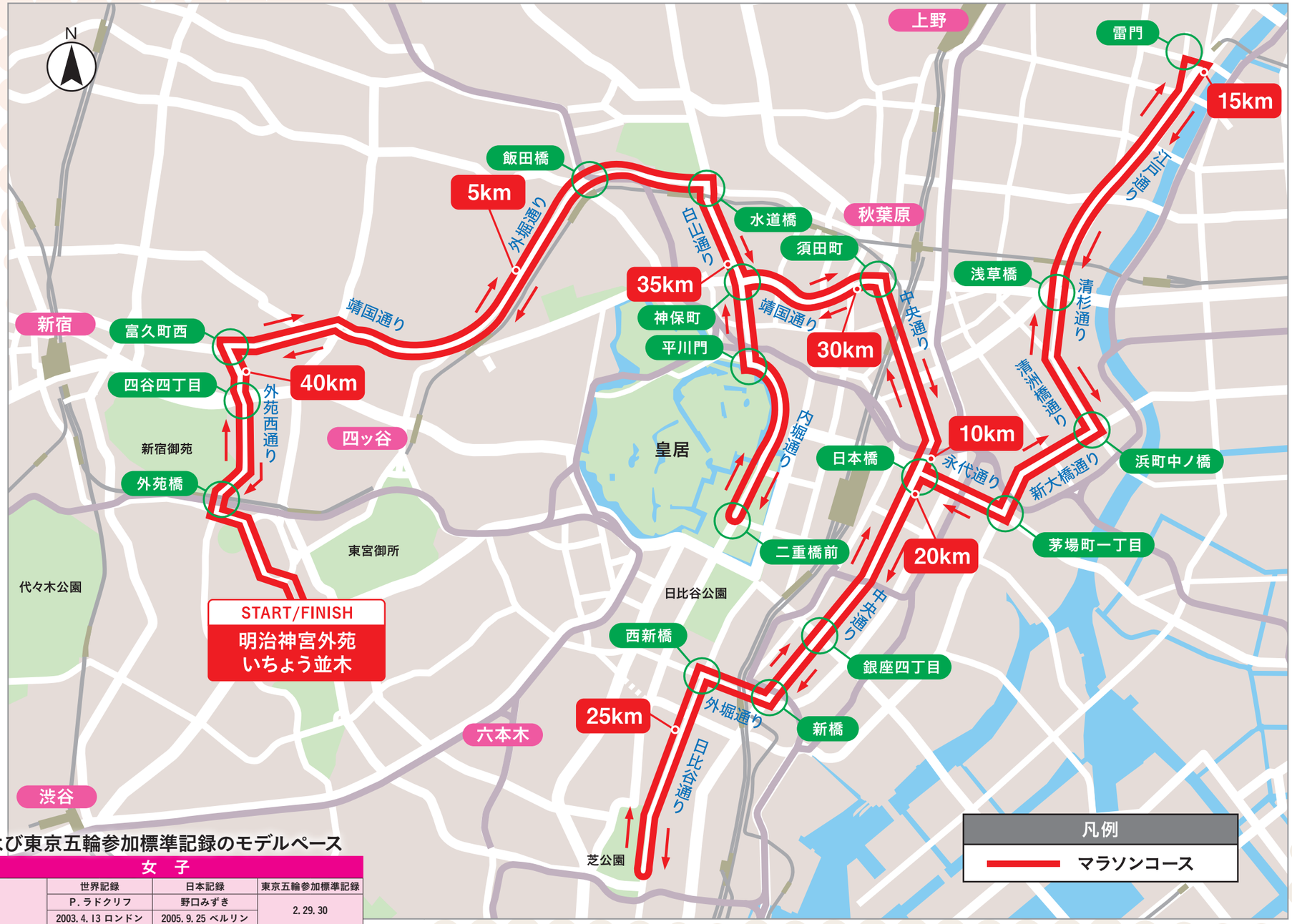
※Ⅰ
ＭＧＣシリーズ
【男子】
・第71回及び第72回福岡国際マラソン選手権大会
・東京マラソン2018及び2019
・第73回及び第74回びわ湖毎日マラソン大会
・第67回及び第68回別府大分毎日マラソン
・北海道マラソン2017及び2018
【女子】
・第３回及び第４回さいたま国際マラソン
・第37回及び第38回大阪国際女子マラソン大会
・名古屋ウィメンズマラソン2018及び2019
・北海道マラソン2017及び2018

COURSE MAP コースマップ

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP
この日、日本代表が決まる。

先頭通過予想タイム

km	男 子	女 子	地 点
0.0	8:50:00 AM	9:10:00 AM	神宮外苑いちょう並木
1.0	8:52:53 AM	9:13:20 AM	千駄ヶ谷JR中央総武線高架下
2.0	8:55:53 AM	9:16:40 AM	マンション新宿御苑前
3.0	8:58:53 AM	9:20:00 AM	住吉町交差点先
4.0	9:01:53 AM	9:23:20 AM	市ヶ谷八幡町交差点手前
5.0	9:04:55 AM	9:26:40 AM	家の光会館前
6.0	9:07:59 AM	9:30:00 AM	トヨタ自動車東京本社前
7.0	9:11:03 AM	9:33:20 AM	日本大学経済学部３号館前
8.0	9:14:07 AM	9:36:40 AM	BIG ECHO前
9.0	9:17:10 AM	9:40:00 AM	神田駅前交差点先
10.0	9:20:14 AM	9:43:20 AM	西川 東京駅前
11.0	9:23:14 AM	9:46:40 AM	蛎殻町交差点先
12.0	9:26:13 AM	9:50:00 AM	久松長交差点手前
13.0	9:29:12 AM	9:53:20 AM	ドトールコーヒー前
14.0	9:32:11 AM	9:56:40 AM	パークウェル蔵前手前
15.0	9:35:10 AM	10:00:00 AM	
16.0	9:38:07 AM	10:03:20 AM	桑田商店前
17.0	9:41:03 AM	10:06:40 AM	浅草橋南交差点手前
18.0	9:43:59 AM	10:10:20 AM	浜町公園前交差点先
19.0	9:46:56 AM	10:13:40 AM	小網町児童遊園横
20.0	9:49:54 AM	10:17:00 AM	日本橋二丁目交差点手前
21.0	9:52:50 AM	10:20:20 AM	銀座二丁目交差点手前
ハーフ	9:53:04 AM	10:20:40 AM	松屋銀座-地元商店会管理石碑横
22.0	9:56:00 AM	10:23:40 AM	新橋SNTビル横
23.0	9:59:08 AM	10:27:00 AM	片山ビル手前
24.0	10:02:16 AM	10:30:20 AM	黒龍堂本社横
25.0	10:05:23 AM	10:33:40 AM	三井倉庫前
26.0	10:08:15 AM	10:37:00 AM	新橋一丁目交差点
27.0	10:11:10 AM	10:40:20 AM	銀座二丁目交差点先
28.0	10:14:04 AM	10:43:40 AM	日本橋二丁目交差点
29.0	10:16:57 AM	10:47:00 AM	ゴルフパートナー前
30.0	10:19:51 AM	10:50:20 AM	淡路町交差点先
31.0	10:22:47 AM	10:53:40 AM	前川ビル横
32.0	10:25:43 AM	10:57:00 AM	丸の内署前
33.0	10:28:39 AM	11:00:25 AM	二重橋前交差点先
34.0	10:31:36 AM	11:03:50 AM	気象庁前交差点手前
35.0	10:34:32 AM	11:07:15 AM	ドトールコーヒー前
36.0	10:37:28 AM	11:10:40 AM	後楽橋交差点先
37.0	10:40:25 AM	11:14:05 AM	東京理科大学前
38.0	10:43:21 AM	11:17:35 AM	市ヶ谷見附交差点手前
39.0	10:47:18 AM	11:21:00 AM	合羽坂下交差点
40.0	10:50:15 AM	11:24:20 AM	四谷署前
41.0	10:53:15 AM	11:27:40 AM	大京町交差点
42.0	10:56:15 AM	11:31:00 AM	神宮外苑いちょう並木
42.195	10:56:50 AM	11:31:36 AM	神宮外苑いちょう並木



世界記録＆日本記録の通過タイムとスプリット、および東京五輪参加標準記録のモデルペース

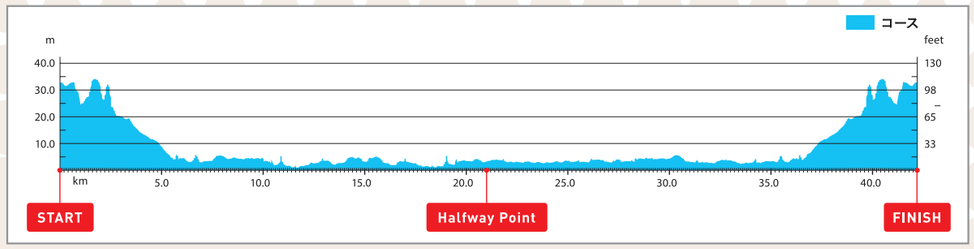
男 子

	世界記録		日本記録		東京五輪参加標準記録	
	E. キプチョゲ		大迫 傑		2. 11. 30	
	2018. 9. 16 ベルリン		2018. 10. 7 シカゴ			
5 km	14:24		14:53		15:35	
10km	29:01	14:37	30:12	15:19	31:10	15:35
15km	43:38	14:37	45:07	14:55	46:45	15:35
20km	57:56	14:18	59:51	14:44	1:02:20	15:35
ハーフ	1:01:06		1:03:04		1:05:45	
25km	1:12:24	14:28	1:15:19	15:28	1:17:55	15:35
30km	1:26:45	14:21	1:29:46	14:27	1:33:30	15:35
35km	※1:41:12	14:27	1:44:17	14:31	1:49:05	15:35
40km	1:55:32	14:20	1:58:59	14:43	2:04:40	15:35
フィニッシュ	2:01:39	6:07	2:05:50	6:51	2:11:30	6:50
後半	1:00:33		1:02:46		1:05:45	

女 子

	世界記録		日本記録		東京五輪参加標準記録	
	P. ラドクリフ		野口みずき		2. 29. 30	
	2003. 4. 13 ロンドン		2005. 9. 25 ベルリン			
5 km	15:48		16:24		17:43	
10km	32:01	16:13	32:53	16:29	35:26	17:43
15km	48:15	16:14	49:22	16:29	53:09	17:43
20km	1:04:28	16:13	1:05:43	16:21	1:10:52	17:43
ハーフ	1:08:02		1:09:19		1:14:45	
25km	1:20:34	16:06	1:22:13	16:30	1:28:35	17:43
30km	1:36:36	16:02	1:38:48	16:35	1:46:18	17:43
35km	1:52:34	15:58	1:55:19	16:31	2:04:00	17:42
40km	2:08:29	15:55	2:11:53	16:34	2:21:43	17:43
フィニッシュ	2:15:25	6:56	2:19:12	7:19	2:29:30	7:47
後半	1:07:23		1:09:53		1:14:45	

※印は推定タイム



マラソン 日本歴代記録＆世界歴代記録

8月20日現在
赤字がMGC出場者
D＝その後ドーピングにより出場停止

日本 男子

①	2.05.50	大迫　傑（Nike）	2018.10.7 シカゴ
②	2.06.11	設楽　悠太（Honda）	2018.2.25 東京
③	2.06.16	高岡　寿成（カネボウ）	2002.10.13 シカゴ
④	2.06.51	藤田　敦史（富士通）	2000.12.3 福岡
⑤	2.06.54	井上　大仁（MHPS）	2018.2.25 東京
⑥	2.06.57	犬伏　孝行（大塚製薬）	1999.9.26 ベルリン
⑦	2.07.13	佐藤　敦之（中国電力）	2007.12.2 福岡
⑧	2.07.27	服部　勇馬（トヨタ自動車）	2018.12.2 福岡
⑨	2.07.35	児玉　泰介（旭化成）	1986.10.19 北京国際
⑩	2.07.39	今井　正人（トヨタ自動車九州）	2015.2.22 東京
⑪	2.07.40	谷口　浩美（旭化成）	1988.10.16 北京国際
⑫	2.07.48	藤原　新（東京陸協）	2012.2.26 東京
⑬	2.07.52	油谷　繁（中国電力）	2001.3.4 びわ湖
〃	2.07.52	国近　友昭（エスビー食品）	2003.12.7 福岡
⑮	2.07.55	諏訪　利成（日清食品）	2003.12.7 福岡
⑯	2.07.57	伊藤　国光（鐘紡）	1986.10.19 北京国際
〃	2.07.57	藤本　拓（トヨタ自動車）	2018.10.7 シカゴ
⑱	2.07.59	森下　由輝（旭化成）	2001.3.4 びわ湖
⑲	2.08.00	前田　和浩（九電工）	2013.2.24 東京
⑳	2.08.05	三木　弘（旭化成）	1999.2.14 東京国際
㉑	2.08.07	早田　俊幸（アラコ）	1997.12.7 福岡
㉒	2.08.08	木滑　良（MHPS）	2018.2.25 東京
㉓	2.08.09	松村　康平（三菱重工長崎）	2014.2.23 東京
㉔	2.08.12	藤原　正和（中大4+）	2003.3.2 びわ湖
㉕	2.08.14	川内　優輝（埼玉県庁）	2013.3.17 ソウル国際
㉖	2.08.15	中山　竹通（ダイエー）	1985.4.14 W杯（広島）
㉗	2.08.16	中村　匠吾（富士通）	2018.9.16 ベルリン
㉘	2.08.18	小島　忠幸（旭化成）	2004.3.7 びわ湖
㉙	2.08.24	堀端　宏行（旭化成）	2012.12.2 福岡
㉚	2.08.27	瀬古　利彦（エスビー食品）	1986.10.26 シカゴ
㉛	2.08.28	清水　康次（ＮＴＴ西日本）	2003.3.2 びわ湖
㉜	2.08.35	武井　隆次（エスビー食品）	2002.3.3 びわ湖
〃	2.08.35	中本健太郎（安川電機）	2013.2.3 別府大分
㉞	2.08.36	大崎　悟史（ＮＴＴ西日本）	2008.3.2 びわ湖
㉟	2.08.37	尾方　剛（中国電力）	2003.12.7 福岡
㊱	2.08.42	山本　憲二（マツダ）	2019.3.10 びわ湖
㊲	2.08.43	小島　宗幸（旭化成）	1998.3.Ⅰ びわ湖
㊳	2.08.44	山本　亮（佐川急便）	2012.3.4 びわ湖
㊴	2.08.45	西田　隆維（エスビー食品）	2001.2.4 別府大分
〃	2.08.45	宮脇　千博（トヨタ自動車）	2018.2.25 東京
㊶	2.08.47	佐保　希（旭化成）	1997.12.7 福岡
㊷	2.08.48	佐藤　信之（旭化成）	1998.12.6 福岡
㊸	2.08.49	奥谷　亘（SUBARU）	2006.12.3 福岡
㊹	2.08.50	実井謙二郎（日清食品）	1996.2.12 東京国際
㊺	2.08.51	小林　光二（SUBARU）	2014.2.23 東京
㊻	2.08.52	帯刀　秀幸（富士通）	2001.3.4 びわ湖
㊼	2.08.53	森下　広一（旭化成）	1991.2.3 別府大分
㊽	2.08.54	大西　雄三（日清食品）	2008.3.2 びわ湖
㊾	2.08.55	宗　猛（旭化成）	1983.2.13 東京国際
㊿	2.08.56	高塚　和利（小森コーポレーション）	2004.3.7 びわ湖
〃	2.08.56	佐々木　悟（旭化成）	2015.12.6 福岡

世界 男子

①	2.01.39	E.キプチョゲ（ケニア）	2018.9.16 ベルリン
②	2.02.55	M.ゲレメウ（エチオピア）	2019.4.28 ロンドン
③	2.02.57	D.キメット（ケニア）	2014.9.28 ベルリン
④	2.03.03	K.ベケレ（エチオピア）	2016.9.25 ベルリン
⑤	2.03.13	E.ムタイ（ケニア）	2014.9.28 ベルリン
〃	2.03.13	W.キプサング（ケニア）	2016.9.25 ベルリン
⑦	2.03.16	M.ワシフン（エチオピア）	2019.4.28 ロンドン
⑧	2.03.34	G.モーラ（エチオピア）	2019.Ⅰ.25 ドバイ
⑨	2.03.38	P.マカウ（ケニア）	2011.9.25 ベルリン
⑩	2.03.40	H.ネガサ（エチオピア）	2019.Ⅰ.25 ドバイ
⑪	2.03.46	G.アドラ（エチオピア）	2017.9.24 ベルリン
⑫	2.03.51	S.ビウォット（ケニア）	2016.4.24 ロンドン
⑬	2.03.59	H.ゲブルセラシェ（エチオピア）	2008.9.28 ベルリン
⑭	2.04.02	L.ゲブルセラシェ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
⑮	2.04.06	タミラト・トーラ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
〃	2.04.06	A.メンギストゥ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
〃	2.04.06	L.チェロノ（ケニア）	2018.10.21 アムステルダム
⑱	2.04.08	S.レンマ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
⑲	2.04.11	M.キプセレム（ケニア）	2019.4.7 ロッテルダム
⑳	2.04.15	G.ムタイ（ケニア）	2012.9.30 ベルリン
〃	2.04.15	B.レゲッセ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
㉒	2.04.23	A.アブシェロ（エチオピア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
㉓	2.04.24	T.アベラ（エチオピア）	2016.Ⅰ.22 ドバイ
㉔	2.04.27	D.キベト（ケニア）	2009.4.5 ロッテルダム
〃	2.04.27	J.クワンバイ（ケニア）	2009.4.5 ロッテルダム
㉖	2.04.28	S.キトワラ（ケニア）	2014.10.12 シカゴ
㉗	2.04.32	T.メコネン（エチオピア）	2014.Ⅰ.24 ドバイ
〃	2.04.32	D.チュンバ（ケニア）	2014.10.12 シカゴ
㉙	2.04.33	L.ベルハヌ（エチオピア）	2016.Ⅰ.22 ドバイ
㉚	2.04.38	T.ケベデ（エチオピア）	2012.10.7 シカゴ
㉛	2.04.40	S.デクシサ（エチオピア）	2018.10.21 アムステルダム
㉜	2.04.43	E.H.エル・アバッシ（バーレーン）	2018.12.2 バレンシア
㉝	2.04.44	A.トゥラ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
㉞	2.04.45	L.デシサ（エチオピア）	2013.Ⅰ.25 ドバイ
㉟	2.04.46	T.エキル（ケニア）	2019.4.7 ミラノ
㊱	2.04.48	Y.ツェガエ（エチオピア）	2012.4.15 ロッテルダム
〃	2.04.48	B.シフェラウ（エチオピア）	2013.Ⅰ.25 ドバイ
㊳	2.04.49	タデッセ・トーラ（エチオピア）	2013.Ⅰ.25 ドバイ
〃	2.04.49	T.シュラ（エチオピア）	2018.4.22 ロンドン
㊵	2.04.50	D.セフィル（エチオピア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
〃	2.04.50	G.フェレケ（エチオピア）	2012.4.15 ロッテルダム
㊷	2.04.52	F.リレサ（エチオピア）	2012.10.7 シカゴ
〃	2.04.52	E.ネゲセ（エチオピア）	2013.Ⅰ.25 ドバイ
㊹	2.04.53	B.コエチ（ケニア）	2013.Ⅰ.25 ドバイ
〃	2.04.53	M.キソリオ（ケニア）	2018.12.2 バレンシア
㊻	2.04.54	M.ゲネティ（エチオピア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
㊼	2.04.55	P.テルガト（ケニア）	2003.9.28 ベルリン
㊽	2.04.56	S.コリル（ケニア）	2003.9.28 ベルリン
〃	2.04.56	J.マイヨ（ケニア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
㊿	2.05.02	E.サイナ（ケニア）	2019.Ⅰ.25 ドバイ

※下りコース

2.03.02		G.ムタイ（ケニア）	2011.4.18 ボストン
2.03.06		M.モソプ（ケニア）	2011.4.18 ボストン
2.04.53		G.ゲブレマリアム（エチオピア）	2011.4.18 ボストン
2.04.58		R.ホール（米国）	2011.4.18 ボストン

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP
この日、日本代表が決まる。

日本 女子

①	2.19.12	野口みずき（グローバリー）	2005.9.25 ベルリン
②	2.19.41	渋井　陽子（三井住友海上）	2004.9.26 ベルリン
③	2.19.46	高橋　尚子（積水化学）	2001.9.30 ベルリン
④	2.21.36	安藤　友香（スズキ浜松ＡＣ）	2017.3.12 名古屋
⑤	2.21.45	千葉　真子（豊田自動織機）	2003.Ⅰ.26 大阪
⑥	2.21.51	坂本　直子（天満屋）	2003.Ⅰ.26 大阪
⑦	2.22.12	山口　衛里（天満屋）	1999.11.21 東京国際
⑧	2.22.17	福士加代子（ワコール）	2016.Ⅰ.31 大阪
⑨	2.22.23	松田　瑞生（ダイハツ）	2018.9.16 ベルリン
⑩	2.22.46	土佐　礼子（三井住友海上）	2002.4.14 ロンドン
⑪	2.22.48	前田　彩里（ダイハツ）	2015.3.8 名古屋
⑫	2.22.56	弘山　晴美（資生堂）	2000.Ⅰ.30 大阪
⑬	2.23.07	関根　花観（日本郵政グループ）	2018.3.11 名古屋
⑭	2.23.19	田中　智美（第一生命）	2016.3.13 名古屋
⑮	2.23.20	小原　怜（天満屋）	2016.3.13 名古屋
⑯	2.23.23	重友　梨佐（天満屋）	2012.Ⅰ.29 大阪
⑰	2.23.26	大南　博美（ＵＦＪ銀行）	2004.9.26 ベルリン
⑱	2.23.30	小﨑　まり（ノーリツ）	2003.Ⅰ.26 大阪
〃	2.23.30	尾崎　好美（第一生命）	2008.11.16 東京国際
⑳	2.23.34	木﨑　良子（ダイハツ）	2013.3.10 名古屋
㉑	2.23.43	大南　敬美（ＵＦＪ銀行）	2002.4.21 ロッテルダム
㉒	2.23.47	清田　真央（スズキ浜松ＡＣ）	2017.3.12 名古屋
㉓	2.23.48	原　裕美子（京セラ）	2007.Ⅰ.28 大阪
〃	2.23.48	前田　穂南（天満屋）	2018.Ⅰ.28 大阪
㉕	2.23.52	岩出　玲亜（アンダーアーマー）	2019.3.10 名古屋
㉖	2.24.09	赤羽有紀子（ホクレン）	2011.4.17 ロンドン
㉗	2.24.19	上原　美幸（第一生命グループ）	2019.3.10 名古屋
㉘	2.24.25	大島めぐみ（しまむら）	2005.3.13 名古屋国際
㉙	2.24.27	加納　由理（セカンドウインドAC）	2008.11.16 東京国際
㉚	2.24.28	中里　麗美（ダイハツ）	2012.3.11 名古屋
㉛	2.24.33	松岡　理恵（天満屋）	2002.4.7 パリ
〃	2.24.33	森本　友（天満屋）	2006.5.7 ウィーン
〃	2.24.33	一山　麻緒（ワコール）	2019.3.3 東京
㉞	2.24.42	伊藤　舞（大塚製薬）	2015.3.8 名古屋
㉟	2.24.54	江田　良子（ヤマダ電機）	2005.3.13 名古屋国際
㊱	2.24.57	野尻あずさ（第一生命）	2012.Ⅰ.29 大阪
㊲	2.25.09	桑原　彩（積水化学）	2016.3.13 名古屋
㊳	2.25.10	嶋原　清子（セカンドウインドAC）	2009.8.30 北海道
㊴	2.25.14	小幡佳代子（営団地下鉄）	2000.Ⅰ.30 大阪
㊵	2.25.21	橋本　康子（セガサミー）	2005.3.13 名古屋国際
㊶	2.25.28	谷本　観月（天満屋）	2019.3.10 名古屋
㊷	2.25.29	竹地　志帆（ヤマダ電機）	2016.3.13 名古屋
㊸	2.25.31	早川　英里（ＴＯＴＯ）	2014.3.9 名古屋
㊹	2.25.38	那須川瑞穂（アルゼＡＣ）	2009.3.22 東京
㊺	2.25.40	藤永　佳子（資生堂）	2011.4.17 ロンドン
㊻	2.25.44	堀江　美里（ノーリツ）	2017.Ⅰ.29 大阪
㊼	2.25.51	中村友梨香（天満屋）	2008.3.9 名古屋国際
㊽	2.25.52	朝比奈三代子（旭化成）	1994.4.17 ロッテルダム
㊾	2.25.56	渡邊　裕子（エディオン）	2013.Ⅰ.27 大阪
㊿	2.26.01	松尾　和美（天満屋）	2001.3.11 名古屋国際

※片道コース

2.21.47	高橋　尚子（積水化学）	1998.12.6	アジア大会（バンコク）

世界 女子

①	2.15.25	P.ラドクリフ（英国）	2003.4.13 ロンドン
②	2.17.01	M.ケイタニー（ケニア）	2017.4.23 ロンドン
③	2.17.08	R.チェプンゲティチ（ケニア）	2019.Ⅰ.25 ドバイ
④	2.17.41	W.デゲファ（エチオピア）	2019.Ⅰ.25 ドバイ
⑤	2.17.56	T.ディババ（エチオピア）	2017.4.23 ロンドン
⑥	2.18.11	G.チェロノ（ケニア）	2018.9.16 ベルリン
⑦	2.18.20	B.コスゲイ（ケニア）	2019.4.28 ロンドン
⑧	2.18.31	V.チェルイヨット（ケニア）	2018.4.22 ロンドン
⑨	2.18.34	R.アガ（エチオピア）	2018.9.16 ベルリン
⑩	2.18.47	C.ヌデレバ（ケニア）	2001.10.7 シカゴ
⑪	2.18.58	T.ゲラナ（エチオピア）	2012.4.15 ロッテルダム
⑫	2.19.12	野口みずき（グローバリー）	2005.9.25 ベルリン
⑬	2.19.17	R.デレジェ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
⑭	2.19.19	Ⅰ.ミキテンコ（ドイツ）	2008.9.28 ベルリン
⑮	2.19.30	F.タデッセ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
⑯	2.19.31	A.メルギア（エチオピア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
⑰	2.19.34	L.ワングイ・カブー（ケニア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
⑱	2.19.36	D.カスター（米国）	2006.4.23 ロンドン
〃	2.19.36	Y.メレセ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
⑳	2.19.39	孫 英 傑／スン・インチエ（中国） D	2003.10.19 北京国際
㉑	2.19.41	渋井陽子（三井住友海上）	2004.9.26 ベルリン
〃	2.19.41	T.ツェガエ（エチオピア）	2016.Ⅰ.22 ドバイ
㉓	2.19.44	F.キプラガト（ケニア）	2011.9.25 ベルリン
㉔	2.19.46	高橋尚子（積水化学）	2001.9.30 ベルリン
〃	2.19.46	L.チェムタイ・サルペーター（イスラエル）	2019.5.5 プラハ
㉖	2.19.47	S.チェプチルチル（ケニア）	2017.2.26 東京
㉗	2.19.50	E.キプラガト（ケニア）	2012.4.22 ロンドン
㉘	2.19.51	周 春 秀／ツォウ・チュンシュウ（中国）	2006.3.12 ソウル国際
〃	2.19.51	B.ディババ（エチオピア）	2018.2.25 東京
㉚	2.19.52	M.ディババ（エチオピア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
㉛	2.19.57	R.ジェプトゥー（ケニア） D	2013.10.13 シカゴ
㉜	2.20.13	H.テスファイ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
㉝	2.20.14	P.ジェプトゥー（ケニア）	2012.4.22 ロンドン
㉞	2.20.30	B.ベケレ（エチオピア）	2012.Ⅰ.27 ドバイ
〃	2.20.30	A.ケベデ（エチオピア）	2012.9.30 ベルリン
㊱	2.20.36	M.アセファ（エチオピア）	2018.10.28 フランクフルト
㊲	2.20.42	B.アデレ（エチオピア）	2006.10.22 シカゴ
㊳	2.20.43	T.ロルーペ（ケニア）	1999.9.26 ベルリン
㊴	2.20.45	G.ブルカ（エチオピア）	2018.Ⅰ.26 ドバイ
㊵	2.20.47	G.ボゴモロワ（ロシア）	2006.10.22 シカゴ
㊶	2.20.48	J.スムゴング（ケニア） D	2013.10.13 シカゴ
〃	2.20.48	A.ベリソ（エチオピア）	2016.Ⅰ.22 ドバイ
㊸	2.20.53	V.アイヤベイ（ケニア）	2017.9.24 ベルリン
㊹	2.20.55	P.リオノリポ（ケニア）	2017.4.9 パリ
㊺	2.20.57	J.ハセイ（米国）	2017.10.8 シカゴ
㊻	2.20.59	S.デミセ（エチオピア）	2015.Ⅰ.23 ドバイ
〃	2.20.59	A.バルソシオ（ケニア）	2017.4.9 パリ
㊽	2.21.01	M.メルカム（エチオピア）	2012.10.28 フランクフルト
〃	2.21.01	H.トーラ（エチオピア）	2019.3.3 東京
㊿	2.21.05	W.エデサ（エチオピア）	2019.Ⅰ.25 ドバイ

※下りコース

2.18.57		R.ジェプトゥー（ケニア） D	2014.4.21 ボストン
2.19.59		B.デバ（エチオピア）	2014.4.21 ボストン
2.20.41		J.スムゴング（ケニア） D	2014.4.21 ボストン
2.20.43		M.オカヨ（ケニア）	2002.4.15 ボストン

MARATHON GRAND CHAMPIONSHIP

OFFICIAL SPONSOR

特別協賛

東京メトロ

協賛

バイトル

ANESSA

asics

SUBARU

協力

近畿日本ツーリスト

シミズオクト

過酷な紫外線に挑む、アスリートを支える。

BEST FOR SPORTS.

強力UV　ベタつきゼロ*　被膜感ゼロ*

ANESSA

＊ 資生堂調べ　定量調査(N=100)でアネッサを使用した100人中100人が『べたつき、被膜感がない』と回答

東京のいろんな街に行くたび思う。
東京には、ホント、いろんな人がいる。
昔から住んでいる人。最近、引っ越してきた人。
働く人。学ぶ人。遊ぶ人。日本の人。外国の人。
そして、その一人一人が、一つ一つの街に、いろんな想いを抱いている。

だから、聞いてみたい。
あなたの、その街への想いを。なんでその街が好きなのか。
私にもあるよ。
それぞれの街に、好きな場所、好きな人、好きな時間が。

きっとその答えは、お互いに違っていて、だからこそ発見がある。
一人では気付けなかった、その街のあたらしい魅力が見えてくる。

この街には何もない。って言う人もいるけど、絶対そんなはずない。
ささやかでもいい。ちょっと変でもいい。超個人的でもいい。
あなたの「好き」を教えてほしい。
そんな話をしているうちに、
その街とあなたを、もっと好きになれるから。

メトロでひびきあう、ひとりひとりの東京。

Find my Tokyo.

東京メトロ